



HONDA

ACCORD

OWNER'S GUIDE

オーナーズガイド

このオーナーズガイドは基本的な操作、安全に関する情報、万一の場合に必要な情報が掲載された簡易取扱説明書です。詳しい取扱情報は詳細取扱説明書に掲載されていますので、車両にお乗りになる際には、詳細取扱説明書もお読みください。

■詳細取扱説明書のご案内

Honda ホームページにて、詳細取扱説明書を電子データ形式（HTML 版/PDF 版）で、ご提供しています。

取扱説明書の提供ページで、モデル名と年式を選択し、閲覧をしてください。

取扱説明書の提供ページ

<https://www.honda.co.jp/ownersmanual/HondaMotor/auto/>

なお、Honda ホームページからは、検索ボックスに『取説』と入力することで、この提供ページを検索できます。

QR コード読み取り機能付のスマートフォンやタブレット PC をお持ちの場合は、右の QR コードをご利用ください。

ご利用にあたっては、お持ちのスマートフォンやタブレット PC 取扱説明書をご確認ください。



また、紙書籍版の詳細取扱説明書は、Honda 販売店にて、ご購入いただけます。ご購入を希望される方は、Honda 販売店にご相談ください。

検索のしかた

本書に記載の内容を探すにあたって、下記の検索方法を設けています。

1 ビジュアル目次

車両のイメージイラストに装備名称とその装備の説明ページ番号を記載しています。名称が分からない装備を調べるときや、装備の取付位置から内容を調べたいときにご利用ください。

2 目次

本書の各章と記載内容をページ番号順に記載しています。本書の記載内容から調べたいときにご利用ください。

3 索引

装備名称や本書の記載内容を数字・アルファベット・五十音順に記載しています。装備名称や記載内容から調べたいときにご利用ください。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

危険

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの

警告

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

注意

指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス

お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

サービス診断記録装置について

この車には、システムを制御するためのコンピューターが搭載されており、次の内容をデータとして記録します。

- エアバッグシステムの故障診断情報
- エアバッグの作動に関する情報
- 動力伝達機構の状態
- 運転状態

Honda および Honda が委託した第三者は、記録されたデータを技術的な診断や Honda の車両の研究開発のために、取得、利用することがあります。

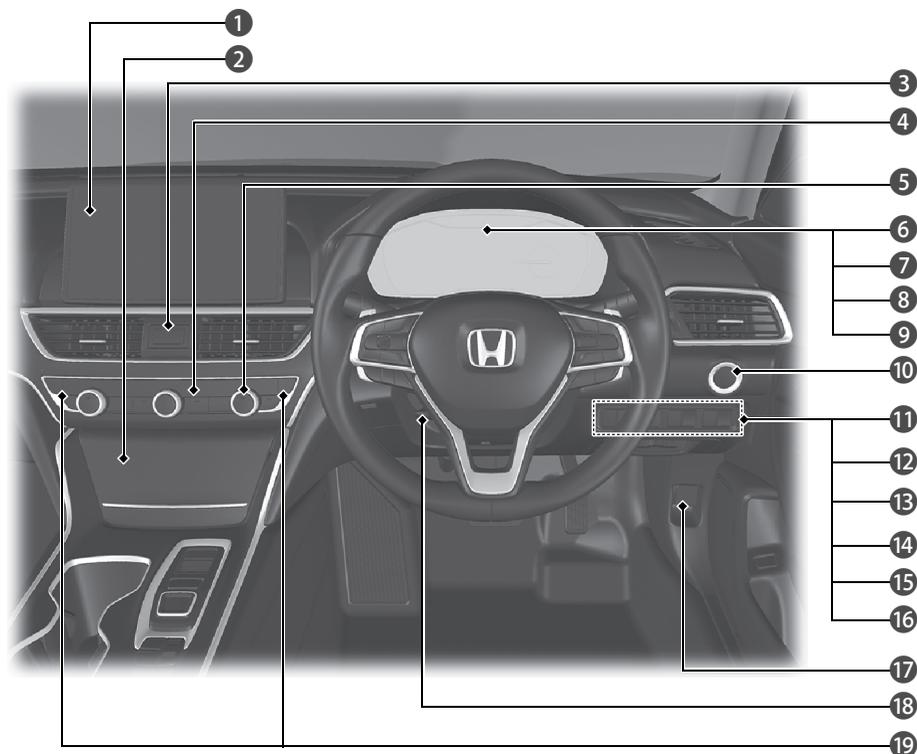
なお、会話等の音声や映像は記録されません。

データの開示について

Honda および Honda が委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示、提供することはありません。

- お車の所有者または使用者の同意がある場合
- 裁判所命令等、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、使用者や車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

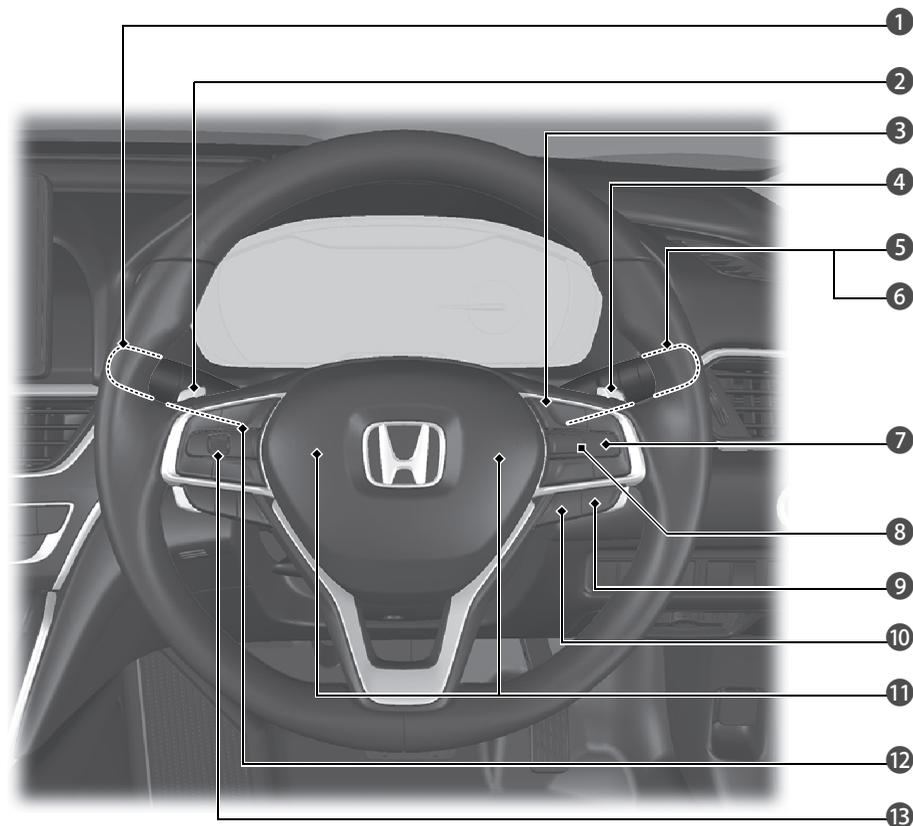
ビジュアル目次



- ① Honda インターナビシステム*
- ② センターポケット
- ③ 非常点滅表示灯(ハザードスイッチ)
- ④ リヤデフロスター/ヒータードアミラースイッチ (P. 114)
- ⑤ オートエアコン (P. 132)
- ⑥ メーター
- ⑦ 警告灯 (P. 47)
- ⑧ 表示灯 (P. 58)
- ⑨ マルチインフォメーションディスプレイ (P. 81)
- ⑩ POWER スイッチ (P. 104)
- ⑪  (VSA OFF) ボタン (P. 147)
- ⑫ 安全支援情報ボタン (P. 148, P. 159, P. 166, P. 168, P. 192)
- ⑬ パーキングセンサーシステムボタン (P. 216)
- ⑭ TRIP ボタン (P. 82)
- ⑮  ボタン(イルミネーションコントロール) (P. 114)
- ⑯ ヘッドアップディスプレイボタン (P. 115)
- ⑰ ボンネット解除ノブ (P. 227)
- ⑱ ハンドル位置調節レバー (P. 116)
- ⑲ シートヒータースイッチ (P. 129)

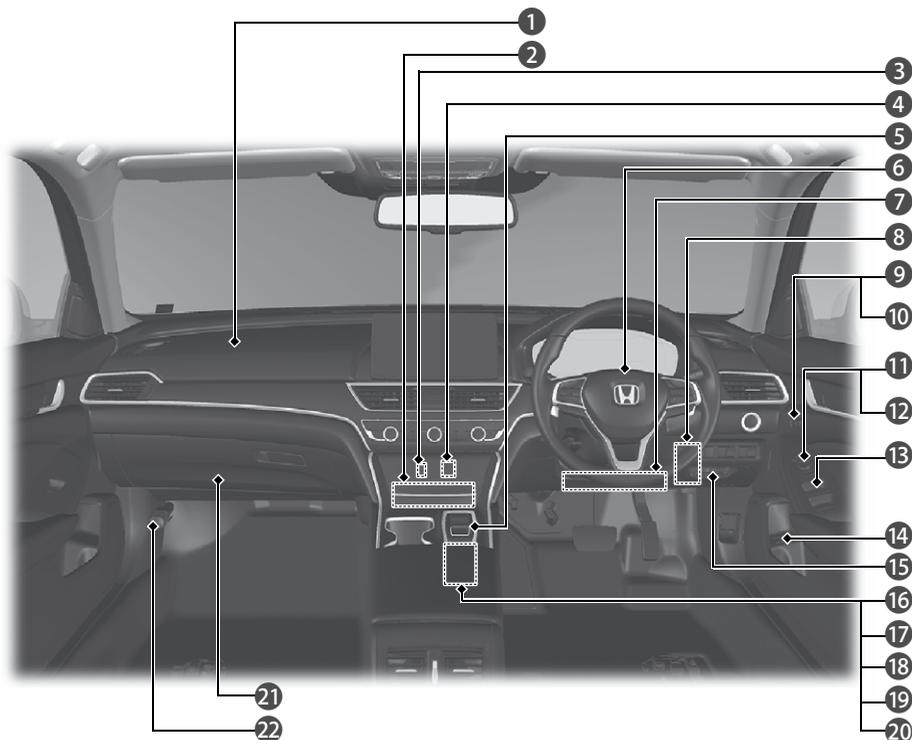
※: 別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書を参照してください。

参照ページの記載がない装備については詳細取扱説明書 (HTML 版) を参照してください。



- | | |
|-------------------------------------|--|
| ① ワイパー/ ウォッシャースイッチ (P. 112) | ⑦ 渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)スイッチ (P. 172) |
| ② 減速セレクター(-) (P. 143) | ⑧ MAIN スイッチ (P. 172) |
| ③ HUD スイッチ (P. 90) | ⑨ LKAS スイッチ (P. 185) |
| ④ 減速セレクター(+) (P. 143) | ⑩ ディスタンススイッチ (P. 178) |
| ⑤ 方向指示器(ウィンカー)/
ライトスイッチ (P. 105) | ⑪ ホーンスイッチ (周囲) |
| ⑥ フォグライトスイッチ (P. 106) | ⑫ 家アイコンスイッチ (P. 81) |
| | ⑬ レフトセレクターホイール (P. 81) |

参照ページの記載がない装備については詳細取扱説明書 (HTML 版) を参照してください。

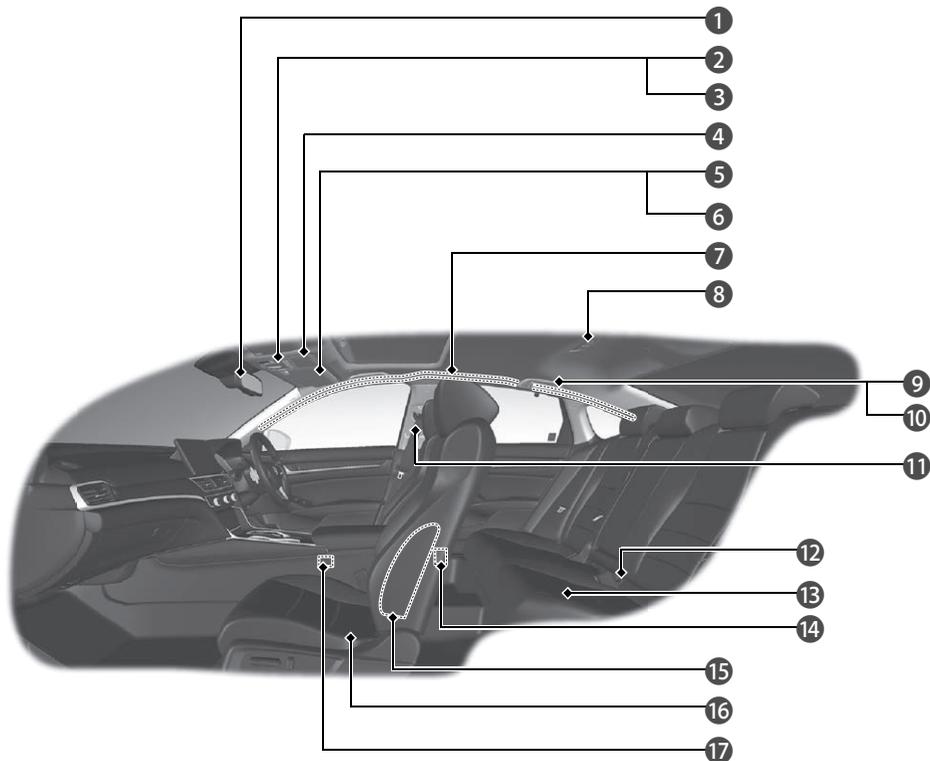


- | | |
|----------------------------------|------------------------------------|
| ① SRS エアバッグシステム(助手席用)
(P. 19) | ⑫ マスタードアロックスイッチ
(P. 96) |
| ② ワイヤレス充電器 (P. 128) | ⑬ パワーウィンドースイッチ (P. 100) |
| ③ USB ジャック※ ¹ | ⑭ トランクオープナー |
| ④ アクセサリーソケット | ⑮ ETC 車載器※ ² |
| ⑤ シフトポジションスイッチ (P. 140) | ⑯ パーキングブレーキスイッチ
(P. 204) |
| ⑥ SRS エアバッグシステム(運転席用)
(P. 19) | ⑰ オートマチックブレーキホールド
スイッチ (P. 208) |
| ⑦ 運転席 ニーエアバッグシステム
(P. 21) | ⑱ EV スイッチ |
| ⑧ 室内のヒューズボックス (P. 264) | ⑲ ドライブモードスイッチ (P. 145) |
| ⑨ メモリーボタン (P. 115) | ⑳ ECON スイッチ (P. 144) |
| ⑩ セットボタン (P. 115) | ㉑ グローブボックス (P. 124) |
| ⑪ ドアミラー調節スイッチ (P. 117) | ㉒ 非常信号灯 (P. 242) |

※1: 別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書を参照してください。

※2: ETC 車載器については、別冊の取扱説明書を参照してください。

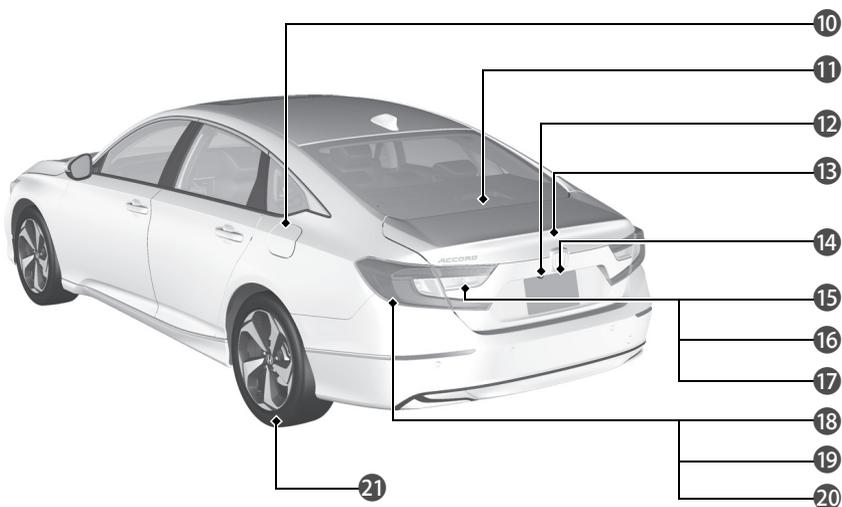
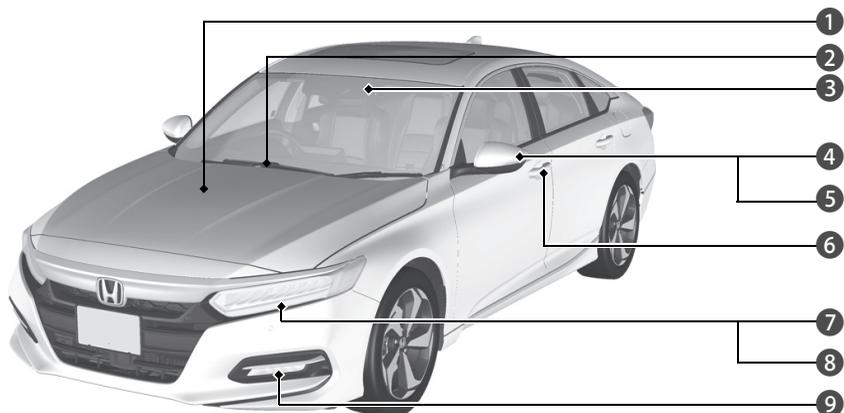
参照ページの記載がない装備については詳細取扱説明書 (HTML 版) を参照してください。



- | | |
|----------------------------|------------------------------|
| ① ルームミラー (P. 117) | ⑨ グラブレール |
| ② 室内灯 / 前席マップランプ | ⑩ コートフック (P. 125) |
| ③ サンルーフスイッチ (P. 103) | ⑪ シートベルト (P. 13) |
| ④ サングラスボックス (P. 126) | ⑫ ISOFIX/i-Size 取付装置 (P. 39) |
| ⑤ サンバイザー | ⑬ リヤシート (P. 120) |
| ⑥ バニティミラー | ⑭ 充電専用 USB ジャック (P. 128) |
| ⑦ サイドカーテンエアバッグシステム (P. 25) | ⑮ サイドエアバッグシステム (P. 23) |
| ⑧ 後席マップランプ | ⑯ フロントシート (P. 118) |
| | ⑰ USB ジャック* |

※: 別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書を参照してください。

参照ページの記載がない装備については詳細取扱説明書 (HTML 版) を参照してください。



- | | |
|--|--------------------------|
| ① エンジンルーム内のメンテナンス (P. 226) | ⑪ ハイマウントストップランプ (P. 233) |
| ② ワイパー (P. 112, P. 234) | ⑫ リアワイドカメラシステム (P. 220) |
| ③ フロントセンサーカメラ (P. 201) | ⑬ トランクの開閉 (P. 97) |
| ④ ドアミラー (P. 117) | ⑭ 番号灯 (P. 233) |
| ⑤ ドアミラーウィンカー (P. 230) | ⑮ 後退灯 (P. 232) |
| ⑥ ドアの施錠 / 解錠 (P. 91) | ⑯ 尾灯 (P. 230) |
| ⑦ ヘッドライト (P. 105, P. 230) | ⑰ 制動灯 (P. 230) |
| ⑧ デイタイムランニングライト / 車幅灯 (P. 106, P. 230) | ⑱ 尾灯 (P. 230) |
| ⑨ フォグライト (P. 230) | ⑲ ウィンカー (P. 230) |
| ⑩ 給油のしかた (P. 221) | ⑳ 制動灯 (P. 230) |
| | ㉑ タイヤ (P. 236) |

■はじめに	1	■計器の見かた	45
検索のしかた	1	警告灯と表示灯	45
安全に関する表示	2	警告灯	47
その他の表示	2	表示灯	58
サービス診断記録装置について ..	3	マルチインフォメーション	
データの開示について	3	ディスプレイのメッセージ.....	64
■安全なドライブ	12	メーターとマルチインフォメーション	
安全なドライブのために	12	ディスプレイ	80
安全のための確認事項	12	マルチインフォメーション	
シートベルト	13	ディスプレイ.....	81
シートベルトについて	13	ヘッドアップディスプレイ	89
シートベルトの着用	15	エコアシストシステム	90
シートベルトの点検	18	■各部の操作	91
シートベルトのアンカー		ドアの施錠と解錠	91
ポイント	18	キー	91
エアバッグ	19	Honda スマートキーの	
エアバッグの種類	19	微弱電波.....	92
SRS エアバッグ.....	19	車外でのドアの施錠 / 解錠	93
運転席ニーエアバッグ	21	車内での施錠 / 解錠	95
サイドエアバッグ	23	チャイルドプルーフ	96
サイドカーテンエアバッグ	25	オートドアロック / オートドア	
エアバッグシステム警告灯	26	アンロック.....	96
エアバッグのお手入れ	27	トランクの開閉	97
ポップアップフードシステム ..	28	トランク開閉時の注意	97
ポップアップフードシステムの		セキュリティシステム	98
しくみ	28	イモビライザーシステム	98
ポップアップフードシステムの		セキュリティアラーム	
お手入れ	30	システム.....	98
お子さまの安全	31	ウィンドーの開閉	100
お子さまの安全を守るために ..	31	パワーウィンドーの開閉	100
乳幼児の安全	32	サンルーフ	102
大きなお子さまの安全	42	サンルーフの開閉	102
排気ガスの危険性	44	ハンドルまわりの	
一酸化炭素について	44	スイッチ操作	104
		POWER スイッチ	104
		ライトの使いかた	105
		アクティブコーナリング	
		ライト.....	107
		オートハイビーム	108
		ワイパー / ウォッシャー	112
		リヤデフロスター / ヒーテッド	
		ドアミラースイッチ.....	114

イルミネーション		高電圧バッテリーの特性 ……	150
コントロール ……	114	ご使用時の注意 ……	150
ドライビングポジション		EV スイッチ ……	151
システム ……	115	ハイブリッド車特有の音に	
ハンドルの調節 ……	116	ついて ……	152
ミラー類の調節 ……	117	ホンダセンシング ……	153
ルームミラー ……	117	各機能を作動させるためのスイッチ	
ドアミラー ……	117	と表示 ……	154
シートの調節 ……	118	衝突軽減ブレーキ (CMBS) ……	155
フロントシート ……	118	誤発進抑制機能 ……	162
リヤシート ……	120	後方誤発進抑制機能 ……	164
ヘッドレスト ……	122	歩行者事故低減	
アームレスト ……	123	ステアリング ……	166
室内装備品 ……	124	渋滞追従機能付 ACC	
室内灯 ……	124	(アダプティブ・クルーズ・	
収納装備 ……	124	コントロール) ……	170
その他の室内装備品 ……	127	LKAS (車線維持支援	
エアコン ……	131	システム) ……	183
エアコンの吹き出し口 ……	131	路外逸脱抑制機能 ……	190
オートエアコンの使いかた ……	132	先行車発進お知らせ機能 ……	194
オートエアコンのセンサー ……	132	標識認識機能 ……	196
オーディオ ……	133	フロントセンサーカメラ ……	201
オーディオ装置 ……	133	レーダーセンサー ……	202
運転 ……	134	ソナーセンサー ……	203
運転の前に ……	134	ブレーキ操作 ……	204
運転の準備 ……	134	ブレーキシステム ……	204
運転操作 ……	137	ABS (アンチロックブレーキ	
パワーシステムの起動 ……	137	システム) ……	210
走行時の注意点 ……	139	電子制御ブレーキアシスト ……	211
トランスミッションに		エマージェンシーストップ	
ついて ……	139	シグナル ……	211
シフト操作 ……	140	駐停車操作 ……	212
減速セレクター ……	143	駐車する ……	212
ECON スイッチ ……	144	後退出庫サポート ……	213
ドライブモードスイッチ ……	145	パーキングセンサー	
車両接近通報装置 ……	146	システム ……	216
VSA (ビークルスタビリティ		リアワイドカメラシステム ……	220
アシスト) ……	146	給油 ……	221
アジャイルハンドリング		給油のしかた ……	221
アシスト ……	147		
ブラインドスポット			
インフォメーション ……	147		

■メンテナンス	224	タイヤのローテーション	238
メンテナンスの前に	224	冬期のタイヤ	239
点検整備について	224	Honda スマートキーの取り扱いと	
メンテナンスを安全に		電池交換	239
行うために	225	清掃	240
エンジンルーム内の		アクセサリと改造	241
メンテナンス	226	アクセサリ	241
エンジンルーム内のメンテナンス		改造や部品交換について	241
項目	226	■万一の場合には	242
ボンネットを開ける	227	非常信号灯	242
推奨エンジンオイル	228	パンクしたとき	243
ウィンドウォッシャー液の		パンクしたタイヤの	
補給	229	応急修理	243
電球の交換	230	ジャッキの取り扱い	252
ヘッドライト電球	230	ジャッキのかけかた	252
前面方向指示器 / 前面非常点滅		パワーシステムが起動しない	254
表示灯電球	230	パワーシステムの確認	254
フォグライト電球	230	Honda スマートキーの電池が	
デイトタイムランニングライト /		切れたとき	256
車幅灯電球	230	緊急時のパワーシステム	
アクティブコーナリングライト		停止方法	256
電球	230	ジャンプスタート	257
側面方向指示器 / 側面非常点滅		ジャンプスタートの方法	257
表示灯電球	230	オーバーヒート	260
制動灯、尾灯電球	230	オーバーヒートしたときの	
後面方向指示器 / 後面非常点滅		対処方法	260
表示灯電球	231	ヒューズ	262
後退灯電球	232	ヒューズの設置場所	262
番号灯電球	233	ヒューズの点検と交換	266
ハイマウントストップランプ		けん引	267
電球	233	非常時のけん引	267
車外ドアハンドルランプ		フューエルリッドが	
電球	233	解錠できないとき	269
ワイパーブレードラバーの点検と		トランクが開かないとき	270
整備	234	■こんなときは	271
ワイパーブレードラバーの		■仕様	274
点検	234	ACCORD	274
ワイパーブレードラバーの		■索引	276
交換	234		
タイヤの点検と整備	236		
タイヤの点検	236		
タイヤとホイールの交換	237		

1 安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。
運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を確保してください。

安全なドライブのために

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
 - ▶ 運転者と乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
 - シートベルトの着用 P.15
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
 - ▶ お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
 - お子さまの安全 P.31
- 車から離れるときは、お子さまや介護を必要とされる方、ペットを車内に残していないか？
 - ▶ 炎天下などでは車内が高温になることがあります。車内にお子さまや介護を必要とされる方、ペットを残したままにしないようにしてください。

シートベルト

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■ 三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。
すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

■ シートベルトの着用

シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1本のシートベルトを2人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

警告

シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。

シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

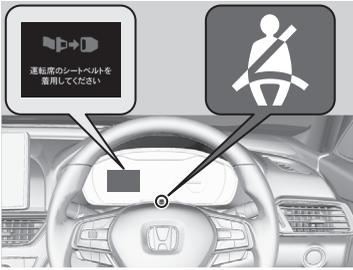
乗車中は正しい姿勢を保つ。

正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトがロックした場合、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

■ シートベルトリマインダー



■ フロントシート

パワーモードを ON モードにしたときや走行したとき、運転席または助手席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーと警告灯でお知らせします。

マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。



■ リヤシート

パワーモードが ON モードのときに、後席ドアを開閉すると、リヤシートベルトを着用するまでマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されません。

■ シートベルトプリテンショナー

フロントシートおよびリヤシート外側 2 座席にはシートベルトプリテンショナーを装備しています。

シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向や側面からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。

⚠ 注意

シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。
誤作動や故障の原因となります。

シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。

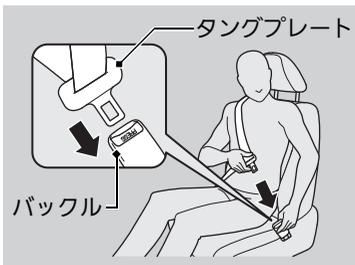
衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。

衝突したときは、Honda 販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

シートベルトの着用



1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。



3. タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないようにしてください。



4. シートベルトが正しく着用できているか確認する。
▶ 肩ベルトは鎖骨の中心を通るように合わせ、首やあごに当たらないようにしてください。
▶ 腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に合わせてください。
▶ ベルトにたるみやねじれがないようにしてください。
5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

⚠ 警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。

万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠ 注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。

シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがををするおそれがあります。

シートベルトが完全に引き込まれた位置でロックされた場合、一度シートベルトをしっかりと引っ張り、そしてもう一度巻き取らせることでロックが解除できます。シートベルトロックを解除することが出来ない場合、そのシートに着座しないでください。

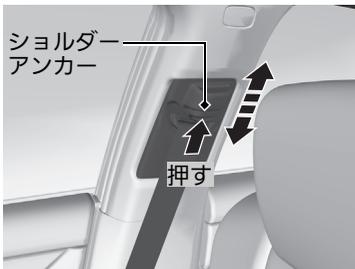
- ❑ シートベルトについて P.13
- ❑ シートベルトの点検 P.18

シートベルトを外すには、バックルの赤色の **PRESS** を押してください。そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。

■ ショルダアンカーの高さ調節



フロントシートのシートベルトは、座高に合わせて、ショルダアンカーの高さを調節してください。

1. ショルダアンカーの解除ボタンを押しながら、アンカーを上下に動かす。
2. ちょうどよい高さで解除ボタンを離し、ショルダアンカーを固定する。

⚠ 注意

調節後は、ショルダアンカーが確実に固定されているか確認する。

安全性を高めるため、肩ベルトが肩から胸にかかっていることを確認してください。

ベルトが首やあごに当たるときは、下げて調節してください。

■ 妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



⚠ 注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。

万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点を注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

シートベルトの点検

シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。

ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

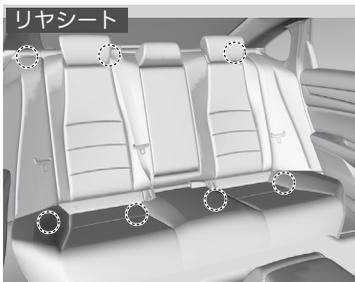
ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトのアンカーポイント



シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。

フロントシートには三点式シートベルトが使われています。



リヤシートには三点式シートベルトが使われています。

エアバッグ

エアバッグの種類

- SRS エアバッグ: フロントシートの前方向エアバッグ
- 運転席ニーエアバッグ: ハンドルの下にあるエアバッグ
- サイドエアバッグ: フロントシートの横方向エアバッグ
- サイドカーテンエアバッグ: 窓側の天井部両側についたエアバッグ

警告

エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。

エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。

エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。

エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS: サプリメンタルレストRAINTシステム (Supplemental Restraint System) の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

■ 格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

■ 作動のしくみ

SRSエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席のSRSエアバッグが膨らみます。

■ SRSエアバッグの作動

前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRSエアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRSエアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
 - 車両の前方左右約30度以内の方向から強い衝撃を受けたとき
- 衝撃を吸収できるもの(車やガードレールのように変形するもの)に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRSエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、SRSエアバッグが作動しないことがあります。

- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とSRSエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果が無いので作動しません。

- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRSエアバッグが作動することがあります。

警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。
SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。
SRS エアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

エアバッグの作動は、衝突状況とシートベルト着用の有無により異なります。
そのため、運転席または助手席のエアバッグが片側のみ作動することがあります。

注意

SRS エアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いが故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

運転席ニーエアバッグ

運転席の膝の前にあるエアバッグです。前方向からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者の衝撃緩和を補助します。

注意

ニーエアバッグ格納部やその周辺にステッカーなどを貼ったり、アクセサリなどをつけたりしない。
ニーエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときにものが飛んでけがをする原因になります。

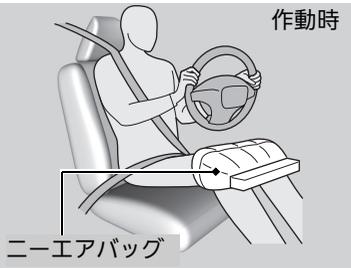
■ 格納場所



ニーエアバッグは、運転席のハンドル下側に格納されています。

「SRS AIRBAG」と表示されています。

■ 作動のしくみ



運転席の SRS エアバッグが膨らむと、ニーエアバッグも膨らみます。

衝突が SRS エアバッグを展開するほどの衝撃でなくとも、ニーエアバッグだけ膨らむことがあります。

■ 作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、ニーエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、ニーエアバッグが作動しないことがあります。

- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とニーエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

サイドエアバッグ

側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

⚠ 注意

ドアやその周辺にアクセサリなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。

正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ収納部に衝撃や無理な力を加えない。

サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。

サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。

フロントシートへのシートカバー装着にあたっては Honda 販売店にご相談ください。

⚠ 注意

ドアに寄りかからない。

サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要以上に近づけない。

後席の同乗者は、フロントシートの背もたれを抱えない。

サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け傷害を受けるおそれがあります。

サイドエアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

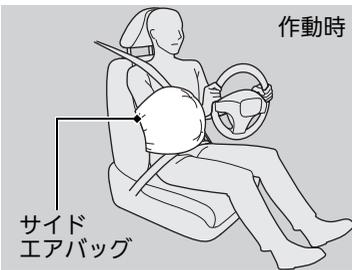
■ 格納場所



運転席、助手席ともにシートの背もたれ外側に格納されています。

どちらも「SIDE AIRBAG」と表示されています。

■ 作動のしくみ



センサーが一定以上の衝撃で側面方向から衝突を検知し、コントロールユニットのはたらきにより検知した側のサイドエアバッグが膨らみます。

■ 作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、サイドエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。

- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていていますので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

サイドカーテンエアバッグ

窓側の天井部にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、乗員の頭部への衝撃を緩和します。

⚠ 注意

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりすることがあるので、以下のことに注意する。

- フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリなどを取り付けない
- グラブレールにものをかけない
- コートフックに重いものやとがったものをかけない

サイドカーテンエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。

サイドカーテンエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

⚠ 注意

サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えない。

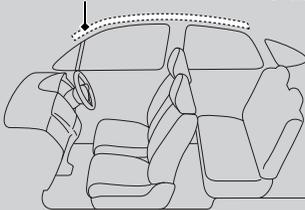
収納部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、Honda 販売店で交換してください。

サイドカーテンエアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

■ 格納場所

サイドカーテンエアバッグ収納部

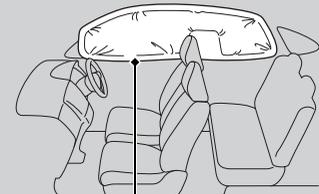


運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。

どちらも「SIDE CURTAIN AIRBAG」と表示されています。

■ 作動のしくみ

作動時



サイドカーテンエアバッグ

サイドカーテンエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で側面方向から衝突したときです。運転席側または助手席側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

■ 作動条件

サイドカーテンエアバッグの作動条件は、サイドエアバッグと同じ条件です。

📌 作動条件 P.24

■ 前方向から衝突したときの作動

前方向からの衝突時、横方向に一定以上の力がかかると、SRSエアバッグが膨らんだあとに必要な側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯やマルチインフォメーションディスプレイで知らせます。

■ エアバッグシステム警告灯



■ パワーモードを ON モードにしたとき

パワーモードを ON モードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

⚠ 警告

エアバッグシステム警告灯を無視しない。

エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。パワーモードを ON モードにしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。ただし、以下の場合には Honda 販売店で点検を受けてください。

■ エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。

また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

ポップアップフードシステム

ポップアップフードシステムのしくみ

ポップアップフードシステムは前方向からの衝突時にボンネットを持ち上げてエンジンルーム内の空間を確保し、歩行者の頭部への衝撃緩和を補助します。

警告

ポップアップフードシステムが作動した後は、パワーユニットが非常に熱くなっているため、やけどをするおそれがあります。
冷めるまではパワーユニットに触れないでください。

ポップアップフードシステムが作動した後はボンネットを開けないでください。システム作動後、持ち上がったボンネットが視界の妨げにならないことを確認した後、速度を落とし十分に注意して運転してください。

ボンネットが完全に閉まっていないと、十分な効果を得られない場合があります。走行前にボンネットが完全に閉まっていることを確認してください。

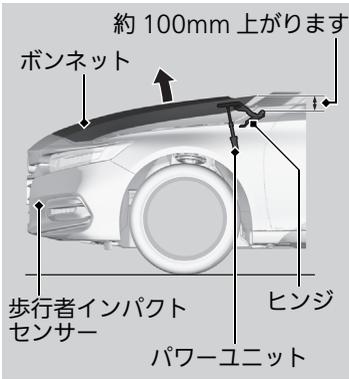
ポップアップフードシステムが正常に機能するために、以下のことをお守りください。

- 四輪とも同一指定サイズのタイヤをお使いください。サイズの異なるタイヤを使用すると、システムが車両速度を誤認識することがあります。
- パワーユニットに荷重を加えないでください。ボンネットを激しく閉めるとパワーユニットが損傷するおそれがあります。
- フロントバンパー内の歩行者インパクトセンサーに衝撃を与えないでください。

■ 作動のしくみ

設定速度以上の走行時に車両が歩行者やその他の物体に衝突したときに作動します。

■ どのように作動するか



歩行者インパクトセンサーが一定以上の衝撃を検知すると、ポップアップフードシステムが作動し、ボンネットの後部が持ち上がります。

システムは以下の状況でも作動することがあります。

- 車両下側に大きな衝撃を受けたとき
- 高速で突起物の上を乗り越えたとき、または深い溝の上を乗り越えたとき
- 歩行者インパクトセンサーに物がぶつかったとき

システムは以下の状況では作動しないことがあります。

- 後部または横方向からの衝突
- 横転または転覆
- 斜め方向や横からの歩行者との衝突

ポップアップフードシステムは、衝突時の位置、角度、車速などその他の条件によって作動しないことがあります。

■ ポップアップフードシステム警告表示



■ パワーモードを ON モードにしたとき

ポップアップフードシステムに異常があると考えられる場合、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されます。

警告

警告表示を無視すると、ポップアップフードシステムの異常につながる可能性があります。

異常が発生すると、歩行者との衝突時に、歩行者の深刻な傷害や死亡につながるおそれがあります。

ポップアップフードシステムの警告が表示されたときはすみやかに Honda 販売店で点検を受けてください。

ポップアップフードシステムのお手入れ

ポップアップフードシステムは、お客様自身でのメンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。

ただし、ポップアップフードシステムが作動したときは、Honda 販売店でコントロールユニットやその他の関連部品の交換を依頼してください。

フロントバンパー周辺を損傷したときは、システムが作動していなくても Honda 販売店で点検を受けてください。

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。

- お子さまはリヤシートに乗せる
 - ▶ お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。
また、SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。
- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
 - ▶ お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができません。正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 乳幼児にはチャイルドシートを使用する
 - ▶ 乳幼児に乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。
- 車外に手や顔、ものを出さない
 - ▶ 走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないようにしてください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
 - ▶ 思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
 - ▶ お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。



警告

チャイルドシートは後席に設置する。

助手席に設置すると SRS エアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

警告



シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。

お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

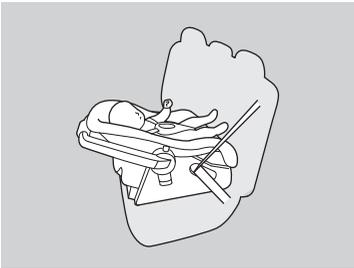
お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。

- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRS エアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- お子さまの体の一部がサイドエアバッグの作動範囲に入ると、サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

■ 乳児のチャイルドシート

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■ 後ろ向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートに設置することができます。

- ▶ 推奨するのは、助手席の真後ろの席への設置です。その場合、助手席には人を乗せず助手席のシートをできるだけ前に出してください。
- ▶ 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

警告

後ろ向きのチャイルドシートを前向きにして使わない。

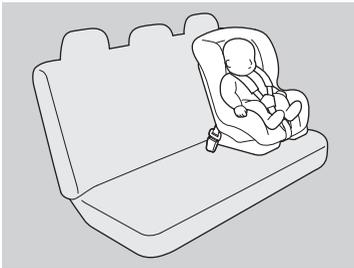
前向きにして使うと前方から衝突したときに、乳児が重大な傷害を負うおそれがあります。

後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。

助手席の SRS エアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

■ 幼児のチャイルドシート

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、前向きのチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■ 前向きのチャイルドシートの設置場所
リヤシートへの設置を推奨します。

警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎていたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されると SRS エアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

■ チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートまたは ISOFIX/i-Size チャイルドシートをお選びください。

シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に付属している下部取付金具とトップテザー取付金具またはサポートレッグで固定するため取り付けが簡単です。

■ チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の 3 つの条件を満たしている必要があります。

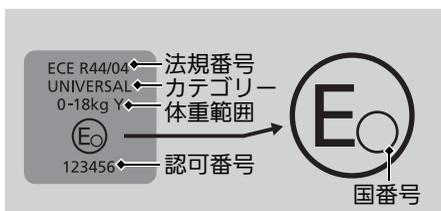
- チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること
- チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること
- チャイルドシートが安全基準に適合したものであること
UN R44/R129 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

■ チャイルドシートの規格

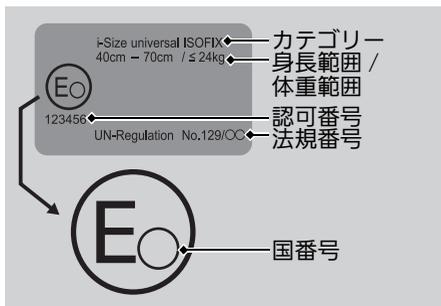
UN基準の認可を受けたシートベルト固定タイプチャイルドシートまたはISOFIX/i-Sizeチャイルドシートには、認可マークが表示されています。チャイルドシートについての認可マークを確認してください。

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

UN R44 認可表示(例)



UN R129 認可表示(例)



■ シート位置別チャイルドシート情報



	車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサルチャイルドシートに適している
	車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取り付けるユニバーサルチャイルドシートに適している
	i-Size および ISOFIX チャイルドシートに適している
	前向きチャイルドシートのみに適している
	後ろ向きのチャイルドシート取り付け禁止
	トップテザー取付金具を装備している座席

※1: チャイルドシートを取り付ける場合、シートスライドを最も後ろの位置に調節すること。

※2: チャイルドシートを取り付ける場合、シートバックを最前端ロック位置から 14° の位置に調節すること。

※3: UN R129 の認可を受けた前向きジュニアシートを取り付ける場合、シートバックを最前端ロック位置から 22° の位置に調節しヘッドレストを取り外すこと。

取り外したヘッドレストは急制動時や衝突時に飛ばないように荷室に収納すること。また、ジュニアシートを取り外し大人が着座する場合はヘッドレストを元の座席に取り付け、ロックされていることを確認してください。取り付け方については、ヘッドレストのページを参照してください。

▼ ヘッドレスト P.122

サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size チャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができます。但し、中央席は除く。

チャイルドシート装着に関する情報

シート位置番号	シートの位置			
	① 助手席 ^{※1}	② 後席 (左側)	③ 後席 (中央)	④ 後席 (右側)
ベルト固定の汎用(ユニバーサル)チャイルドシートが搭載可能な着座位置(有/無)	有 ^{※2} 前向き搭載のみ	有	有	有
i-Size チャイルドシートが搭載可能な着座位置(有/無)	無	有	無	有
推奨チャイルドシートが搭載可能な着座位置(有/無)	有 前向き搭載のみ	有	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシート固定具(L1/L2)	無	無	無	無
搭載可能な最大の後ろ向きチャイルドシート固定具(R1/R2X/R2/R3)	無	R3	無	R3
搭載可能な最大の前向きチャイルドシート固定具(F2X/F2/F3)	無	F3	無	F3
搭載可能な最大の前向きジュニアシート固定具(B2/B3)	B3 ^{※3}	B3	B3	B3

※1: チャイルドシートを取り付ける場合、シートスライドを最も後ろの位置に調節すること。

※2: チャイルドシートを取り付ける場合、シートバックを最前端ロック位置から 14° の位置に調節すること。

※3: UN R129 の認可を受けた前向きジュニアシートを取り付ける場合、シートバックを最前端ロック位置から 22° の位置に調節しヘッドレストを取り外すこと。

取り外したヘッドレストは急制動時や衝突時に飛ばないように荷室に収納すること。また、ジュニアシートを取り外し大人が着座する場合はヘッドレストを元の座席に取り付け、ロックされていることを確認してください。取り付け方については、ヘッドレストのページを参照してください。

■ ヘッドレスト P.122

サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size チャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができます。但し、中央席は除く。

警告

シートベルトは必ず正しく着用する。

シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものをお選びください。

固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2X	幼児	後ろ	小型
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高
ISO/B2	学童	前	狭幅
ISO/B3	学童	前	全幅

■ 推奨チャイルドシート

UN R44 適合チャイルドシート

質量グループ	チャイルドシート	カテゴリー
0 10kg 未満 (0～9ヶ月)	Honda ISOFIX Neo	準汎用 ISOFIX(後向き)
	スタンダード	汎用シートベルト固定 (後向き)
0+ 13kg 未満 (0～2歳)	Honda ISOFIX Neo	準汎用 ISOFIX(後向き)
	スタンダード	汎用シートベルト固定 (後向き)
I 9～18kg (9ヶ月～4歳)	Honda ISOFIX Neo	準汎用 ISOFIX(前向き)
	スタンダード	汎用シートベルト固定 (前向き)
II, III 15～36kg (4～12歳)	Honda ジュニアシート	汎用シートベルト固定

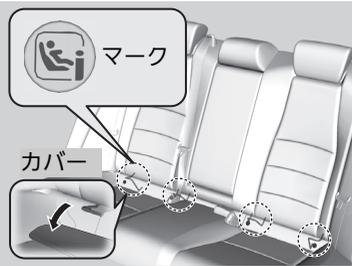
UN R129 適合チャイルドシート

適用範囲	チャイルドシート	カテゴリー
身長 100cm 以下	Honda Baby & Kids i-Size	i-Size(後向き)
身長 71cm 以上 かつ月齢 15ヶ月以上～ 身長 100cm 以下		i-Size(後向き / 前向き)

推奨チャイルドシートのご購入は Honda 販売店にご相談ください。

■ ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

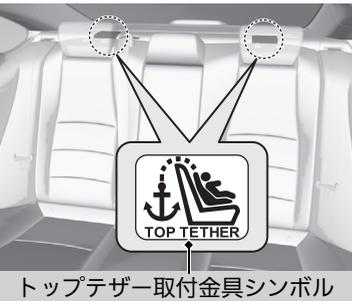
ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に設置できます。チャイルドシートは、下部取付金具とトップテザー取付金具で固定します。



1. マークのついたカバーをめくり、シートの切れ目から下部取付金具を確認する。



2. チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートの取扱説明書にしたがって下部取付金具に取り付ける。
▶ 取り付けの際に、異物やシートベルトなどが下部取付金具にかみ込まないようにしてください。

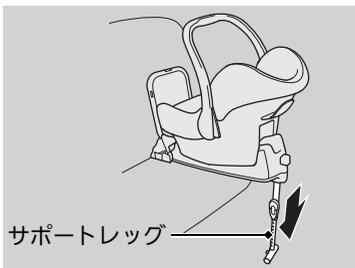
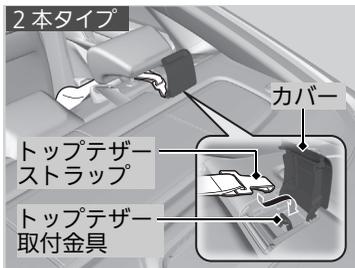
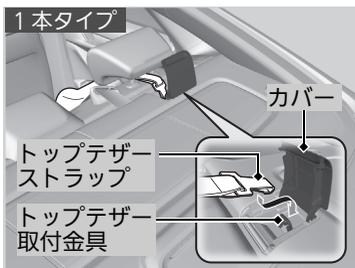


トップテザーストラップ付きチャイルドシート

3. ヘッドレストの後ろにあるカバーを開ける。
4. ヘッドレストを調節して最上段で固定する。トップテザーストラップをヘッドレストの下に通す。
▶ このときトップテザーストラップがねじれないように注意してください。

⚠ 注意

トップテザー取付金具シンボルが無いフックに、トップテザーストラップを使用しないでください。



5. トップテザーストラップをトップテザー取付金具に引っ掛け、ストラップを締める。
6. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

サポートレッグ付きチャイルドシート

3. サポートレッグをチャイルドシートの取扱説明書にしたがってフロアにつくまで伸ばす。
 - ▶ サポートレッグを設置するフロア面は水平な面であることを確認してください。サポートレッグの設置フロア面が水平ではない場合、安定しないことがあります。
 - ▶ 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

⚠ 注意

下部取付金具周辺に、異物やシートベルトのかみ込みがないか確認する。

異物やシートベルトをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

リヤシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにシートといっしょにチャイルドシートが動き、傷害を受けるおそれがあります。

ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

⚠ 注意

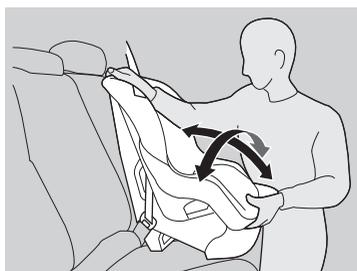
チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

■ シートベルトでの取り付け



1. チャイルドシートを座席に置く。
2. シートベルトをチャイルドシートに通し、タンブプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、バックルが「カチッ」という音がするまできちんと差し込んでください。



3. チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付ける。
4. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

⚠ 注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

大きなお子さまの安全

幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、リヤシートに乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■ 確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

⚠ 警告

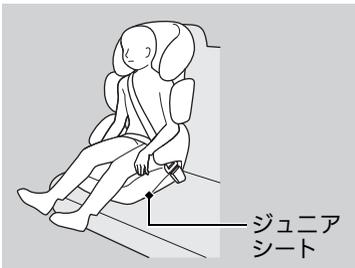
お子さまは助手席に乗せない。

お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。

やむをえず、助手席にお子さまを乗せる場合は、できるだけシートを後方に下げ、必要ならばジュニアシートを使用し、適切にシートベルトを着用してすわらせてください。

やむをえずお子さまを助手席に乗せる場合は、次ページの注意事項を厳守してください。

■ ジュニアシートについて



三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをリヤシートに設置して使用してください。安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

■ やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- 取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるように指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する

排気ガスの危険性

一酸化炭素について

車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。

以下の場合、排気ガスのもれがないか Honda 販売店で点検を受けてください。

■点検が必要な場合

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき



一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

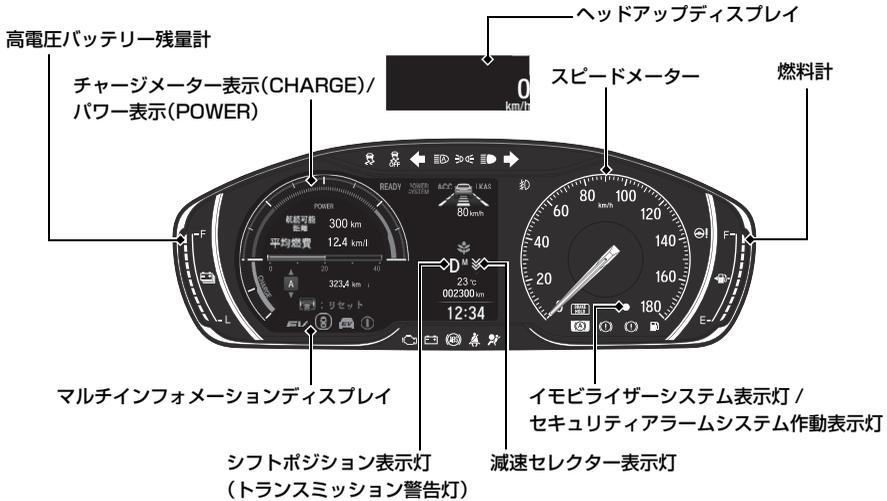
ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。

ガレージのドアを開けたままパワーシステムを起動させないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にパワーシステムを起動するようにしてください。

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、メーター類に関する情報を記載しています。

警告灯と表示灯

警告灯 (P. 47)/ 表示灯 (P. 58)/ メーター (P. 80)/ マルチインフォメーションディスプレイ (P. 81)/ ヘッドアップディスプレイ (P. 89)



	※1 ブレーキ警告灯(レッド)	P.47
	※1 ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	P.49
	※1 パワーシステム警告灯	P.51
	※1 12V バッテリー充電警告灯	P.51
	※1 PGM-FI 警告灯	P.52
	燃料残量警告灯	P.52
	トランスミッション警告灯	P.53
	※1 EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯	P.53
	シートベルト非着用警告灯	P.54
	※1 ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯	P.54
	※1 エアバッグシステム警告灯	P.55
	※1 VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯	P.55
	※1 VSA OFF 警告灯	P.55
	方向指示器 / 非常点滅表示灯	P.58
	ハイビーム表示灯	P.58
	ライト点灯表示灯	P.58
	フォグライト点灯表示灯	
	※1 オートハイビーム表示灯	P.58
	D シフトポジション表示灯	P.58

	減速セレクター表示灯	P.58
	インフォメーション表示灯	P.59
	ドライブモード表示灯	P.61
		
		
	ECON 表示灯	
	※1 オートマチックブレーキホールドシステム表示灯	P.62
	※1 オートマチックブレーキホールド表示灯	P.62
READY	READY 表示灯	P.62
	※1 EV 表示灯	P.62
	※1 EV モード表示灯	P.63
	渋滞追従機能付 ACC (アダプティブ・クルーズ・コントロール) 警告灯(オレンジ)	P.54
	※1 渋滞追従機能付 ACC (アダプティブ・クルーズ・コントロール) 表示灯(グリーン)	P.59
	LKAS(車線維持支援システム)警告灯(オレンジ)	P.55
	※1 LKAS(車線維持支援システム)表示灯(グリーン)	P.60
	安全支援情報警告灯(オレンジ)	P.56
	※1 安全支援情報表示灯(グリーン/グレー)	P.63
	イモビライザーシステム表示灯	P.60
○	セキュリティアラームシステム作動表示灯	P.60

※1: これらの警告灯と表示灯は、パワーモードをONモードにしたときに点灯し、パワーシステム起動後または、数秒後に消灯します。

点灯しない場合や消灯しないときは、システム異常のおそれがありますので、取扱説明書の指示に従い対処してください。

警告灯

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	ブレーキ警告灯 (レッド)	<ul style="list-style-type: none"> • パーキングブレーキをかけると点灯 • ブレーキフルード量が低下したときに点灯 • ブレーキシステムが異常のときに点灯 • パワーモードがアクセサリーモードまたはOFFモードのときにパーキングブレーキをかけるとしばらく点灯した後、消灯 • パーキングブレーキがかかっているときにパワーモードをOFFモードにするとしばらく点灯した後、消灯 • 電子制御パーキングブレーキが異常のときに点滅 	<ul style="list-style-type: none"> • 走行中に点灯したりパーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合はただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。必要に応じて、ギヤを落とします。 • ABS警告灯と同時に点灯した場合も、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 	 ブレーキフルード液量低下 走行できません 液量を点検してください
				 ブレーキシステム異常 高速走行を避けてください
				 ブレーキシステム異常 高速走行を避けてください
				 パーキングブレーキを 解除してください

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	ブレーキ警告灯 (レッド)	<ul style="list-style-type: none"> • パーキングブレーキをかけると点灯 • ブレーキフルード量が低下したときに点灯 • ブレーキシステムが異常のときに点灯 • パワーモードがアクセサリーモードまたはOFFモードのときにパーキングブレーキをかけるとしばらく点灯した後、消灯 • パーキングブレーキがかかっているときにパワーモードをOFFモードにするとしばらく点灯した後、消灯 • 電子制御パーキングブレーキが異常のときに点滅 	<ul style="list-style-type: none"> • ブレーキシステム警告灯(オレンジ)と同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店で点検を受けてください。 このとき、ブレーキペダルの操作が重くなる場合がありますので、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。 • ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時に点滅した場合は、パーキングブレーキが作動しないことがあります。パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • パーキングブレーキが故障して作動しません。 	<div data-bbox="829 288 1025 432">  <p>ブレーキフルード液量低下 走行できません 液量を点検してください</p> </div> <div data-bbox="829 437 1025 580">  <p>ブレーキシステム異常 高速走行を避けてください</p> </div> <div data-bbox="829 585 1025 729">  <p>ブレーキシステム異常 高速走行を避けてください</p> </div> <div data-bbox="829 734 1025 877">  <p>パーキングブレーキを 解除してください</p> </div>

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	ブレーキシステム警告灯 (オレンジ)	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキに関するシステムが異常のときに点灯 回生ブレーキシステム、電動サーボブレーキシステム、ヒルスタートアシストシステムのいずれかが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 常時点灯する場合は、高速走行や急停止を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 	 ブレーキシステム異常 注意して運転してください
				 ブレーキシステム異常 アクセルペダルと ブレーキペダルを同時に 踏まないでください
				 ブレーキシステム異常 注意して運転してください
				 ヒルスタートアシスト システム異常 坂道での発進に 注意してください



ブレーキシステム警告灯(オレンジ)

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
		<ul style="list-style-type: none"> 電子制御パーキングブレーキシステム、オートマチックブレーキホールドシステムが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 点灯したときは、パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ブレーキ警告灯(レッド)が同時に点灯または点滅し続けているときは、ただちに安全な場所に停車し Honda 販売店へご連絡ください。 ▶ 車両が動き出さないように、シフトポジションを P にしてください。 ブレーキ警告灯(レッド)だけが消灯したときは、パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ブレーキ警告灯(レッド)が同時に点灯しているときは、パーキングブレーキが作動しています。 ブレーキ警告灯(レッド)が同時に点滅しているときは、システムの点検中でパーキングブレーキが作動していない可能性があります。 	<div style="text-align: center;">  電子制御パーキングブレーキ異常 パーキングブレーキを使用できません </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  オートマチックブレーキホールドシステム異常 停車時はブレーキペダルを踏んでください </div>
		<ul style="list-style-type: none"> トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 	<p style="text-align: center;">—</p>

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
POWER SYSTEM	パワーシステム警告灯	<ul style="list-style-type: none"> • パワーシステムが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • 走行中に点灯＝ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 	<p>POWER SYSTEM</p> <p>パワーシステム異常 早めに点検を受けてください</p>
				<p>POWER SYSTEM</p> <p>パワーシステム異常 急発進・急加速・高速走行を避けてください</p>
				<p>POWER SYSTEM</p> <p>パワーシステム異常 走行できません 点検を受けてください</p>
	12V バッテリー充電警告灯	<ul style="list-style-type: none"> • 12V バッテリーが充電されていないと点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • 安全な場所に停車して、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • 一時的に停車する場合は、パワーシステムを停止させないでください。 パワーシステムの起動は、12V バッテリーを使用しますので、再起動できなくなるおそれがあります。 	
				<p>12V充電システム異常 走行できません</p>

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	PGM-FI 警告灯	<ul style="list-style-type: none"> エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯 エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅 	<p>点灯したときは</p> <ul style="list-style-type: none"> 高速走行を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 <p>アドバイス</p> <ul style="list-style-type: none"> PGM-FI 警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。 <p>点滅したときは</p> <ul style="list-style-type: none"> 枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上パワーシステムを停止して冷えるまでお待ちください。 <p>アドバイス</p> <ul style="list-style-type: none"> エンジン再始動後、警告灯が再び点滅するときは、50km/h 以下の速度で最寄りの Honda 販売店まで走行し点検を受けてください。 	 <p>エンジンシステム異常 早めに点検を受けてください</p>  <p>エンジンシステム異常 急発進・急加速・高速走行を避けてください</p>  <p>エンジンシステム異常 走行できません 点検を受けてください</p>
	燃料残量警告灯	<ul style="list-style-type: none"> 燃料の残量が少なくなると点灯 点灯するのは、タンクに残っている残量がおよそ 6.2 リットルになったときです。 燃料計に異常があるときは点滅 	<ul style="list-style-type: none"> 点灯したら早めに給油してください。 点滅したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 	 <p>給油してください</p>  <p>燃料センサ異常 燃料計が正常に作動しません</p>

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	トランスミッション警告灯	<ul style="list-style-type: none"> トランスミッションが異常のときに選択しているシフトポジションが点滅 	<ul style="list-style-type: none"> 急発進、急加速を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 	 <p>トランスミッション異常 早めに点検を受けてください</p>
		<ul style="list-style-type: none"> トランスミッションの異常で走行できないとき、選択しているシフトポジションもしくは全てのシフトポジションが点滅 	<ul style="list-style-type: none"> ただちに安全な場所に車を停車してください。 ▼ 非常時のけん引 P.267 Honda 販売店で点検を受けてください。 	 <p>トランスミッション異常 走行できません 点検を受けてください</p>
		<ul style="list-style-type: none"> トランスミッションの異常が発生し、シフトポジションを P にできないとき、選択しているシフトポジションもしくは全てのシフトポジションが点滅 	<ul style="list-style-type: none"> 停車するときはパーキングブレーキをかけてください。 ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 	 <p>トランスミッション異常 停車時は パーキングブレーキを 確実にかけてください</p>
	EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯	<ul style="list-style-type: none"> EPS システムが異常のときに点灯 	点灯したらすること <ul style="list-style-type: none"> 安全な場所に停車し、パワーシステムを再起動する。 常時点灯した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 	 <p>パワーステアリングシステム異常 ハンドルが重くなる場合があります ただちに点検を受けてください</p>

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	シートベルト非着用警告灯	<ul style="list-style-type: none"> 運転席および助手席のシートベルトを着用しないと点灯 	<ul style="list-style-type: none"> シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。 	 <p>運転席のシートベルトを着用してください</p>  <p>助手席のシートベルトを着用してください</p>
	ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯	<ul style="list-style-type: none"> ABSが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されていますが、ABS は作動しません。 ❑ ABS(アンチロックブレーキシステム) P.210 	 <p>ABS(アンチロックブレーキシステム)異常 注意して運転してください</p>
	渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)警告灯(オレンジ)	<ul style="list-style-type: none"> 渋滞追従機能付 ACCシステムが異常のときに点灯 12V バッテリー再接続後、一時的に渋滞追従機能付 ACCシステムが OFF になっているときに点灯 トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 車速20km/h以上でしばらく走行してください。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 	 <p>ACC(アダプティブクルーズコントロール)システム異常 システムは使用できません</p>  <p>システム初期化中です しばらく走行すると初期化が完了します</p>

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	LKAS (車線維持支援システム) 警告灯 (オレンジ)	<ul style="list-style-type: none"> LKAS が異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 	 <p>LKAS LKAS(車線維持支援システム)異常システムは使用できません</p>
	エアバッグシステム警告灯	<ul style="list-style-type: none"> 下記のとき点灯 エアバッグシステムの異常 プリテンションシステムの異常 	<ul style="list-style-type: none"> 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 	 <p>エアバッグシステム異常 エアバッグが作動しないことがあります</p>
	VSA (ピークルスタビリティアシスト) 警告灯	<ul style="list-style-type: none"> VSA が作動しているときは点滅 VSA システムが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。  VSA(ピークルスタビリティアシスト) P.146 	 <p>VSA(ピークルスタビリティアシスト)システム異常 注意して運転してください</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 12V バッテリー再接続後、一時的に VSA が OFF になっているときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 車速20km/h以上でしばらく走行してください。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。 	 <p>システム初期化中です しばらく走行すると初期化が完了します</p>
	VSA OFF 警告灯	<ul style="list-style-type: none"> VSA を OFF にすると点灯 	—	 <p>OFF VSA OFF</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 12V バッテリー再接続後、一時的に VSA が OFF になっているときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 車速20km/h以上でしばらく走行してください。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。 	 <p>システム初期化中です しばらく走行すると初期化が完了します</p>

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	安全支援情報警告灯(オレンジ)	<ul style="list-style-type: none"> 路外逸脱抑制機能、ブラインドスポットインフォメーション、後方誤発進抑制機能、CMBS が異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 	<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center;">  <p>路外逸脱抑制システム異常 システムは作動しません</p> </div> <div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center;">  <p>ブラインドスポット インフォメーション異常 システムは作動しません</p> </div> <div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center;">  <p>後方誤発進抑制機能異常 システムは作動しません</p> </div> <div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center;">  <p>CMBS(衝突軽減ブレーキ システム)異常 システムは作動しません</p> </div>
		<ul style="list-style-type: none"> 12V バッテリー再接続後、一時的に運転支援システムの一部が使用できないときに点灯 トンネルなど、閉鎖された空間を通過すると警告灯が一時的に点灯することがあります。 フロントロアグリルに汚れなどの遮蔽物がありレーダーセンサーが前の車両等を検知しにくいときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 車速20km/h以上でしばらく走行してください。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。 常時点灯する場合は、安全な場所に停車してフロントロアグリルの汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 復帰するまでに時間がかかることがあります。 <p>▶ レーダーセンサー P.202</p>	<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center;">  <p>システム初期化中です しばらく走行すると 初期化が完了します</p> </div> <div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center;">  <p>運転支援システムの一部が 使用できません レーダーの汚れを 取り除いてください</p> </div>

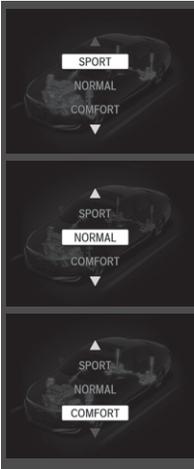
警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	安全支援 情報警告 灯(オレンジ)	<ul style="list-style-type: none"> フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下がるとシステムは復帰します。 	 運転支援システムの一部が使用できません カメラの温度が下がるまでお待ちください
		<ul style="list-style-type: none"> フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるときに点灯 雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります 	<ul style="list-style-type: none"> 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 	 運転支援システムの一部が使用できません フロントウィンドウの汚れを取り除いてください
		<ul style="list-style-type: none"> トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 	—
		<ul style="list-style-type: none"> リヤバンパー側面にあるレーダーセンサーが汚れると点灯 リヤバンパー側面にあるレーダーセンサーの温度が高温になると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 安全な場所に停車してリヤバンパー側面の汚れをふき取ってください。 温度が下がるとシステムは復帰します。 	 ブラインドスポットインフォメーションがセンサーの汚れ/高温のため作動しません
		<ul style="list-style-type: none"> リヤバンパーのソナーに汚れ、氷、霜などの遮蔽物があり、後方誤発進抑制機能を使用できなくなると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 安全な場所に停車してリヤバンパーの汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 ソナーセンサー P.203 後方誤発進抑制機能 P.164 	 後方誤発進抑制機能が作動しません ソナーの汚れを取り除いてください

表示灯

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	方向指示器 / 非常点滅表示灯	<ul style="list-style-type: none"> 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 高速で走行中に急ブレーキをかけると、左右同時に点滅 	<ul style="list-style-type: none"> 点滅しない / 点滅の周期が速いときは、方向指示器の電球が切れています。ただちに電球を交換してください。 🔧 電球の交換 P.230 🔧 エマージェンシーストップシグナル P.211 	—
	ハイビーム表示灯	<ul style="list-style-type: none"> ヘッドライトが上向きになるときに点灯 	—	—
	ライト点灯表示灯	<ul style="list-style-type: none"> 車幅灯、尾灯などが点灯しているときに点灯 	—	—
	オートハイビーム表示灯	<ul style="list-style-type: none"> オートハイビームの作動条件がすべてそろったときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 🔧 オートハイビーム P.108 	—
	シフトポジション表示灯	<ul style="list-style-type: none"> 現在のポジションを表示 	<ul style="list-style-type: none"> 🔧 シフト操作 P.140 	—
	減速セレクター表示灯	<ul style="list-style-type: none"> 減速セレクター作動時に減速の強さを表示 減速セレクターを操作しても減速の強さが変わらないと点滅 SPORTモードのときに減速セレクターを作動させると M が点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 🔧 減速セレクター P.143 	—

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	インフォメーション表示灯	<ul style="list-style-type: none"> 異常を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、同時に警告音も鳴り、点灯 	<ul style="list-style-type: none"> メッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたときは、表示灯、警告灯の該当ページを参照して、必要な処置を行ってください。 メッセージは、警告が解除されるか、レフトセクターホイールまたはスイッチを押すまで通常表示に戻りません。 点灯しているときにスイッチを押し、「警告メッセージ」を選択すると、メッセージを再表示させる事ができません。 <p>☑ 表示の切り換えかた P.81</p>	—
ACC	渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) 表示灯 (グリーン)	<ul style="list-style-type: none"> MAIN スイッチを押すと点灯 	<p>☑ 渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) P.170</p>	—

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	LKAS (車線維持支援システム) 表示灯 (グリーン)	<ul style="list-style-type: none"> • MAIN スイッチを押すと点灯 	<p>■ LKAS(車線維持支援システム) P.183</p>	—
	イモビライザーシステム表示灯	<ul style="list-style-type: none"> • POWER を押したとき、イモビライザーシステムがキーの情報を認識できないと点滅 	<ul style="list-style-type: none"> • POWER を押したあと、点滅しているときは、パワーシステムを起動することはできません。パワーモードをいったん OFF モードにしてから、もう一度 ON モードにしてください。 • 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますので Honda 販売店で点検を受けてください。 	—
	セキュリティアラームシステム作動表示灯	<ul style="list-style-type: none"> • セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅 	—	—

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
SPORT NORMAL COMFORT	ドライブ モード表 示灯	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモードが ON モードのとき、ドライブモードスイッチで切り換えたモードが点灯 • SPORT モードのとき、アンビエントメーターは赤色で点灯 	▶ ドライブモードスイッチ P.145	

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	オートマチックブレーキホールドシステム表示灯	<ul style="list-style-type: none"> オートマチックブレーキホールドシステムが ON のとき点灯 	<ul style="list-style-type: none"> オートマチックブレーキホールド P.208 	 オートマチックブレーキホールド スタンバイ
	オートマチックブレーキホールド表示灯	<ul style="list-style-type: none"> オートマチックブレーキホールドが作動しているとき点灯 	<ul style="list-style-type: none"> オートマチックブレーキホールド P.208 	—
READY	READY 表示灯	<ul style="list-style-type: none"> 走行の準備が完了すると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> パワーシステムの起動 P.137 	 走行可能です
	EV 表示灯	<ul style="list-style-type: none"> モーターだけの走行になると点灯 	—	—

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	EV モード 表示灯	<ul style="list-style-type: none"> EVモードのときに点灯 	—	 EVモードON
	安全支援 情報表示 灯(グ リーン/ グレー)	<ul style="list-style-type: none"> 路外逸脱抑制機能、ブラインドスポットインフォメーション、後方誤発進抑制機能、CMBS のすべてが ON のときにグリーンで点灯 路外逸脱抑制機能、ブラインドスポットインフォメーション、後方誤発進抑制機能、CMBS のいずれかが ON のときにグリーン/グレーで点灯 路外逸脱抑制機能、ブラインドスポットインフォメーション、後方誤発進抑制機能、CMBS のすべてが OFF のときにグレーで点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ❏ 後方誤発進抑制機能 P.164 ❏ ブラインドスポットインフォメーション P.147 ❏ 衝突軽減ブレーキ (CMBS) P.155 ❏ 誤発進抑制機能 P.162 ❏ 路外逸脱抑制機能 P.190 	 後方誤発進抑制機能 OFF  ブラインドスポット インフォメーション OFF  CMBS OFF  路外逸脱抑制システム: OFF

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ

下記のメッセージはマルチインフォメーションディスプレイにのみ表示されます。再表示させるときは \square スイッチを押し、「警告メッセージ」を選択してください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
 <p>走行を継続できません 安全な場所に 停車してください</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 通常走行ができないときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> • ただちに安全な場所に停車してください。
 <p>停車時は パーキングブレーキを かけてください</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 車両の異常でシフトポジションを \square にできないときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> • 停車したときはパーキングブレーキをかけてください。 \square 電子制御パーキングブレーキ P.204 • Honda 販売店で点検を受けてください。
 <p>走行を継続するには ブレーキを踏みスイッチを 押してください</p>	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモードを再度ONモードにすることで、走行を続けられるときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> • \square パワーシステムの起動 P.137
 <p>外気温低下 路面凍結の おそれがあります</p>	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモードがONモードのときに、外気温が 3℃以下になると表示 	—

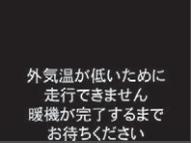
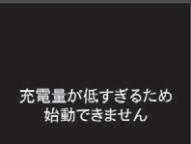
メッセージ	表示される状況	アドバイス
 <p>エンジン油圧異常 安全な場所に停車し 運転を停止してください</p>	<ul style="list-style-type: none"> エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると表示 	<ul style="list-style-type: none"> 運転中に表示された場合は、ただちに安全な場所に車を停車し、対処してください。 <p>表示されたらすぐにごすること</p> <ol style="list-style-type: none"> ただちに車を水平で安全な場所に停車する。 非常点滅表示灯を点滅させる。 <p>車を停車してからごすること</p> <ol style="list-style-type: none"> パワーシステムを停止し、3分間ほど放置する。 ボンネットを開け、エンジンオイルの量を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。 エンジンを始動する。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 「エンジン油圧異常」の警告メッセージが消えた: 運転を再開してください。 ▶ 「エンジン油圧異常」の警告メッセージが消えない: パワーシステムを停止させ、ただちにHonda販売店に修理を依頼してください。 <p>アドバイス</p> <p>油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。</p>
 <p>エンジン冷却水温上昇中 急発進・急加速・高速走行 を避けてください</p>	<ul style="list-style-type: none"> エンジン冷却水の温度が異常に上がると表示 	<ul style="list-style-type: none"> ゆっくり走行してください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
 <p>エンジン冷却水高温 安全な場所に停車し 運転を停止してください</p>	<ul style="list-style-type: none"> エンジン冷却水の温度が上限近くまで上がると表示 	<ul style="list-style-type: none"> ただちに安全な場所に停車し、エンジンを冷やしてください。 ➤ オーバーヒート P.260
 <p>冷却システム異常 出力が制限されます</p>	<ul style="list-style-type: none"> エンジンの冷却システムが異常のときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードが ON モードのときに、リヤシートベルトを着用または外すと約 30 秒間表示 パワーモードが ON モードのときに、後席ドアを開閉すると表示 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ シートベルトリマインダー P.14
 <p>走行前にシートベルトを 正しく着用してください</p>	<ul style="list-style-type: none"> シートベルトを着用しないで、パワーモードを ON モードにすると表示 	<ul style="list-style-type: none"> 運転するときは、シートベルトを正しく着用してください。
 <p>ポップアップフード システム異常 システムが作動しません</p>	<ul style="list-style-type: none"> ドア Open 自動パーキング選択制御により自動で P になった後、ドアを閉めずにシートベルトを装着しないままシフト操作し、ブレーキペダルを離すと表示 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ドア Open 自動パーキング選択制御 P.142
 <p>ポップアップフード システム異常 システムが作動しません</p>	<ul style="list-style-type: none"> ポップアップフードシステムに異常があると表示 	<ul style="list-style-type: none"> ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
 <p>ドアとトランクが 開いています</p>	<ul style="list-style-type: none"> ドア / トランクが完全に閉まっていないときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> ドア / トランクを完全に閉めてください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
 <p>ドライバー注意カ レベル低下</p>  <p>ドライバー注意カ レベル低下 休憩をとってください</p>	<ul style="list-style-type: none"> 居眠り運転や不注意運転を検知したときに表示 	<p>➤ ドライバー注意カモニター P.83</p>
 <p>オートライトシステム異常 ライトの点灯・消灯は 手動で行ってください</p>	<ul style="list-style-type: none"> オートライトコントロールシステムに異常があると表示 	<ul style="list-style-type: none"> 運転中に表示された場合は、ライトの点灯、消灯は手動で行い、Honda 販売店で点検を受けてください。 <p>➤ ライトの使いかた P.105</p>
 <p>ヘッドライト異常 ヘッドライトが正常に点灯 しないことがあります</p>	<ul style="list-style-type: none"> ヘッドライトの機能に異常があると表示 	<ul style="list-style-type: none"> 運転中に表示された場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
 <p>オートハイビーム システム異常 ハイビームへの切り替えは 手動で行ってください</p>	<ul style="list-style-type: none"> オートハイビームに異常があると表示 	<ul style="list-style-type: none"> ヘッドライトスイッチを手動で操作してください。 ハイビーム点灯中に表示された場合は、ロービームに切り換わります。 <p>➤ ライトの使いかた P.105</p>
 <p>充電システム点検</p>	<ul style="list-style-type: none"> 12Vバッテリーセンサーの機能に異常があると表示 	<ul style="list-style-type: none"> ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
 <p>MOD</p> <p>ドライブモードは 切り替えてできませんでした</p>	<ul style="list-style-type: none"> システムの異常や車両の走行状態などにより、ドライブモードが切り換えられないときに表示 	<p>➤ ドライブモードスイッチ P.145</p>

メッセージ	表示される状況	アドバイス
 <p>パーキングセンサーシステム異常 システムは作動しません</p>	<ul style="list-style-type: none"> パーキングセンサーシステムが異常のときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> センサー周辺に泥、氷、雪などの付着物がないか確認してください。付着物を取り除いても表示される場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。 ▶ パーキングセンサーシステム P.216
 <p>アダプティブダンパーシステム異常</p>	<ul style="list-style-type: none"> アダプティブダンパーシステムに異常があるときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、メッセージ表示の場合でも通常のダンパーとしての性能は確保されていますが、アダプティブダンパーシステムは作動しません。
 <p>Hondaスマートキーシステム異常 内蔵キーを使用してください</p>	<ul style="list-style-type: none"> Honda スマートキーシステムが異常のときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
 <p>キーが見つかりません キーを車内に戻してください</p>	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードが ON モードで、Honda スマートキーを車外に持ち出し、ドアを閉めたときに、警告音と同時に表示 	<ul style="list-style-type: none"> パワーモード ON の作動範囲内に Honda スマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。
 <p>キー電池残量低下</p>	<ul style="list-style-type: none"> Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときに、警告音と同時に表示 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ Hondaスマートキーの取り扱いと電池交換 P.239
 <p>キーでスイッチに触れてください</p>	<ul style="list-style-type: none"> Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときや Honda スマートキーが車内がないときに POWER スイッチを押すと、警告音と同時に表示 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ Hondaスマートキーの電池が切れたとき P.256

メッセージ	表示される状況	アドバイス
 <p>ボタンを2回押すか押し続けることで電源をOFFできます</p>	<ul style="list-style-type: none"> 走行中に POWER を押したときに表示 	<p>❏ 緊急時のパワーシステム停止方法 P.256</p>
<p>POWER REDUCED</p> <p>パワーシステム低温 急発進・急加速・高速走行を避けてください</p>	<ul style="list-style-type: none"> パワーシステムの温度が低いときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> 加速しにくくなります。また上り坂などでの発進が困難になる場合があります。 高電圧バッテリーの温度が上昇するとメッセージが消えます。
<p>POWER REDUCED</p> <p>パワーシステム高温 急発進・急加速・高速走行を避けてください</p>	<ul style="list-style-type: none"> パワーシステムの温度が高いときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> 加速しにくくなります。また上り坂などでの発進が困難になる場合があります。 安全な場所に車を止め、冷却してください。 ❏ オーバーヒート P.260
<p>POWER REDUCED</p> <p>ハイブリッドシステム異常 出力が制限されます</p>	<ul style="list-style-type: none"> パワーシステムが自己診断モードになると表示 	<ul style="list-style-type: none"> 車速を維持できない場合があります。また、減速する場合があります。ただちにHonda販売店で点検を受けてください。
 <p>車両接近通報システム異常 車両外への警報は作動しません</p>	<ul style="list-style-type: none"> 車両接近通報システムに異常があると表示 	<ul style="list-style-type: none"> ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
 <p>外気温が低いために起動できません パワーモードをOFFにしてお待ちください</p>	<ul style="list-style-type: none"> 高電圧バッテリーの温度が極端に低いときに表示(−40℃以下) 	<ul style="list-style-type: none"> ガレージ内で保管するなど、高電圧バッテリーが極低温状態にならないようにしてください。 必要に応じて Honda 販売店に相談してください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
 <p>外気温が低いために 走行できません 暖機が完了するまで お待ちください</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外気温の影響により高電圧バッテリーの温度が著しく低いとき(−30℃以下) 	<ul style="list-style-type: none"> 高電圧バッテリーの温度が上昇するまで走行できません。 アクセルを踏んでもエンジン回転数は上がりません。 車内を暖房すると高電圧バッテリーが暖まり、走行可能になるまでの時間を短縮できます。
 <p>充電量が低すぎるため 始動できません</p>	<ul style="list-style-type: none"> 高電圧バッテリーの残量が著しく低下したとき表示 	<ul style="list-style-type: none"> ただちに Honda 販売店にご連絡ください。
 <p>EV バッテリー温度が 作動範囲を超えているため EVモードにセット できません</p>	<ul style="list-style-type: none"> EVスイッチを押したとき、高電圧バッテリーの温度が作動範囲を超えていると表示 	<ul style="list-style-type: none"> しばらく走行してから、再度EVスイッチを押してください。
 <p>EV 充電量が低すぎるため EVモードにセット できません</p>	<ul style="list-style-type: none"> EVスイッチを押したとき、高電圧バッテリーの残量が少ないと表示 	<ul style="list-style-type: none"> 高電圧バッテリーが充電されたあと、再度EVスイッチを押してください。
 <p>EV エンジンが冷えているため EVモードにセット できません</p>	<ul style="list-style-type: none"> EVスイッチを押したとき、エンジン暖機中に表示 	<ul style="list-style-type: none"> エンジンが温まったあと、再度EVスイッチを押してください。
 <p>EV 暖房が作動しているため EVモードにセット できません</p>	<ul style="list-style-type: none"> EVスイッチを押したとき、暖房のためエンジン駆動していると表示 	<ul style="list-style-type: none"> エアコンの設定温度に達するまでEVモードの走行はできません。

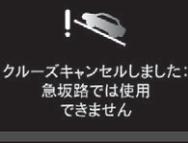
メッセージ	表示される状況	アドバイス
 <p>車速が高すぎるため EVモードにセット できません</p>	<ul style="list-style-type: none"> EVスイッチを押したとき、高速走行でエンジン駆動していると表示 	<ul style="list-style-type: none"> 高速走行中はEVモードの走行はできません。
 <p>強い加速中のため EVモードにセット できません</p>	<ul style="list-style-type: none"> EVスイッチを押したとき、加速などでエンジン駆動していると表示 	<ul style="list-style-type: none"> EVモードは低速で一定な走行中に利用できます。
 <p>EVモードが解除されました</p>	<ul style="list-style-type: none"> 下記の場合、EV走行モードが自動的に解除されると表示 <ul style="list-style-type: none"> 高電圧バッテリーの残量が少ないとき 高電圧バッテリーの温度が高いとき 車速が高いとき エンジン暖機が終わる前に、車速が40km/hをこえたとき アクセルペダルを大きく踏み込んだとき 坂道などを走行しているとき 	—
 <p>EVモードにセットできません</p>	<ul style="list-style-type: none"> EVスイッチを押したとき、エンジン駆動が必要なときに表示 	—
 <p>シフト操作: ブレーキペダルを踏み シフト操作をしてください</p>	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキペダルを踏まずに、シフトポジションの P N から他のシフトポジションを選択したときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキペダルを踏んで、シフトポジションの操作を行ってください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
 <p>アクセルペダルを踏まずにシフト操作をしてください</p>	<ul style="list-style-type: none"> アクセルペダルから足を離さずに、シフトポジションの P N から他のシフトポジションを選択したときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んで、シフトポジションの操作を行ってください。
 <p>車両を停車してからシフト操作をしてください</p>	<ul style="list-style-type: none"> 停車させずに P スイッチを押したとき 走行中、停車させずに進行方向と反対のシフトポジションを選択したときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> シフトポジションを操作する時は、はじめに停車させてください。
 <p>安全な場所に車両を停車し確実に固定してください</p>	<ul style="list-style-type: none"> 電気系統に失陥の可能性があるときと表示 走行中にパワーモードをOFFモードにすると表示 	<ul style="list-style-type: none"> ただちに安全な場所に車を停車してパーキングブレーキをかけてください。 メッセージが消えれば異常はありません。 異常があるとトランスミッション警告灯が点灯します。 トランスミッション警告灯 P.53
 <p>パーキングにしてください</p>	<ul style="list-style-type: none"> 車両が停止中に運転者がシートベルトを外し、車両が動く可能性があるときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> 停車中や車外に出るときは、ブレーキペダルから足をはなす前に P スイッチを押してください。
 <p>シフト操作一時不可しばらくしてから再度操作してください</p>	<ul style="list-style-type: none"> シフトポジションの P とそれ以外のポジション切り換え操作を短時間のあいだに繰り返すと表示 12Vバッテリーの残量が少なくシフトポジションを変更できないときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> しばらく時間をおいてからシフトポジションを切り換えてください。 パワーモードがONの状態ですしばらくお待ちください。 12Vバッテリーの寿命が近いです。Honda 販売店で点検を受けてください。
 <p>Nレンジですアクセルペダルから足を離してください</p>	<ul style="list-style-type: none"> シフトポジションが N のときにアクセルペダルを踏むと表示 	<ul style="list-style-type: none"> アクセルペダルから足を離してください。走行するときは、ブレーキペダルを踏んで、シフトポジションの操作を行ってください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
 <p>オートマチックブレーキ ホールド OFF</p>	<ul style="list-style-type: none"> オートマチックブレーキホールドスイッチを押して、オートマチックブレーキホールドシステムをOFFにすると表示 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ オートマチックブレーキホールド P.208
 <p>オートマチックブレーキ ホールド スタンバイ: シートベルト着用後 スイッチを押す</p>	<ul style="list-style-type: none"> 運転席のシートベルトを着用せずに、オートマチックブレーキホールドスイッチを押すと表示 	<ul style="list-style-type: none"> 運転席のシートベルトを着用してください。 ➤ オートマチックブレーキホールド P.208
 <p>オートマチックブレーキ ホールド OFF: ブレーキペダルを踏み スイッチを押す</p>	<ul style="list-style-type: none"> オートマチックブレーキホールドが作動中に、ブレーキペダルを踏まずにオートマチックブレーキホールドスイッチを押すと表示 	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキペダルを踏みながらオートマチックブレーキホールドスイッチを押してください。 ➤ オートマチックブレーキホールド P.208
 <p>パーキングブレーキ システムが作動しました</p>	<ul style="list-style-type: none"> オートマチックブレーキホールドが作動中に、自動的にパーキングブレーキがかかったときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ オートマチックブレーキホールド P.208 ➤ 電子制御パーキングブレーキ P.204
 <p>オートマチックブレーキホールド システムが解除されました ブレーキペダルを 踏んでください</p>	<ul style="list-style-type: none"> オートマチックブレーキホールドが作動中に、自動的にオートマチックブレーキホールドが停止したときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> ただちにブレーキペダルを踏んでください。
 <p>パーキングブレーキ 解除方法: ブレーキを踏み スイッチを押す</p>	<ul style="list-style-type: none"> 電子制御パーキングブレーキが作動中に、ブレーキペダルを踏まずにパーキングブレーキスイッチを押すと表示 	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキペダルを踏んでパーキングブレーキスイッチを押してください。 ➤ 電子制御パーキングブレーキ P.204

メッセージ	表示される状況	アドバイス
 <p>ACC ACC LKAS OFF</p>	<ul style="list-style-type: none"> 渋滞追従機能付 ACC の作動が自動的に解除されたときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> 渋滞追従機能付 ACC が自動解除になった原因が解決された場合、[RES/+] スイッチを押すことにより、元の設定速度に戻すことができます。 ☑ 渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) P.170
	<ul style="list-style-type: none"> 衝突の可能性があるときブザーが断続的に鳴り警告が点滅 	<ul style="list-style-type: none"> ☑ 衝突軽減ブレーキ(CMBS) P.155 ☑ 誤発進抑制機能 P.162 ☑ 後方誤発進抑制機能 P.164 ☑ 渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) P.170
 <p>クルーズセットできません: 車速が高すぎます</p>	<ul style="list-style-type: none"> 車速が高すぎて渋滞追従機能付 ACC がセットできないときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> 車速を下げた後から渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ☑ 渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) P.170
 <p>クルーズキャンセルしました: 車速が高すぎます</p>	<ul style="list-style-type: none"> 車速が高すぎて渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> 車速を下げた後から渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ☑ 渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) P.170
 <p>クルーズキャンセルしました: ブレーキペダルを踏んでください</p>	<ul style="list-style-type: none"> 渋滞追従機能付 ACC によって自車が自動的に停止しているとき、渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> ただちにブレーキペダルを踏んでください。 ☑ 渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) P.170
 <p>クルーズセットできません: 先行車が検出できていません</p>	<ul style="list-style-type: none"> 車速30km/h未満で先行車がいなくてセットできないときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> 先行車がいる状態または車速30km/h以上で走行して渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ☑ 渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) P.170

メッセージ	表示される状況	アドバイス
 <p>クルーズセットできません： 先行車が近すぎます</p>	<ul style="list-style-type: none"> 先行車との車間距離が接近しすぎてセットできないときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> 先行車との車間距離をとってから渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ☑ 渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) P.170
 <p>クルーズセットできません： 急坂路では使用できません</p>  <p>クルーズセットできません： 急坂路では使用できません</p>	<ul style="list-style-type: none"> 急な坂道で停車していてもセットできないときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> 坂道が緩やかになってから渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ☑ 渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) P.170
 <p>クルーズセットできません： シートベルトを着用してください</p>	<ul style="list-style-type: none"> 運転席のシートベルトが着用されておらずセットできないときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> 運転席のシートベルトを着用してから渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ☑ 渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) P.170
 <p>クルーズセットできません： Dレンジに入れてください</p>	<ul style="list-style-type: none"> シフトポジションが D 以外でセットできないときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> シフトポジションを D にしてから渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ☑ 渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) P.170
 <p>クルーズセットできません： パーキングブレーキを解除してください</p>	<ul style="list-style-type: none"> パーキングブレーキがかかっている状態でセットできないときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> パーキングブレーキを解除してから渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ☑ 渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) P.170 ☑ 電子制御パーキングブレーキ P.204

メッセージ	表示される状況	アドバイス
 <p>RES/+スイッチを押すと発進できます</p>	<ul style="list-style-type: none"> 渋滞追従機能付 ACC によって自車が自動的に停止しているとき、先行車が発進したときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> RES/+ スイッチか SET/- スイッチを押す、またはアクセルペダルを踏むと発進できます。 ☑ 渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) P.170
 <p>クルーズセットできません： ブレーキペダルが踏まれています</p>	<ul style="list-style-type: none"> 走行中にブレーキペダルを操作してセットできないときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキペダルを操作していない状態で渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ☑ 渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) P.170
 <p>クルーズキャンセルしました： 先行車が検出できていません</p>	<ul style="list-style-type: none"> 停車中に先行車が発進し、レーダーセンサーの検知範囲からいなくなって渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> 先行車がいる状態または車速 30km/h以上で走行して渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ☑ 渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) P.170
 <p>クルーズキャンセルしました： 先行車が近すぎます</p>	<ul style="list-style-type: none"> 先行車との車間距離が接近しすぎて渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> 先行車との車間距離をとってから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ☑ 渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) P.170
 <p>クルーズキャンセルしました： 急坂路では使用できません</p>  <p>クルーズキャンセルしました： 急坂路では使用できません</p>	<ul style="list-style-type: none"> 急な坂道で停車して渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> 坂道が緩やかになってから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ☑ 渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) P.170

メッセージ	表示される状況	アドバイス
 <p>クルーズキャンセルしました: シートベルトを 着用してください</p>	<ul style="list-style-type: none"> 渋滞追従機能付 ACC によって自車が自動的に停止しているとき、運転席のシートベルトが外されたときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> 運転席のシートベルトを着用してから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➤ 渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) P.170
 <p>クルーズキャンセルしました: Dレンジに入っていない</p>	<ul style="list-style-type: none"> 渋滞追従機能付 ACC が作動しているときにシフトポジションを [D] 以外にしたときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> シフトポジションを [D] にしてから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➤ 渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) P.170
 <p>クルーズキャンセルしました: パーキングブレーキが 作動しました</p>	<ul style="list-style-type: none"> 渋滞追従機能付 ACC が作動しているときにパーキングブレーキがかけられたときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> パーキングブレーキを解除してから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➤ 渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) P.170
 <p>先行車の発進を 検知しました</p>	<ul style="list-style-type: none"> 先行車発進お知らせ機能が作動すると表示 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 先行車発進お知らせ機能 P.194
 <p>クルーズキャンセルしました: スリップを検知しました</p>	<ul style="list-style-type: none"> 渋滞追従機能付 ACC が作動しているときにスリップやホイールスピンなどが発生したときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> 渋滞追従機能付 ACC を使用するときは再度、設定しなおしてください。 ➤ 渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) P.170

メッセージ	表示される状況	アドバイス
 <p>まもなくクルーズ キャンセルします： 長い下り坂では 使用できません</p> <p>▼</p>  <p>クルーズキャンセルしました</p>	<ul style="list-style-type: none"> 長い下り坂などを走行時、渋滞追従機能付 ACC の作動が自動的に解除される直前に表示(先行車との車間距離が、車間距離設定で最長を選択したときの距離まで自動的に開きます。) 渋滞追従機能付 ACC の作動が自動的に解除されたときに表示 	<p>➤ 渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) P.170</p>
 <p>クルーズセットできません： 長い下り坂では 使用できません</p>	<ul style="list-style-type: none"> 長い下り坂などを走行時、渋滞追従機能付 ACC をセットできないときに表示 	<p>—</p>
 <p>車線逸脱注意 (オレンジ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 車線を越えそうなときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> ハンドル操作をして、車線の中央を走行してください。しばらくすると、警告メッセージが消えます。 ➤ 路外逸脱抑制機能 P.190 ➤ LKAS(車線維持支援システム) P.183
 <p>車線逸脱注意 (レッド)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ハンドルを操作しないで、もしくはハンドルから手を放したまま走行し、車線を越えそうになると、警告音と同時に表示 	<ul style="list-style-type: none"> ハンドル操作をして、車線の中央を走行してください。しばらくすると、警告メッセージが消えます。 ➤ LKAS(車線維持支援システム) P.183
 <p>ハンドルを握ってください (レッド)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 運転者がハンドルから手を放したまま走行したり、ハンドルの操作量が少ないと点滅し、そのまま運転を続けると警告音が連続音になり LKAS が OFF になります。 	<ul style="list-style-type: none"> ハンドル操作をすると、警告メッセージが消えます。 ➤ LKAS(車線維持支援システム) P.183

メッセージ	表示される状況	アドバイス
 <p>ハンドル操作アシスト中</p>	<ul style="list-style-type: none"> 車線からはみ出るような走行をすると、ハンドル制御と同時に表示 	<ul style="list-style-type: none"> ハンドル操作をして、車線の中央を走行してください。しばらくすると、警告メッセージが消えます。 ➤ 路外逸脱抑制機能 P.190
 <p>LKAS(車線維持支援システム)が使用できません</p>	<ul style="list-style-type: none"> LKAS システムに異常が起これば、または LKAS システムに異常がある場合に LKAS スイッチを押したときに警告音と同時に表示 	<ul style="list-style-type: none"> VSA 警告灯、ABS 警告灯、ブレーキシステム警告灯が同時に点灯した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
 <p>運転支援システムのカメラの温度が下がるまでお待ちください</p>	<ul style="list-style-type: none"> フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になり、運転支援システムの一部が使用できなくなると表示 	<ul style="list-style-type: none"> エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。 ➤ フロントセンサーカメラ P.201 ➤ ホンダセンシング P.153
 <p>運転支援システムの一部が使用できません フロントウィンドウの汚れを取り除いてください</p>	<ul style="list-style-type: none"> フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があり、運転支援システムの一部が使用できなくなると表示 雨、霧、雪など悪天候のときも表示することがあります 	<ul style="list-style-type: none"> 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 ➤ フロントセンサーカメラ P.201 ➤ ホンダセンシング P.153
 <p>運転支援システムの一部が使用できません レーダーの汚れを取り除いてください</p>	<ul style="list-style-type: none"> フロントロアグリルに汚れなどの遮蔽物がありレーダーセンサーが前の車両等を検知しにくいときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> 安全な場所に停車してフロントロアグリルの汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 ➤ レーダーセンサー P.202 ➤ ホンダセンシング P.153

メーターとマルチインフォメーションディスプレイ

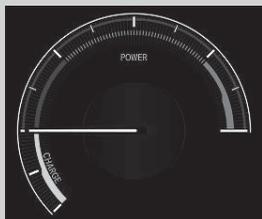
■ 燃料計

アドバイス

燃料計が **E** に近づいたら、早めに給油してください。

燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

■ パワー表示(POWER)/ チャージメーター表示(CHARGE)



モーター出力と高電圧バッテリーへの充電の状態を表示します。

モーター出力と高電圧バッテリーへの充電の状態は、マルチインフォメーションディスプレイで「パワーフロー」を選択すると表示されます。

☞ 高電圧バッテリー残量 / パワーフロー / エンジン作動表示 P.87

■ 高電圧バッテリー残量計

高電圧バッテリー内の充電量を表示します。

次のような場合は、高電圧バッテリー残量表示が下がることがあります。

- 12V バッテリーを交換したとき
 - 12V バッテリーの端子を外したとき
 - 高電圧バッテリー制御システムが残量の誤差を補正したとき
- 走行すると自動的に充電されます。

マルチインフォメーションディスプレイ

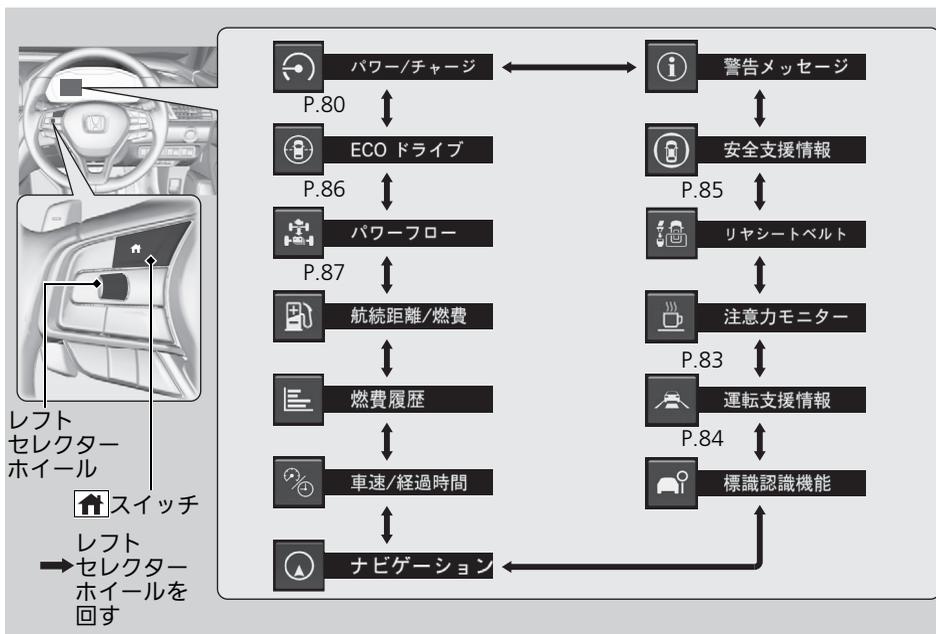
マルチインフォメーションディスプレイには、オドメーター、トリップメーター、外気温表示、燃費情報などが表示されます。

また、異常を検知するとメッセージが表示されます。

■ 表示の切り換えかた

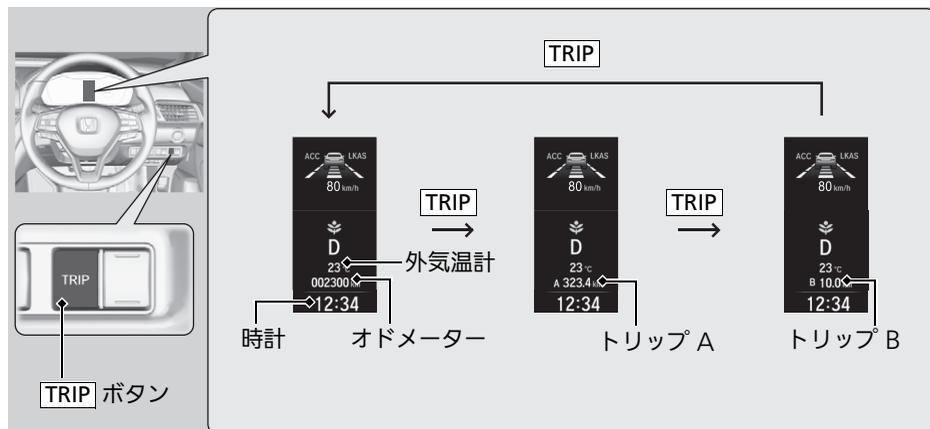
■ メインディスプレイ

🏠スイッチを押し、レフトセクターホイールを回すと表示が切り換わります。レフトセクターホイールを押して決定してください。



■ サブディスプレイ

TRIP ボタンを押すごとに画面が切り換わります。



警告メッセージが表示されているときは、**HOME**スイッチを押すと消えます。

ホーム画面に戻るには、**HOME**スイッチを押します。

■ トリップメーター

■ トリップメーターをリセットするには

リセットしたいトリップメーターが表示されている状態で、**TRIP** ボタンを押し続けてください。トリップメーターが0.0にリセットされます。

トリップメーターA、Bをリセットすると、平均燃費表示A、B、平均车速表示A、B、経過時間表示A、Bも同時にリセットされます。

トリップメーターA、Bと平均燃費表示A、Bを給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

トリップメーターA、Bと平均车速表示A、Bを給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

■ ドライバー注意カモニター

ドライバー注意カモニターは運転者のハンドル操作に応じて居眠り運転や不注意運転を検知します。システムが検知したハンドル操作に応じて、マルチインフォメーションディスプレイ内に運転者の注意カレベルを表示します。



マルチインフォメーションディスプレイで「注意カモニター」を選択すると、ドライバー注意カレベルを白い目盛りで表示します。



注意カレベルの目盛りが2になると「ドライバー注意カレベル低下」が表示されます。



注意カレベルの目盛りが1になると「ドライバー注意カレベル低下 休憩をとってください」が表示され、警報音とハンドル振動で運転者に知らせます。

このメッセージが表示されたら、安全な場所に車を停車し、十分に休憩をとってください。

レフトセクターホイールを押すか、システムが運転を正常と判断するとメッセージが消えます。

運転者が休憩をとらず、システムが注意カ低下を検知し続けた場合、15分後にメッセージ表示、警報音、ハンドル振動により再度運転者に知らせます。

30分未満の運転では、メッセージは表示しません。

■ カスタマイズ設定

Honda インターナビシステムを使用してシステムの設定をカスタマイズすることができます。

ドライバー注意力モニターは、運転者の疲労や注意力を常時検知するものではありません。

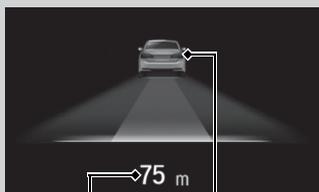
ドライバー注意力レベルの表示に関わらず、疲労を感じたときは、安全な場所で十分に休憩をとってください。

ドライバー注意力モニターが作動していないときは、ドライバー注意力レベル表示の目盛りがグレーになります。

■ 運転支援情報

運転支援情報は、先行車までの距離を表示します。また、渋滞追従機能付 ACC、LKAS の作動状況を表示します。渋滞追従機能付 ACC が作動すると、設定した車間距離が表示されます。LKAS が作動しているときは、車線の表示が状況に応じて変化します。

▶ 渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) P.170



先行車のアイコン

先行車までの距離

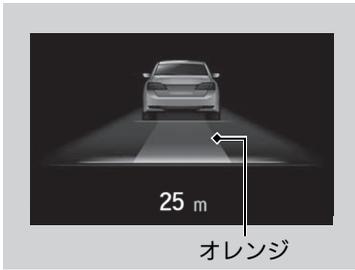
ACC、LKAS が ON のとき

設定した車間距離



ACC ON: 車両アイコンの後方がグリーンで表示されます
LKAS ON: 車線が枠で表示されます
LKAS 作動: 車線が面で表示されます
LKAS 自動解除: 車線が点線で表示されます

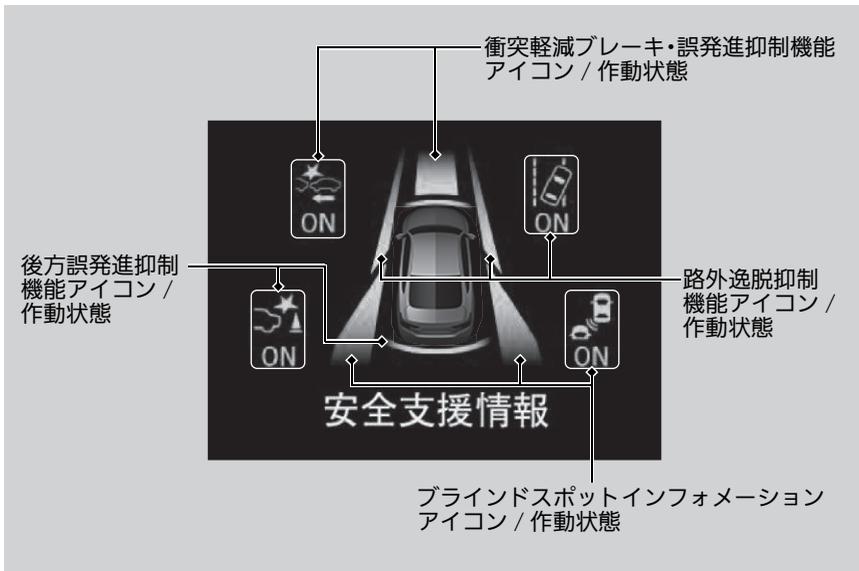
渋滞追従機能付 ACC が作動していない状態で先行車との車間が近い場合、車両アイコンの後方が警告のためオレンジで表示されます。



■ 安全支援情報

安全支援情報は、路外逸脱抑制機能、ブラインドスポットインフォメーション、後方誤発進抑制機能、衝突軽減ブレーキ・誤発進抑制機能の作動状態を表示します。

- グリーン: 作動中
- グレー: 停止中
- オレンジ: システムが異常のとき



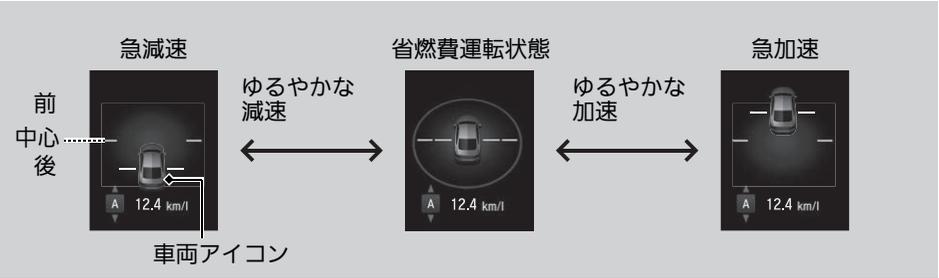
■ ECO ドライブ

■ ECO ドライブディスプレイ

運転操作の状態に応じて車両アイコンが前後に移動します。

急な加速を行うほど車両アイコンが前側に動き、急な減速を行うほど車両アイコンが後側に動きます。

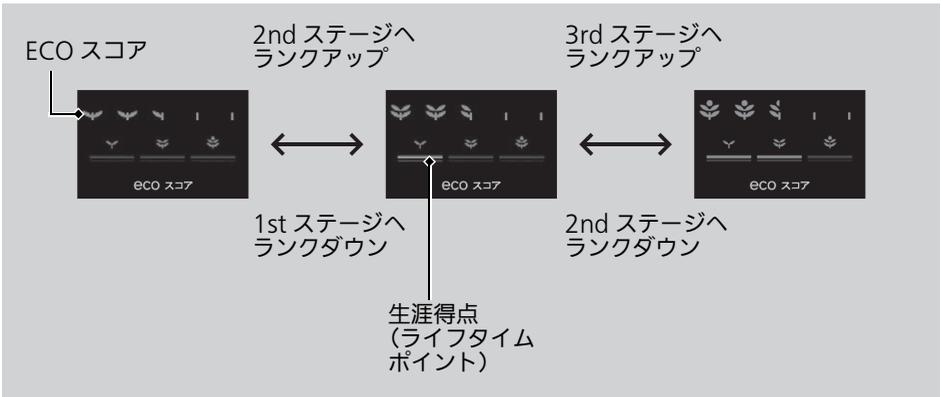
車両が中心からずれないように運転することで、スムーズな省燃費運転となります。



■ ECO スコア

パワーモードを OFF モードにすると、数秒表示されます。

1st ステージから 3rd ステージまで 3 つのランクがあり、運転操作の状態に応じてリーフが増減し、ランクアップ(ダウン)します。

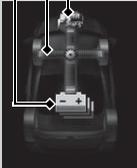


■ ECO スコアのリセット

1. シフトポジションが **P** であることを確認し、パワーモードを ON モードにする。
2. ECON モードが ON のときは、ECON スイッチを押して ECON モードを OFF にする。
3. パワーモードを OFF モードにする。
4. 再度パワーモードを ON モードにする。
 - ▶ 手順 4～6 は、30 秒以内に行ってください。
5. ブレーキペダルを 2 回踏み込む。
6. ECON スイッチを 2 回押す。
 - ▶ アンビエントメーターが消灯します。
7. パワーモードを OFF モードにする。

■ 高電圧バッテリー残量 / パワーフロー / エンジン作動表示

高電圧バッテリーの残量や、高電圧バッテリーへの充電、アシスト状態を表示します。

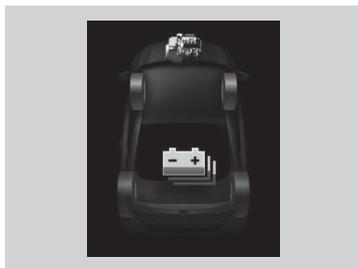
<p>高電圧バッテリー残量表示</p> <p>パワーフロー表示</p> <p>エンジン作動表示</p>		 作動中  停止中
 <p>(ブルー)</p>	 <p>(ブルー)</p>	 <p>(ブルー / グリーン)</p>
<p>ハイブリッド走行 エンジン作動と モーターアシスト</p>	<p>EV 走行 モーターのみ作動</p>	<p>エンジン走行 エンジン作動し 高電圧バッテリーへ充電中</p>
 <p>(グリーン)</p>	 <p>(ブルー)</p>	 <p>(グリーン)</p>
<p>回生 高電圧バッテリーへ充電中</p>	<p>エンジンのみ作動</p>	<p>エンジン作動し 高電圧バッテリーへ充電中</p>

パワー表示(POWER)とチャージメーター表示(CHARGE)の動きとパワーフロー/エンジン作動表示の動きは、状況により一致しない場合があります。

次のような場合は、高電圧バッテリー残量表示が下がることがあります。

- 12V バッテリーを交換したとき
 - 12V バッテリーの端子を外したとき
 - 高電圧バッテリー制御システムが残量の誤差を補正したとき
- 走行すると自動的に充電されます。

アイドリング中で、高電圧バッテリーを充電していないとき下記が表示されます。



各表示設定については左の QR コードから詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。



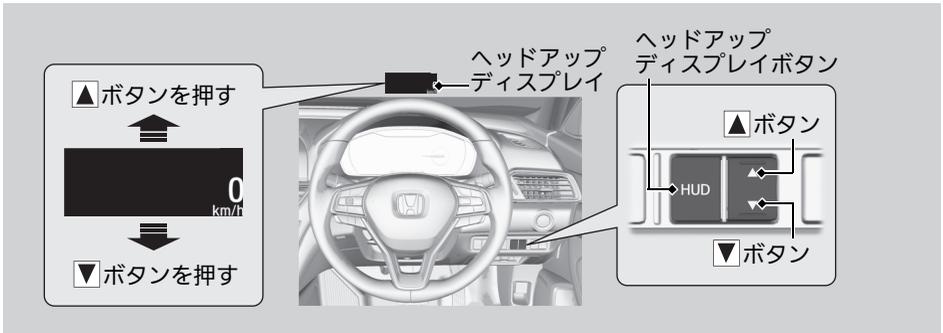
ヘッドアップディスプレイ

ヘッドアップディスプレイは、スピードメーター、渋滞追従機能付 ACC/LKAS の現在の状態、パワー表示(POWER)/チャージメーター表示(CHARGE)、シフトポジション表示灯、減速セレクト表示灯、標識認識機能表示、交差点案内表示/コンパス表示を表示できます。パワーモードがONモードのときに表示され、表示内容はハンドルにある  スイッチで選択します。

ヘッドアップディスプレイを ON/OFF するには:ヘッドアップディスプレイボタンを押します。

画面は目の高さに合わせて上下に移動できます。

ヘッドアップディスプレイの表示位置を上下に移動させるには:  または  ボタンを押して好みの位置に調節します。



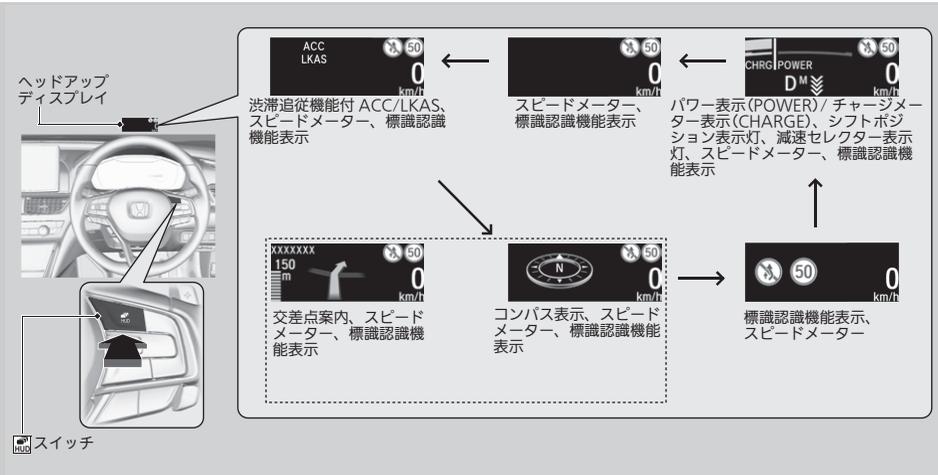
車両情報のほか、以下が表示されます。

- 車線逸脱警報:車線を越えそうになるとハンドルの振動による警告と同時に表示されます。
 - ▶ **LKAS(車線維持支援システム)** P.183
- ヘッドアップワーニング:
 - CMBSまたは渋滞追従機能付ACCが作動し、マルチインフォメーションディスプレイに  が表示されると点滅します。
 - ▶ **衝突軽減ブレーキ(CMBS)** P.155
 - ▶ **渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.170

画面の高さは、Hondaスマートキーで解錠して運転席ドアを開けると、DRIVER1のキーとDRIVER2のキーを判別して、記憶した位置に自動調節されます。

■ 表示の切り換えかた

 スイッチを押すごとに表示が切り換わります。



エコアシストシステム

アンビエントメーター



SPORT モード以外のモードで走行中のときの運転の状態を表示します。省燃費状態の時はアンビエントメーターの色が緑色に変化します。

この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。

ドアの施錠と解錠

キー

パワーシステムの起動、停止のほかに、すべてのドア、トランク、フューエルリッドの施錠 / 解錠に使用できます。

キーの故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 砂やほこりを避ける
- 分解をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

■ 内蔵キー



Honda スマートキーの電池が切れたときや車の12V バッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。

内蔵キーは、レバーを引ながら取り出します。

収納するときは、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

Honda スマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーは Honda スマートキーに収納しておいてください。

Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
- 電池交換時以外は分解しない
- 改造しない
- キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない

分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

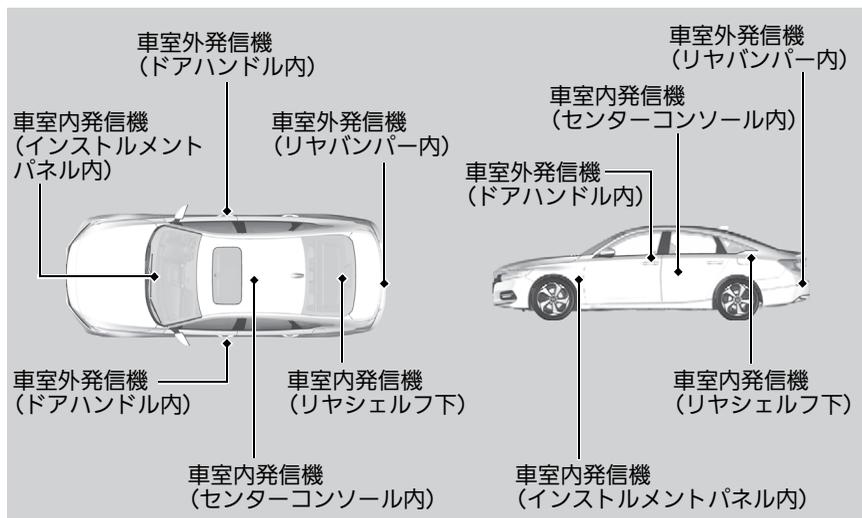
❏ Honda スマートキーの電池が切れたとき P.256

Honda スマートキーの微弱電波

Honda スマートキーを使用して施錠 / 解錠操作をするときやパワーモードを ON モードにするとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。

そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 強い電磁波を発する機器や設備が近くにあるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



⚠ 注意

植込み型心臓ペースメーカーや植込み型除細動器などの医療機器を装着されているかたは、車両に搭載されている発信機から 22cm 以内に近づかない。

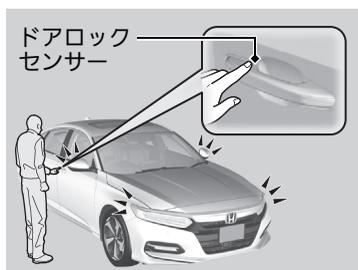
Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

車外でのドアの施錠 / 解錠

■ Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

Honda スマートキーを携帯し、ドアロックセンサー、ドアハンドルを操作することでドア、トランク、フューエルリッドの施錠や解錠ができます。

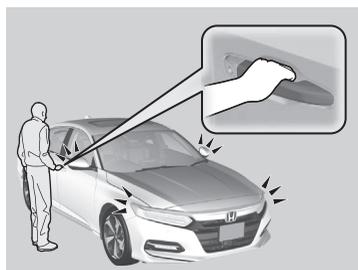
施錠 / 解錠が作動するのは、運転席または助手席ドアハンドルから周囲約 80cm 以内です。



■ 施錠するには

運転席ドアまたは助手席ドアのドアロックセンサーに触れます。

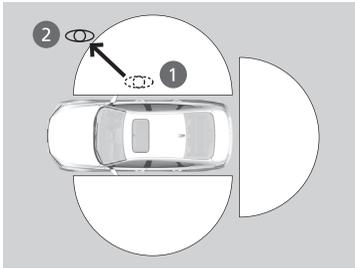
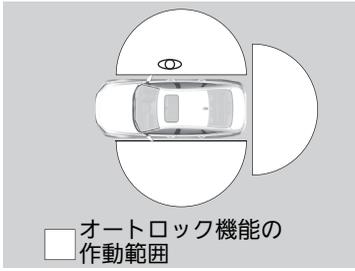
- ▶ 「ピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、トランク、フューエルリッドが施錠されます。



■ 解錠するには

運転席または助手席ドアハンドルを握ります。

- ▶ 「ピピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が 2 回点滅し、すべてのドア、トランク、フューエルリッドが解錠されます。



■ 施錠するには(降車時オートドアロック機能)

Honda スマートキーを携帯し、車から離れると、ドアが自動的に施錠します。

このオートロック機能は、すべてのドアが閉まっている状態で、Honda スマートキーが運転席または助手席ドアハンドルから周囲約 1.5m 以内にあるときに起動します。

Honda スマートキーを携帯し、降車してドアを閉めてください。

- そのまま約 1.5m 以内で待つ。
 - ▶ 「ピッ」と音が鳴り、オートロック機能が起動します。
- Honda スマートキーを携帯したまま、約 1.5m 以上離れて、約 2 秒待つ。
 - ▶ 「ピッ」と音が鳴り、非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、トランク、フューエルリッドが施錠されます。

降車時オートドアロック機能の工場出荷時の設定は OFF になっています。

ON にするときは、Honda インターナビシステムのカスタマイズ機能で設定を変更してください。

■ キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠



■ 施錠

施錠ボタンを押します。

- ▶ 非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、トランク、フューエルリッドが施錠されます。

■ 解錠

解錠ボタンを押します。

- ▶ 非常点滅表示灯が 2 回点滅し、すべてのドア、トランク、フューエルリッドが解錠されます。

■ キーを差し込んでの施錠 / 解錠

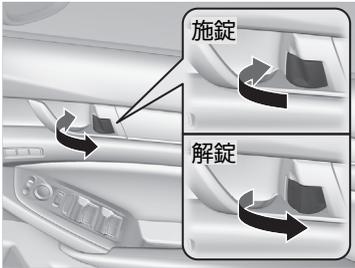
Honda スマートキーのボタンで施錠 / 解錠できない場合は内蔵キーを使用してください。



キーを確実に差し込んで、回します。

車内での施錠 / 解錠

■ ノブでの施錠 / 解錠

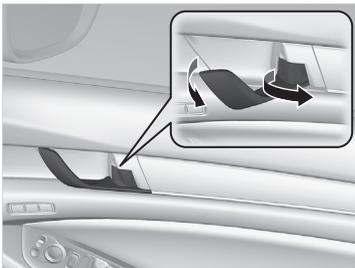


■ 施錠するには
ノブを押し込みます。

■ 解錠するには
ノブを引き出します。

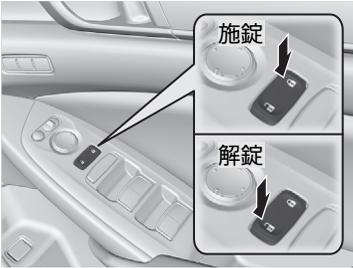
運転席ドアのノブで施錠/解錠すると、ほかのすべてのドア、トランク、フューエルリッドも同時に施錠 / 解錠されます。

■ 運転席ドアハンドルでの解錠



運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。

■ マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠



マスタードアロックスイッチを施錠 / 解錠のほうに押しします。

チャイルドプルーフ

チャイルドプルーフとは、走行中などにお子さまが車外に放り出されることを防止するため、ノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けることができないようにする機能です。

お子さまをリヤシートに乗せるときなどにお使いください。

■ チャイルドプルーフのセット



後席ドアについているツマミを、施錠の位置にしてドアを閉めます。

■ ドアを開ける場合

外側のハンドルで開けます。

オートドアロック / オートドアアンロック



▶ オートドアロック/オートドアアンロックの操作や設定については左のQRコードから詳細取扱説明書 (HTML 版) を参照してください。

トランクの開閉

トランク開閉時の注意

トランク開閉をするときは、下記の点に注意してください。

■ トランクを開けているとき

- トランクは上までしっかりと開ける。
 - ▶ 途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。
- 風の強い日は、風にあおられて閉まらないように注意する。
- トランクを開けたまま走行しない。
 - ▶ 車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。
 - ▶ 一酸化炭素について P.44

■ トランクを閉めるとき

- Honda スマートキーを、トランク内に置き忘れないように注意する。

注意

トランクを閉めるときは、頭をぶついたり手をはさまないように注意する。

エンジンが始動している状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないようにする。

やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

トランク内には、人を乗せない。

ブレーキや加速、衝突のときにけがをすることがあります。

トランク内にお子さまが入らないように注意する。

トランクは中から開けることはできません。

運転席ドアが施錠されているとき：トランクを閉めると、トランクも施錠されます。

運転席ドアが解錠されているとき：トランクを閉めても、施錠されません。

セキュリティシステム

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムとは、キーに信号を発信する電子部品が組み込まれており、あらかじめ登録されたキーでないとパワーシステムの起動ができないようにしたシステムです。

システムの改造や追加をしないでください。

システムが故障するおそれがあります。

セキュリティアラームシステム

セキュリティアラームシステムは、内蔵キー、キーレスエントリーシステムあるいは Honda スマートキーシステムを使わずにドア、トランク、ボンネットを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■ 作動すると

ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯が点滅します。

■ 停止させるには

Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーで解錠するか、パワーモードを ON モードにしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

■ セットするには

セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。

- パワーモードが OFF モードのとき
- ボンネットが閉まっているとき
- Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーですべてのドアとトランクが施錠されているとき

■ セットされると

メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

■ セットを解除するには

Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーで解錠するか、パワーモードを ON モードにすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

システムの改造や追加をしないでください。

システムが故障するおそれがあります。

セキュリティアラームシステムをセットした後に 12V バッテリーがあがり、12V バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。

そのときは、Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーでドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

ウィンドーの開閉

パワーウィンドーの開閉

パワーモードが ON モードのときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。

運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンを OFF にしてから行います。パワーウィンドーロックボタンを OFF にすると、ボタンにある表示灯が消灯します。

パワーウィンドーロックボタンを ON(表示灯点灯)にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンを ON にしておいてください。

警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。

手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

注意

指などをはさみ込まないように注意する。

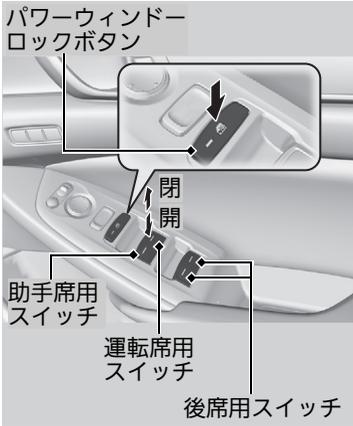
確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

お子さまだけを車内に残さない。必ず Honda スマートキーを携帯しドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

故障などではさみ込み防止機構が作動し、自動でウィンドーを閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。

路面や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

■ ウィンドーの開閉



■ 手動開閉

開けるとき: スイッチを軽く押す

閉めるとき: スイッチを軽く引き上げる

希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

■ 自動開閉

開けるとき: スイッチを強く押す

閉めるとき: スイッチを強く引き上げる

自動的に全開 / 全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ / 下げします。

サンルーフ

警告

サンルーフを開閉するときは、手や顔などをはさまないように注意する。

サンルーフにはさまれて、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気を付けてください。

注意

指などをはさみ込まないように注意する。

確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

走行中や停車中にルーフ開口部から頭や手、ものなどを出さない。

障害物や急ブレーキなどで思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまだけを車内に残さない。必ず Honda スマートキーを携帯しドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

故障などではさみ込み防止機構が作動してしまい、サンルーフを閉めることができなくなる場合があります。スイッチを軽く閉方向に約 15 秒間押し続けると、応急処置としてはさみ込み防止機構が解除され、断続的にサンルーフを閉めることができます。サンルーフが完全に閉まるまで、スイッチを押し続けてください。応急処置後は Honda 販売店で点検を受けてください。

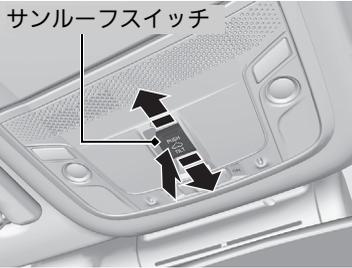
サンルーフを低温下や雪、氷が付いた状態で操作すると、パネルやモーターが損傷するおそれがあります。

サンルーフの開閉

パワーモードが ON モードのときに、サンルーフの開閉操作を行うことができます。開閉は前席の天井にあるスイッチで行います。

■ サンルーフスイッチ

サンルーフスイッチ



■ 自動開閉

開けるとき: スイッチを後ろ側へ強く引く

閉めるとき: スイッチを前側へ強く押す

自動開閉中にスイッチを軽く操作すると途中で止まります。

■ 手動開閉

開けるとき: スイッチを後ろ側へ軽く引く

閉めるとき: スイッチを前側へ軽く押す

希望の位置で手を離すことで、サンルーフの開閉を調節します。

■ チルトアップ

開けるとき: スイッチを上へ押す

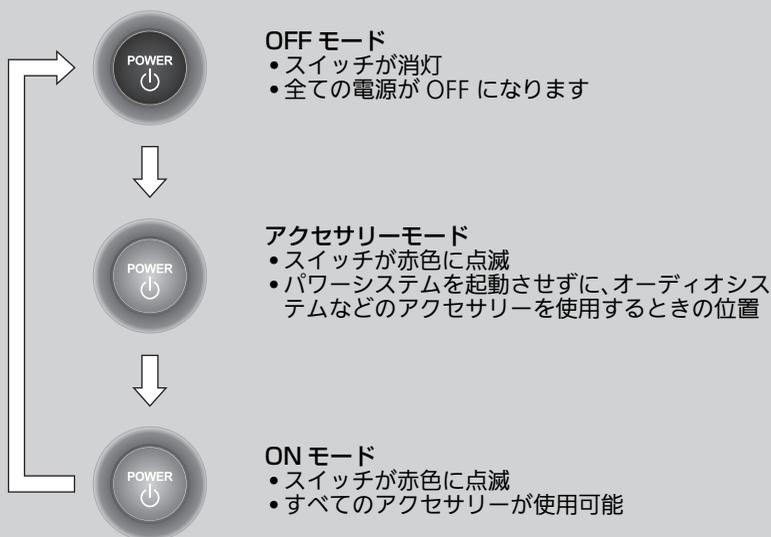
閉めるとき: スイッチを前側へ強く押すと自動で全閉

スイッチを前側へ軽く押したときは離れた位置で停止します。

ハンドルまわりのスイッチ操作

POWER スイッチ

■ パワーモードの切り換えかた



(ブレーキペダルを踏んでいない状態)

⇒ スイッチを押す



☞ POWERスイッチ関連の機能については左のQRコードから詳細取扱説明書(HTML版)を参照してください。

ライトの使いかた

■ ヘッドライト・車幅灯

車外の明るさに応じて自動で点灯します。手動で点灯 / 消灯させることもできます。



パワーモードが ON モードのとき、ライトスイッチを **AUTO** にすると自動点灯が作動します。

■ 手動点灯 / 消灯

ヘッドライト・車幅灯の点灯:

ライトスイッチを **ON** にします。

車幅灯の点灯:

ライトスイッチを **ON** にして手を放します。

- ▶ ヘッドライトは車外の明るさに応じて自動点灯します。
- ▶ 停車中に行くとヘッドライトは消灯します。低速でしばらく走行するか一定以上の車速で走行するとヘッドライトの自動点灯が再開します。
- ▶ 車幅灯の自動点灯を再開するにはスイッチを **ON** にしたあと、**AUTO** にします。

ヘッドライト・車幅灯の消灯:

停車中にライトスイッチを **OFF** にして手を放します。

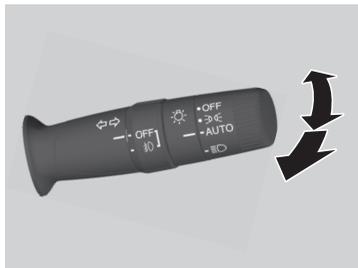
- ▶ 発進すると車幅灯の自動点灯が再開します。低速でしばらく走行するか一定以上の車速で走行するとヘッドライトの自動点灯が再開します。

重い荷物の積載時など、車両の姿勢の変化に応じてヘッドライト光軸の上下方向を自動的に調節するオートレベリング機能が付いています。

ヘッドライト光軸の異常を感じたときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

■ ハイビーム

ヘッドライトが点灯しているとき、レバーを前方に押しとハイビームに切り換わります。手前に引くとロービームに戻ります。

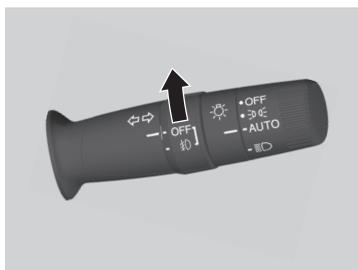


■ パッシング

レバーを手前に引くとハイビームが点灯します。

- ▶ レバーを放すとレバーはロービームの位置に戻ります。

■ フォグライト



メーター内の  インジケーターが点灯しているときに、フォグライトスイッチを回すと点灯します。

■ デイタイムランニングライト

デイタイムランニングライトは以下の条件をすべて満たしたときに点灯します。

- パワーモードが ON モード
- 車両の周囲が明るい
- ヘッドライトが消灯している

停車しているときにライトスイッチを **OFF** にして手を放すとデイタイムランニングライトは消灯します。車両を発進させると再び点灯します。

デイタイムランニングライトと車幅灯は光源を共用しています。

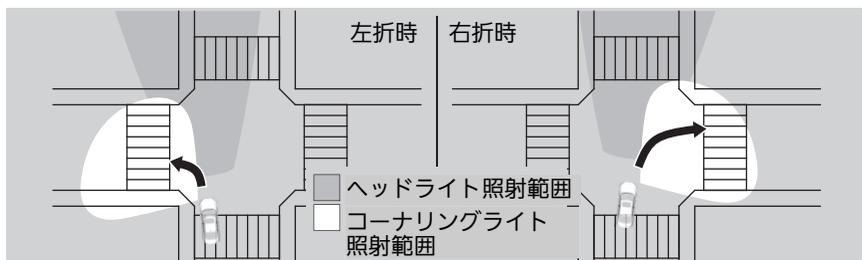
デイタイムランニングライトは車幅灯よりも明るく点灯します。

車幅灯を手動点灯させたときはデイタイムランニングライトは点灯しません。

アクティブコーナリングライト

パワーモードがONモードで、車速が40km/h以下のときにヘッドライトが点灯していると、方向指示器やハンドル操作、シフトポジションを[R]にしたとき、アクティブコーナリングライトが点灯し、夜間走行時の視認性を向上させることができます。

■ 方向指示器、ハンドル操作による点灯



■ シフトポジションスイッチ操作による点灯

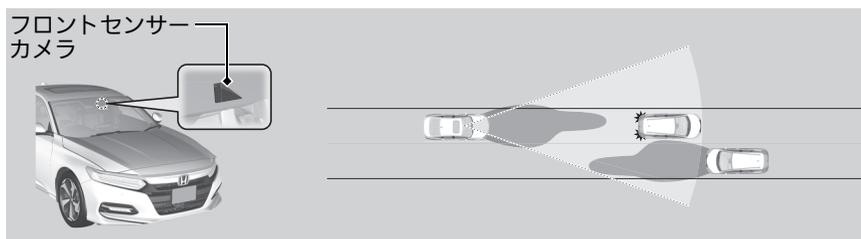
ヘッドライトが点灯しているときにシフトポジションを[R]にすると、左右のアクティブコーナリングライトが同時に点灯します。

アクティブコーナリングライトを5分以上連続点灯させると、自動的に消灯します。

消灯後に再度、方向指示器、ハンドル操作を行うか、シフトポジションを[R]にすると点灯します。

オートハイビーム

夜間走行時にフロントセンサーカメラで前方車両のライトや街灯などを検知し、状況に応じてヘッドライトのハイビームとロービームを自動で切り換えるシステムです。



オートハイビームはあらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。常に周囲の状況を確認し、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り換えてください。

カメラが認識できる範囲や距離は周囲の状況により変化します。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

📷 フロントセンサーカメラ P.201

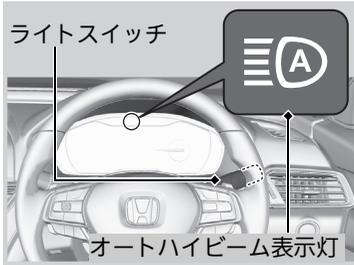
オートハイビームを正しく動作させるために次のことをお守りください。

- インstrumentパネルの上に光を反射するものを置かない
- カメラ付近のガラスはきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れのときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにする
- カメラ付近のガラスにアクセサリ、ステッカーやフィルムを取り付けない
- カメラのレンズに触れない

カメラに強い衝撃が加わったときやカメラ周辺の修理を行うときは Honda 販売店にご相談ください。

■ オートハイビームの使いかた

以下の条件をすべて満たすとオートハイビーム表示灯が点灯し、オートハイビームが作動します。



- パワーモードが ON モード
- ライトスイッチが **AUTO** の位置
- レバーがロービームの位置
- ヘッドライトが自動で点灯している
- 車両の周囲が暗い

上記の条件を満たしていてもオートハイビーム表示灯が点灯しないときは、続けて以下のいずれかの操作を行うことで、オートハイビーム表示灯が点灯します。

- レバーを手前(パッシングの位置)に 2 秒以上引き続け、手を放す
- ライトスイッチを **OFF** に回したあと、**AUTO** に戻す

■ ハイビーム / ロービームの自動切り換え

オートハイビームが作動しているとき、以下の条件によりハイビームとロービームが自動で切り換わります。

ハイビームへの切り換え:

以下の条件をすべて満たすとハイビームに切り換わります。

- 車速が 30km/h 以上
- 前方にライトを点灯した車両がない
- 前方に街灯などの光が少ない



ロービームへの切り換え:

以下の条件のいずれかを満たすとロービームに切り換わります。

- 車速が 24km/h 以下
- 前方にライトを点灯した車両がいる
- 前方に街灯などの光が多い

■ ハイビーム / ロービームの手動切り換え

ハイビームとロービームを手動で切り換えたい場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。このとき、オートハイビーム表示灯が消灯し、オートハイビームが停止します。

レバーによる操作:

レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す。または、レバーを前方(ハイビームの位置)に押す。

- ▶ オートハイビームを復帰させる場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。
- レバーを手前(パッシングの位置)に2秒以上引き続け手を放す
- レバーがロービームの位置のときにライトスイッチを III に回した後、 AUTO に戻す。

このとき、オートハイビーム表示灯が点灯します。

ライトスイッチによる操作:

ライトスイッチを III に回す。

- ▶ オートハイビームを復帰させる場合は、レバーがロービームの位置のときにライトスイッチを AUTO に戻してください。このとき、オートハイビーム表示灯が点灯します。

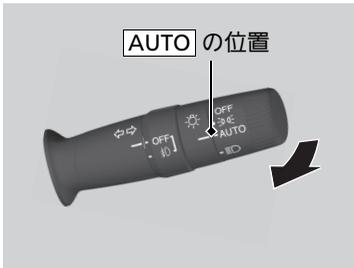
次のような場合、ヘッドライトの切り換えタイミングが変化したり適切に切り換えが行われない場合があります。運転者の感覚に合わない場合は手動で切り換えを行ってください。

- 対向車や先行車のランプが明るい場合や暗い場合、片側点灯や無灯火の場合
- 天候の状況(雨、雪、霧、フロントガラスの霜など)
- 周囲にある街灯、電光掲示、信号機などの光源が明るいとき
- 周囲の明るさが連続的に変わるとき
- カーブが多い道、起伏の激しい道路を走行しているとき
- 前方の車両が突然現れたり、適切な方向を向いていないとき
- トランクに重い荷物を積んで車が傾いているとき
- 車両前方に標識やミラーなどの光を強く反射するものがあるとき
- 中央分離帯、街路樹などで対向車が見え隠れするとき
- 対向車や先行車が二輪車、自転車などのとき

フロントワイパーが高速(HI)作動しているとき、または、フロントセンサーカメラが濃霧と判断しているときは、ロービームが継続します。

■ オートハイビームを OFF に設定変更したいとき

オートハイビームのシステムを OFF に設定変更することができます。設定を行うときはパワーモードが ON モードで停車しているときに以下の操作を行います。



OFF に設定する:

ライトスイッチが **AUTO** のとき、レバーを手前（パッシングの位置）に約40秒間引き続けるとオートハイビーム表示灯が2回点滅します。2回点滅後にレバーから手を放します。

ON に設定する:

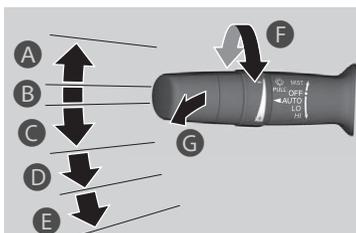
ライトスイッチが **AUTO** のとき、レバーを手前（パッシングの位置）に約30秒間引き続けるとオートハイビーム表示灯が1回点滅します。1回点滅後にレバーから手を放します。

オートハイビームのシステムを OFF に設定変更したとき、ON に設定変更するまでオートハイビームは作動しません。

システムを OFF または ON に設定変更するときは、安全な場所に停車してから設定変更の操作を行ってください。

ワイパー/ ウォッシャー

■ フロントワイパー/ ウォッシャー



パワーモードが ON モードのときに使用できます。

- A MIST: (レバーを操作している間作動)
- B OFF: 停止
- C AUTO: 自動作動
- D LO: 低速 (普通の雨量のとき)
- E HI: 高速 (雨量が多いとき)
- F センサー感度の調節
- G ウォッシャー

⚠ 注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。

ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

ワイパーを乾拭きさせないでください。

ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

アドバイス

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。

ポンプ故障の原因となります。

アドバイス

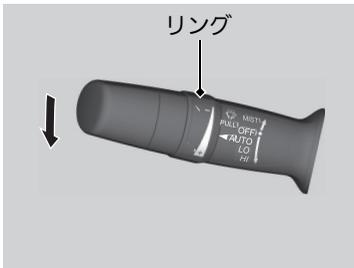
寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。

ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターでフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

ワイパー作動中に雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。

ワイパースイッチを OFF、パワーモードをアクセサリモードまたは OFF モードにしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

■ オートワイパー



レバーを **AUTO** の位置にするとワイパーが1回作動し、その後は自動作動に切り換わります。フロントガラス上部にある雨滴検知センサーが検出した雨滴量に応じて、停止、間欠作動、低速作動、高速作動のいずれかの作動をします。



■ センサー感度の調節

リングを回して、雨滴検知センサーの感度を調節します。



低感度： 雨滴に対して、より鈍感に反応してワイパーを作動します。

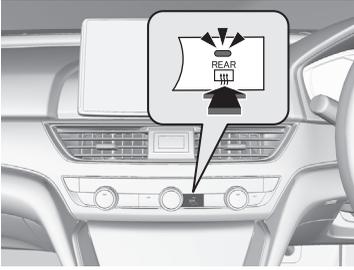
高感度： 雨滴に対して、より敏感に反応してワイパーを作動します。

⚠ 注意

フロントガラスのお手入れをするときは、レバーを必ず OFF にしてください。

パワーモードが ON モードでレバーが **AUTO** のとき、雨滴センサー上部のガラス面に手で触れたり、布で拭き取ったりすると、ワイパーが作動することがあり、手をけがしたりワイパーが損傷するおそれがあります。

リヤデフロスター/ヒートドアミラースイッチ

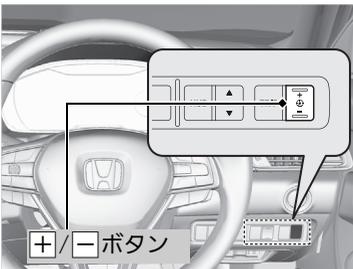


パワーモードが ON モードのときにスイッチを押すと、リヤガラスとドアミラーを暖め、曇りをとることができます。

この装置は消費電力が大きいので、曇りが取れたら OFF にしてください。
また、パワーシステムが停止しているときに長時間使わないでください。12Vバッテリー容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

イルミネーションコントロール

■ インストルメントパネル



パワーモードが ON モードのときに、**+**/**-** ボタンでインストルメントパネルの明るさを調節することができます。

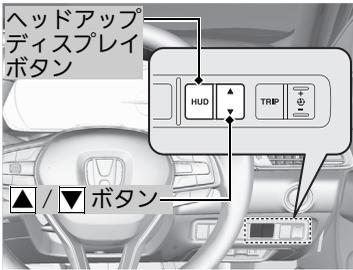
明るくする: **+** ボタンを押す

暗くする: **-** ボタンを押す

以下の条件が整うと、インストルメントパネル照明が減光します。

- パワーモードが ON
- ライトスイッチの位置が OFF 以外で周囲が暗いとき

■ ヘッドアップディスプレイ



ヘッドアップディスプレイが ON のときに、ヘッドアップディスプレイの明るさを調節することができます。

マルチインフォメーションディスプレイに明るさ調整表示が表示されるまでヘッドアップディスプレイボタンを長押しします。

明るくする: ▲ ボタンを押す

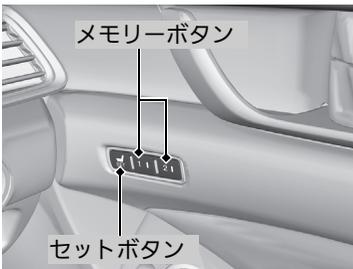
暗くする: ▼ ボタンを押す

ドライビングポジションシステム

シートの位置(ランバーサポート以外)を 2 種類記憶させ、それぞれの位置に自動で調節させることができます。

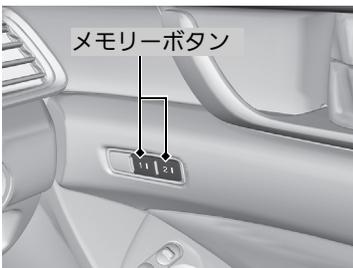
Honda スマートキーで解錠して運転席ドアを開けると、DRIVER1 のキーと DRIVER2 のキーを判別して、記憶したシート位置に自動で調節されます。

■ 記憶のさせかた



1. 運転席シートを希望の位置に調節し、パワーモードを ON モードにする。
2. セットボタンを押す。
▶ 「ピッ」と音が鳴り、メモリーボタンの表示灯が点滅します。
3. セットボタンを押してから5秒以内にメモリーボタンの **1** か **2** を「ピッピッ」と音が鳴るまで押す。
▶ 記憶されると押したボタンの表示灯が点灯します。

■ 記憶の呼び出しかた

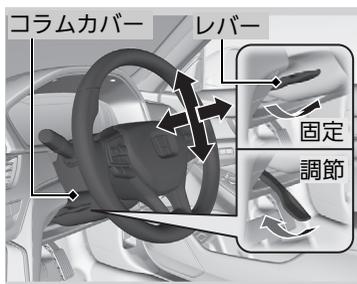


1. シフトポジションを **P** にする。
2. メモリーボタン (**1** または **2**) を押す。
▶ 「ピッ」と音が鳴り、表示灯が点滅します。

記憶させた位置までシートが自動的に移動し、移動が完了すると「ピッピッ」と音が鳴り、表示灯が点灯します。

ハンドルの調節

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



1. ハンドル位置調節レバーを押し下げる。
▶ ハンドル位置調節レバーは、コラムカバーの下にあります。
2. ハンドルの位置を調節する。
▶ 調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。
3. ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハンドルを固定する。
▶ 位置調節後、ハンドルに上下前後方向の力を加え、ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。

⚠ 注意

走行中にハンドル位置を調節しない。

走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあります。衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

ミラー類の調節

ルームミラー

ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

■ 自動式防眩ミラー



夜間走行時、後続車のヘッドライトの反射を自動的に弱くできます。

パワーモードが ON モードのときに作動します。

シフトポジションを **R** にしているときは、自動式防眩ミラーは解除されます。

ドアミラー

ドアミラーの操作は、パワーモードが ON モードのときに行います。

■ 角度調節

左右切り換えスイッチ: 右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

角度調節スイッチ: 上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

シートの調節

フロントシート

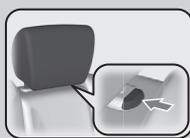
運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。

正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

■ シートの動かし方

■ヘッドレストの調節

- 高くするときには、引き上げる
- 低くするときには、ノブを押しながら下げる



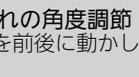
■後席からの調節(助手席側)

: スイッチを押して背もたれを調節

: スイッチを押して前後位置を調節



■背もたれの角度調節
スイッチを前後に動かして調節



B ■前後位置の調節
スイッチを前後に動かして前後位置を調節



A ■高さの調節(運転席)
スイッチを上下に動かして高さを調節

⚠ 注意

走行中にシートの調節はしない。

走行中に調節すると思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行ってください。

シートを操作するときは、手や足などはさまないように十分注意する。

フロントシートの下に物を置かない。

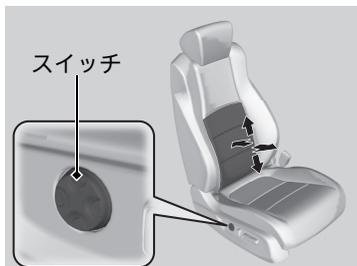
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロントシートは、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

フロントシートに純正以外のシートカバーを取り付けしないでください。

■ 運転席ランバーサポートの調節



シート腰部の固さを調節できます。

全体を硬くする:スイッチを前側に押す

全体をやわらかくする:スイッチを後側に押す

上部を硬くする:スイッチを上側に押す

下部を硬くする:スイッチを下側に押す

■ フロントシートの調節



■ シート位置の調節

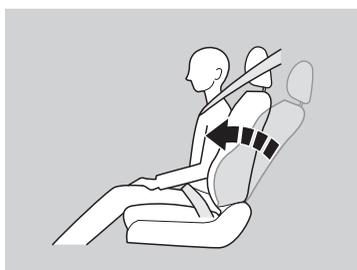
運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。

助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードの SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げます。

シートの位置を調節したら、シートを前後に揺すり、固定されていることを確認します。

■ 背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。



助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

⚠ 警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。

ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

背もたれを必要以上に倒さない。

背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

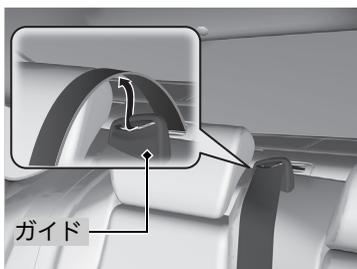
⚠ 注意

背もたれと背中 사이에 쿠션などを入れない。

正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

リヤシート

■ 背もたれの倒しかた

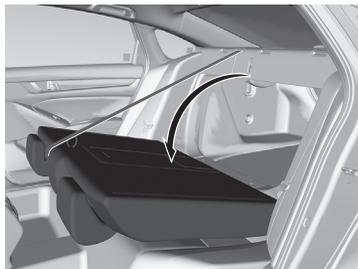


リヤシートを倒してカーゴスペースを広くできます。

1. 中央席のシートベルトをガイドから外す。



2. トランク内のレバーを引き、ロックを解除する。



3. 背もたれを倒す。

⚠ 注意

操作するときは、手などをはさまないように十分注意する。

⚠ 注意

エンジンが始動している状態でシートを操作するときは、排気管の後方に立たない。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

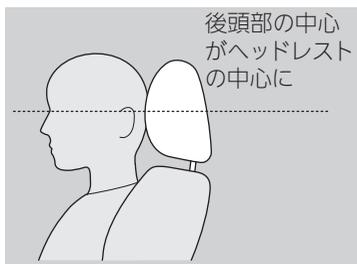
背もたれを倒し、トランクを開けたまま走行しないでください。

背もたれを起こすときは、後ろに押しつけて固定します。

背もたれをもとの状態に戻すときは、背もたれを起こし、後ろにしっかり押しつけてください。また、リヤシートのシートベルトが背もたれの前にあり、中央部のシートベルトがガイドにはまっていることを確認してください。

ヘッドレスト

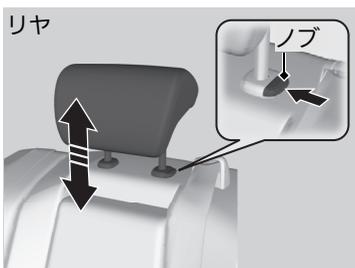
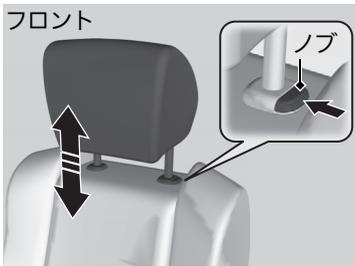
■ フロントシート、リヤアウターシートヘッドレストの調節



後頭部の中心が、ヘッドレストの中心に来るようにヘッドレストの高さを調節します。

高くするとき:ヘッドレストを引き上げます。

低くするとき:ノブを押しながら下げます。



⚠ 警告

ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。

ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

ヘッドレストを外した状態で走行しない。

衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ ヘッドレストの取り外しと取り付け

ヘッドレストは、掃除や修理のために取り外すことができます。

ヘッドレストの取り外し:

ヘッドレストを引き上げ、ノブを押して取り外します。

ヘッドレストの取り付け:

ヘッドレストの脚を元の位置に差し込んでください。ノブを押しながらヘッドレストの位置を適切な位置に合わせてください。ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定します。

アームレスト

警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。

万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

アドバイス

アームレストに腰をかけたたり荷物を載せるなどの大きな力を加えないでください。アームレストが破損するおそれがあります。

室内装備品

室内灯



室内灯の操作については左の QR コードから詳細取扱説明書 (HTML 版) を参照してください。

収納装備

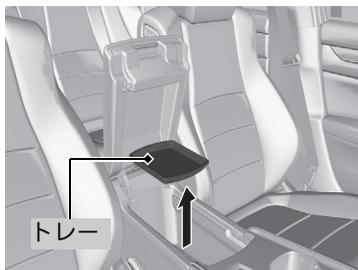
■ グローブボックス

警告

走行中は必ずグローブボックスを閉める。

グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

■ センターコンソールボックス



トレイは取り外すことができます。

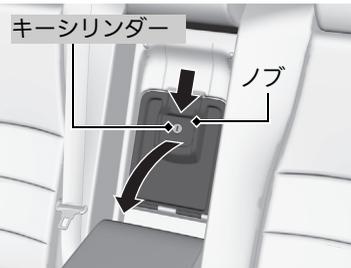
■ ドリンクホルダー

⚠ 注意

飲み物などを電装品にこぼさないように注意する。

スイッチなどの電装品に飲み物がかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。

■ アームレストスルー



トランク内の小物の出し入れができます。

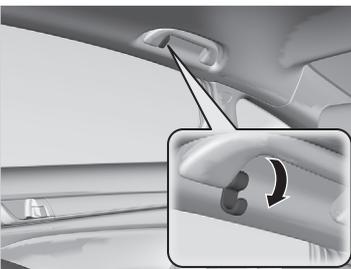
1. キーシリンダーに内蔵キーを差し込み、解錠します。
2. ノブを押してカバーを開けます。
▶ 閉じると施錠されます。

⚠ 注意

走行中は荷物の出し入れをしない。

急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ コートフック

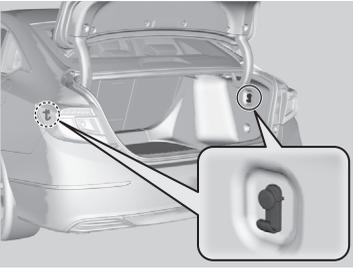


⚠ 注意

グラブレールにもものをかけたり、コートフックに重いものやとがったものをかけたりしない。

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりしてけがをするおそれがあります。

■ コンビニフック



アドバイス

コンビニフックが破損するおそれがありますので、重いもの(約 3kg 以上)や大きいものをかけないでください。

■ サングラスボックス



矢印部を押すと開きます。

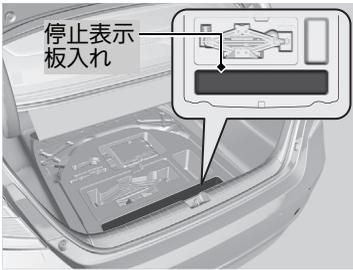
もう一度押すと格納されます。

サングラスなどを入れることができます。

炎天下での駐車は高温になりますので、メガネなどを入れたままにしないでください。レンズやフレームが、変形やひび割れをおこすことがあります。

開閉は停車中に行い、走行中は必ず閉めておいてください。

■ 停止表示板入れ



収納可能な停止表示板のサイズは以下の通りです。

- 長さ ...605mm 以下
- 高さ ...95mm 以下
- 幅 ...120mm 以下

その他の室内装備品

■ アクセサリーソケット

⚠ 注意

アクセサリーソケットや USB ジャックなどの電装品に液体がかかったり、異物が入ったりしないように注意する。

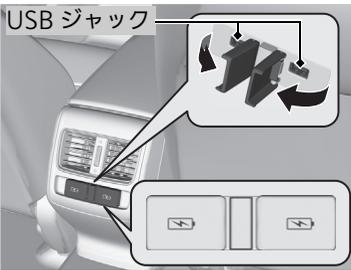
電装品に水がかかったり、ゴミやほこりなどの異物が入ったりすると故障の原因となったり車両火災につながったりする恐れがあります。

シガレットライターは差し込まないでください。

発熱するおそれがあります。

使用しないときは異物の侵入を防ぐためカバーを閉めてください。

■ 充電専用 USB ジャック



カバーを開けて使います。
充電する機器の USB ケーブルを USB ジャック
(2.5A)に接続します。

使用しないときは異物の侵入を防ぐためカバーを閉めてください。

■ ワイヤレス充電器

⚠ 警告

以下のことを守らない場合、感電や火災の原因になり、重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。

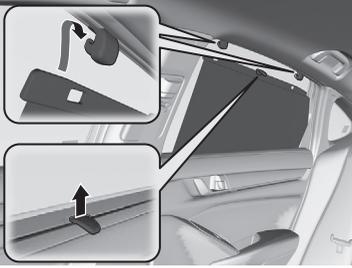
- ワイヤレス充電器と対応機器の間に金属類を挟んだ状態で充電しない。
- タオルなどをかぶせた状態やほこりが被った状態で充電しない。
- 水や飲料物等で機器を濡らさない。
- 油類、アルコール、ベンジン、シンナーなどで拭いたり、ヘアスプレー、殺虫剤などをかけたりしない。

⚠ 注意

植込み型心臓ペースメーカーや植込み型除細動器などの医療機器を装着されているかたは、充電時にはワイヤレス充電器から 22cm 以内に近づかない。

充電により機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

■ リヤドアサンシェード



⚠ 注意

リヤドアサンシェードは、ウィンドーを開けたまま使用しない。

風にあおられるなどしてリヤドアサンシェードがフックから外れて、けがをすることがあります。

■ フロントシートヒーター



⚠ 注意

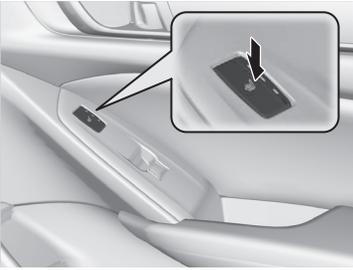
低温やけどに注意する。

次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた

また、毛布などの保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

■ リヤシートヒーター(左右席)



⚠ 注意

低温やけどに注意する。

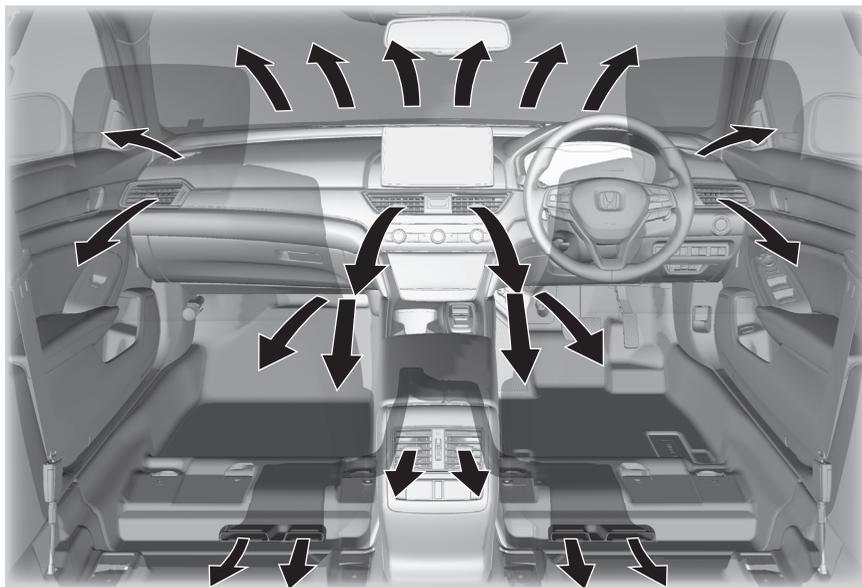
次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた

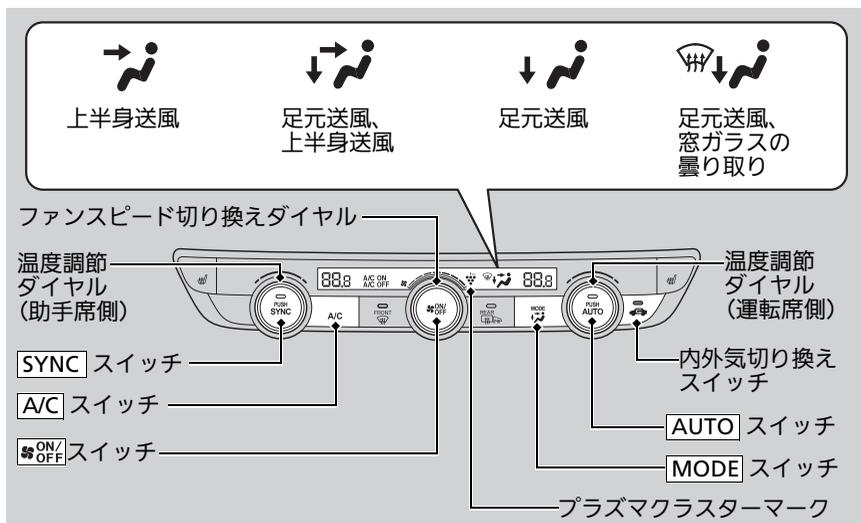
また、毛布などの保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

エアコン

エアコンの吹き出し口



オートエアコンの使いかた

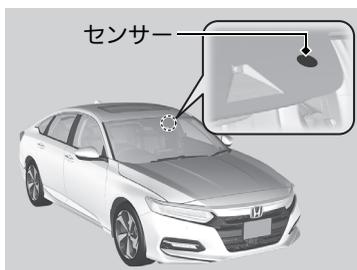


3 各部の操作

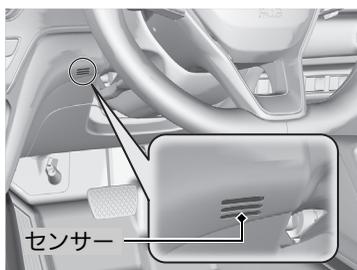


❏ オートエアコンの詳細説明については左の QR コードから詳細取扱説明書 (HTML 版) を参照してください。

オートエアコンのセンサー



オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。



この章では、オーディオに関する情報を記載しています。

オーディオ装置

オーディオ・テレビの取り扱いについては、別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

この章では、運転操作、給油などについて記載しています。

運転の前に

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

■ 車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
 - ▶ 霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
 - ▶ 屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
 - ▶ 足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか？
 - ▶ 走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
 - ▶ 空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
 - ❏ **タイヤの点検と整備** P.236
- 車の周囲に子供はいないか？
車の周りに障害物はないか？
 - ▶ 運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。

無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

エンジンルーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。

車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後は、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっているか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
 - ▶ ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。
- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
 - ▶ 不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 荷物はシートの高さを越えていないか？
 - ▶ 後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- フロントシートの足元にものを置いていないか？
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
 - ▶ 運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ドア、トランクが確実に閉まっているか？
 - ▶ 走行前にすべてのドア、トランクが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
- ☒ **車内での施錠 / 解錠** P.95
- シート位置などが適切に調節されているか？
 - ▶ 不適切なシート位置での走行は危険です。
- ☒ **シートの調節** P.118
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか？
 - ▶ 正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
- ☒ **ミラー類の調節** P.117
- ☒ **ハンドルの調節** P.116
- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
 - ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
- ☒ **シートベルトの着用** P.15
- パワーシステムを起動したとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
 - ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
- ☒ **警告灯** P.47

運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。

運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

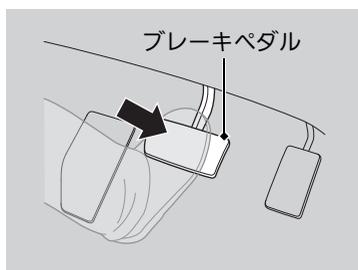
車に合ったフロアマットをお使いください。

パワーシステムの起動



1. パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。

▶ パーキングブレーキがかかっていると、スイッチのインジケータとメーター内のブレーキ警告灯(レッド)が約 30 秒間点灯します。



2. 右足でブレーキペダルを踏む。

3. ブレーキを踏んだままアクセルペダルを踏まずに、**POWER** を押す。



4. READY 表示灯の点灯を確認する。

▶ READY 表示灯が点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

▶ パワーシステムが起動すると、READY表示灯が点灯し運転することができます。

⚠ 警告

12V バッテリー液が不足しているときは、パワーシステムを起動しない。

12V バッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠ 注意

パワーシステムを起動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

寒いときのパワーシステムの起動は、すべての電気アクセサリーを OFF にしてから行います。

寒いときのパワーシステムの起動は、12Vバッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリーをすべてOFFにしてから行ってください。

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。

Honda 販売店で点検を受けてください。

■ パワーシステムの停止

1. シフトポジションを **[P]** にする。
2. **[POWER]** を押す。

■ 発進時の操作

注意

アクセルペダルを踏んだまま、シフトポジションを操作しない。

急発進して思わぬ事故の原因となります。

下り坂の場合、アクセルペダルを踏まずにパーキングブレーキを手動で解除すると、よりスムーズに発進することができます。

■ ヒルスタートアシストシステム

急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約 1 秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

走行時の注意点

走行中はパワーシステムを停止しないでください。

下記のような状態になり危険です。

- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

走行中はシフトポジションを **N** にしないでください。

エンジンブレーキや回生ブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

車を移動するときは、必ずパワーシステムを起動してください。

1,000km 走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

■ その他の注意点

⚠ 注意

シフトダウンする際の車速には、十分注意する。

滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。

アドバイス

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどして EPS(電動パワーステアリング)システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。

システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

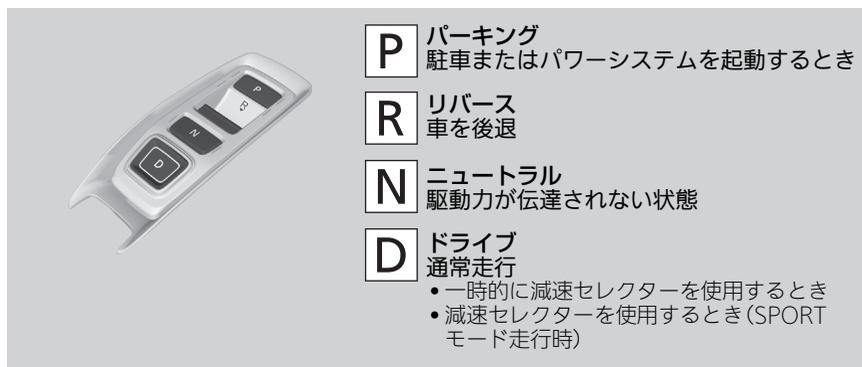
トランスミッションについて

上り坂での停車時、クリーブ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。

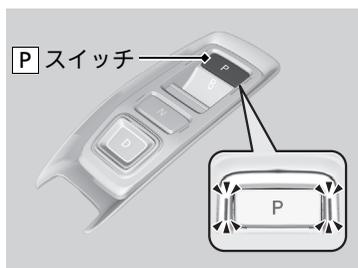
ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

シフト操作

走行状態に応じてシフトポジションスイッチを押して切り換えます。



■ パーキングスイッチ



パワーモードがONモードで車が停止しているとき、スイッチを押すとシフトポジションが **P** になり、スイッチのインジケーターが点灯します。

高電圧バッテリーの充電量が満充電に近い状態のとき、または高電圧バッテリーの温度が低いときは、回生ブレーキの効きが弱くなる場合があります。

故障と予期しない作動を防止するため：

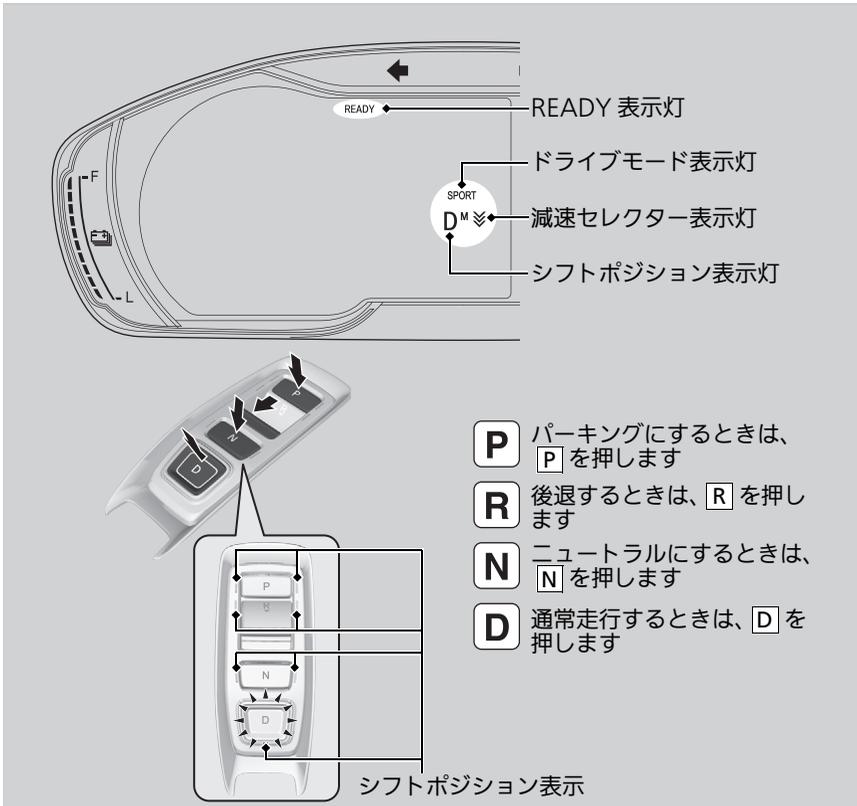
- シフトポジションスイッチに液体などをこぼさないでください。
- シフトポジションスイッチやまわりに、衝撃を与えたりものを落とさないでください。
- お子さまや運転者以外の方がシフトポジションスイッチを操作しないようご注意ください。

N のポジションの時にアクセルペダルを踏むとブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ P.64

ブレーキペダルを踏み、シフトポジションを **D** または **R** にしてください。

■ シフトポジションの操作



R のポジションのときは、チャイム音が鳴り運転者にシフトポジションが **R** の位置になっていることを知らせます。

車両を完全に停止させ、ブレーキペダルを踏んだままシフトポジションを **D** から **R** または **R** から **D** に切り換えてください。

車を発進させるときは、思い違いによる事故を防ぐためにシフトポジション表示灯でもシフトポジションの位置を確認してください。

選択しているシフトポジションが点滅しメッセージが表示された場合は、トランスミッションに異常があります。

急加速を避け、Honda 販売店で点検を受けてください。

全てのシフトポジションが点灯した場合は、ただちに安全な場所に車を停車してください。異常な場合は消灯しますが、Honda 販売店で点検を受けてください。

■ ドア Open 自動パーキング選択制御

パワーモードがONモードで車が停止、または、車速が2km/h以下のときに、**[P]**以外のシフトポジションのまま、運転席のシートベルトをはずし運転席ドアを開けるとシフトポジションが自動で**[P]**になります。

■ パワーモード Off 自動パーキング選択制御

停止中にシフトポジションが**[P]**以外のまま、パワーモードをOFFモードにすると、シフトポジションが自動で**[P]**になります。

駐車をするときは、安全のために、運転席ドアを開ける前にシフトポジションを**[P]**にし、適切な方法により行ってください。

この制御により**[P]**になった後、発進する場合は、ドアを閉めてシートベルトを装着し、シフト操作をしてください。

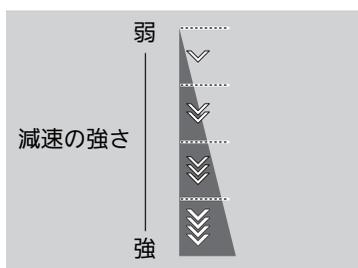
■ シフトポジションの選択制限

不正な操作をすると、安全のため、シフトポジションの選択が制限されます。

操作前のシフトポジション	1. 操作・走行状態	2. パーキングスイッチ・シフトポジションの操作	3. 操作後のシフトポジション	対処のしかた
[P]	ブレーキペダルを踏んでいない アクセルペダルを踏んでいる	他のシフトポジションを選択する	[P]	アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏む
[N]	低速走行中で、ブレーキペダルを踏んでいない 低速走行中で、アクセルペダルを踏んでいる		[N]	
[N] [D]	前進している	[R] を選択する		停車する
[R] [N]	後退している	[D] を選択する		
[R] [N] [D]	走行中	[P] を選択する		
[P] [N]	READY表示灯が点灯していない	[P] [N] 以外を選択する	[P] [N]	READY表示灯の点灯を確認する

減速セレクター

ハンドルにあるセレクターで、アクセルペダルを離れたときの減速の強さをハンドルから手を離さずに、4段階で変更できます。前走車との車間調整や坂道などで減速の強さを変更したいときに使用してください。



1回のセレクター操作で、減速の強さは1段階強さが変更します。

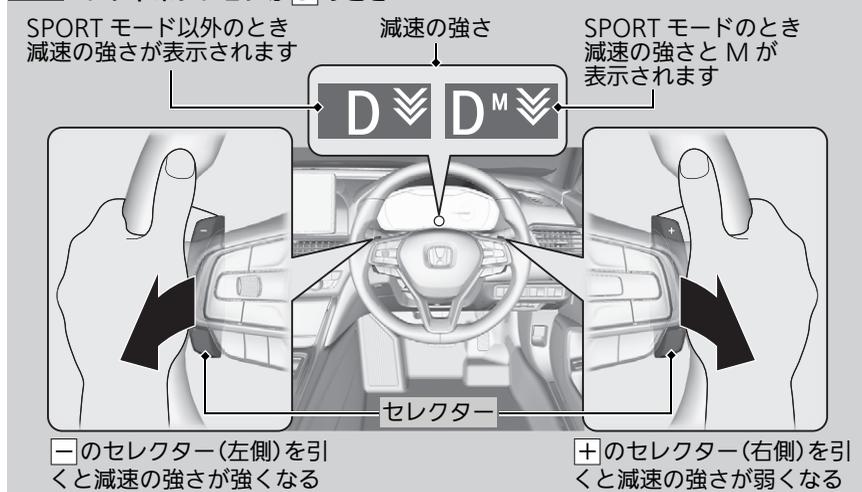
▶ セレクターを引き続けても連続では変更しません。

減速強さを変更するには

- **+**のセレクター(右側)を引くと減速の強さが弱くなる
- **-**のセレクター(左側)を引くと減速の強さが強くなる

+のセレクターを数秒間引き続けると減速セレクターがキャンセルされます。

操作 シフトポジションがDのとき



■ SPORTモード以外のとき

セレクターを引くと一時的に減速の強さが変更され、メーター内に減速の強さが表示されます。減速セレクターをキャンセルするには、**+**のセレクターを数秒間引き続けます。一定速度の走行や加速の状態、停止間際まで減速すると減速の強さは自動的に解除され表示は消灯します。

■ SPORT モードのとき

セレクターを引くと減速の強さが変更され、メーター内に減速の強さと M が表示されます。SPORT モード中は自動解除されません。解除する場合は、SPORT モード以外のモードに切り換えるか、**[+]**のセレクター(右側)を数秒間引き続けます。解除されると表示は消灯します。

⚠ 注意

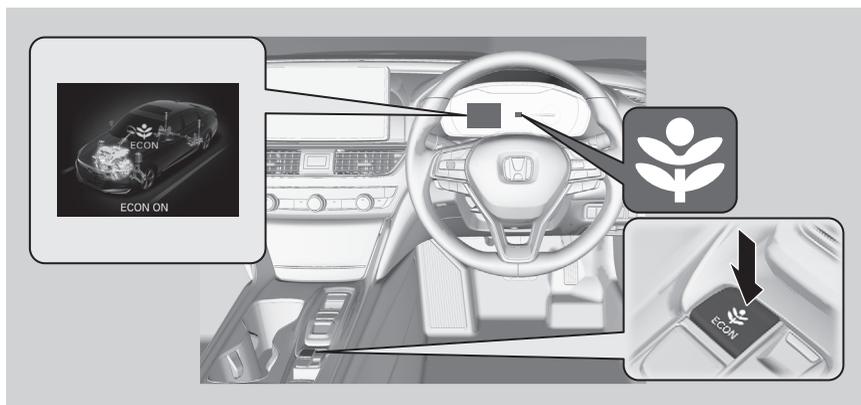
減速する際の車速には、十分注意する。

滑りやすい路面では、急激な減速がタイヤのスリップを招くことがあります。

以下の状態のときはセレクターを引いても減速の強さが変更されずに表示が点滅します。また、自動的に減速の強さが弱くなったり解除することがあります。

- 高電圧バッテリーが満充電時、低温時、高温時
- 車速が減速の強さの許容範囲外するとき
- ハイブリッドシステムの保護が必要なとき
- 渋滞追従機能付 ACC 作動により停車してセレクターの操作をしたとき

ECON スイッチ



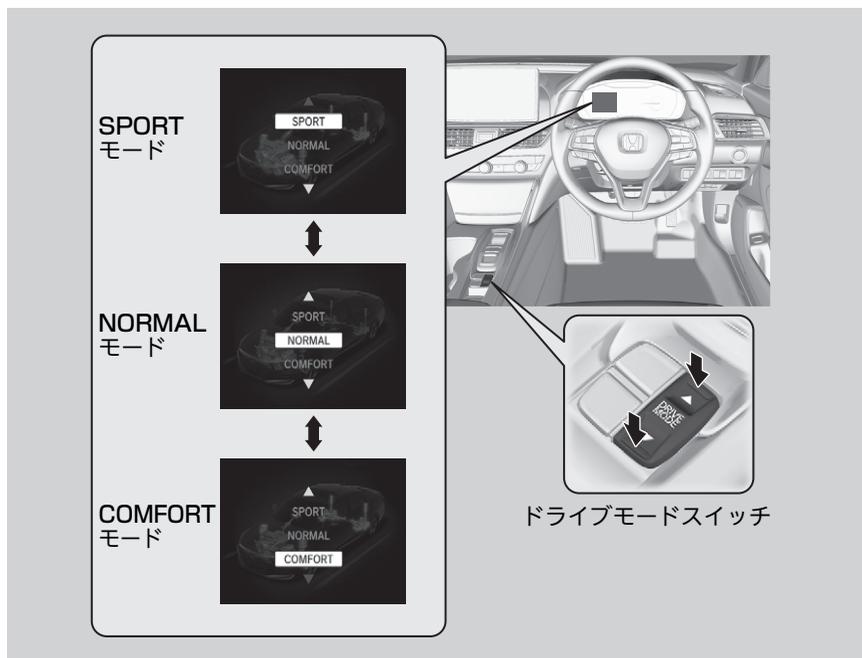
パワーモードが ON モードのときに ECON スイッチを押して、ECON モードの ON と OFF を切り換えてください。

- ▶ ECON モードが ON のときは、メーター内の表示灯が点灯し、運転の状況に応じて省燃費制御に切り換わります。

スイッチを押すとエンジン、エアコン、モーターの作動を制御して、省燃費運転をしやすいように制御します。

ドライブモードスイッチ

選択したモードに応じて、エンジン、EPS、ダンパー、VSAなどを制御します。
ドライブモードスイッチでSPORTモード、NORMALモード、COMFORTモードの3つのモードから走行モードを切り換えることができます。
選択しているモードはマルチインフォメーションディスプレイに表示され、それぞれのモードに応じて表示の内容が変化します。



■ SPORTモード

システムの走行性能制御により、加減速やステアリング操作の応答性を高めたモードです。

■ NORMALモード

操作性と快適性のバランスを最適化したモードです。

■ COMFORTモード

ダンパー制御により、快適性を最大限まで高めたモードです。

車両接近通報装置

約25km/h以下で走行しているときに、歩行者に車両の接近を知らせるため、走行音を発生させるシステムです。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSAとは、ABS機能、TCS機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

■ ABS(アンチロックブレーキシステム)機能 ▶ P.210

■ TCS(トラクションコントロールシステム)機能

滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

■ 横滑り抑制機能

急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。

▶ 電子制御ブレーキアシスト P.211

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSA が正常に機能しないことがあります。タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

VSA 警告灯が運転中に点灯するときや、パワーモードを ON モードにしても点灯しない場合は、システムの異常が考えられます。

通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

VSA が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。

- カーブ手前では十分に速度を落とす
- 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤを装着し控えめな速度で運転する

■ VSA の作動と警告灯

TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

■ VSA の ON と OFF



VSA 機能を部分的に停止(OFF)状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押してください。TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなります。

アジャイルハンドリングアシスト

運転者のハンドル操作に応じて、前輪に軽いブレーキがかかることで、車両の動きを滑らかにし、安定感のあるコーナリングを可能とする機能です。

アジャイルハンドリングアシストはすべての走行条件で安定性を向上させる機能ではありません。

安全のために、カーブ走行時は状況に応じた適正な速度で、十分に車間距離をとって走行してください。

走行中に VSA 警告灯が点灯したままのときは、アジャイルハンドリングアシストが作動しません。

ブラインドスポットインフォメーション

隣接する車線後方の検知エリアに他の車両がいることを知らせ、運転者の車線変更等の操作の際の負担を軽減するシステムです。

■ システムの作動条件

自車の車速が 20km/h 以上で前進しているとき、レーダーセンサーが検知範囲にいる車両を検知

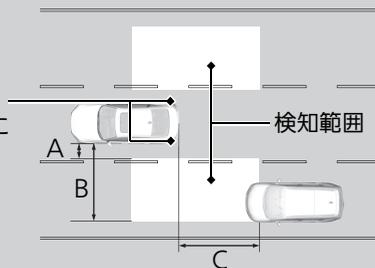
検知範囲

A: 約 0.5m

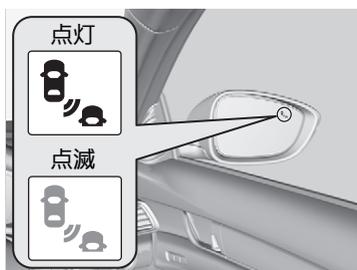
B: 約 2.9m

C: 約 3m

レーダーセンサー：
リアバンパー側面に
あります。



■ システムが車両を検知したとき



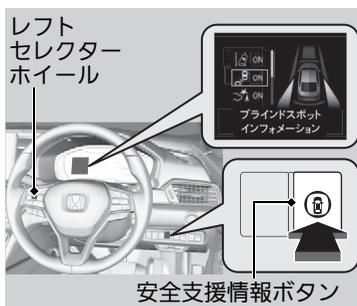
ブラインドスポットインフォメーション警告灯:両側のドアミラー鏡面にあります。

ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯する条件:

- 他の車両が、自車より車速約 50km/h 以下の車速差で追い越しのために後方から検知範囲に入ったとき
- 約20km/h以下の車速差で他の車両を追い越したとき

ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点滅し、警報音が鳴る条件:検知範囲に他の車両があるときに、検知された車両がある方向に方向指示器スイッチを操作すると、警報音が3回鳴ります。

■ ブラインドスポットインフォメーションの ON と OFF



以下の操作でシステムの ON と OFF を切り換えてください。

1. 安全支援情報ボタンを押す。
2. レフトセレクトターホイールを回し、を選択してホイールを押す。
▶ 切り換えると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

警告

車線変更の際は、目視やミラーなどで確認する。

状況により、車両を検知できない場合があります。直接確認をせずに車線変更を行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

他の運転支援システムと同様に、ブラインドスポットインフォメーションには制限があります。

下記のような場合、ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯しないことがあります。

- 他の車両が2秒以上検知範囲にいなかったとき
- 隣接する車線に駐車車両があるとき
- 自車が隣接する車線を走行する車両を約10km/h以上の速度差で追いついたとき
- レーダーセンサーによって検知されていないものに接近したり、通過したりしたとき
- 自車と隣接する車線を走行する車両が二輪自動車などの小型な車両のとき

他の車両が検知範囲内にある場合でも、以下のように作動することがあります。

- 水しぶきなどにより、ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯せず、マルチインフォメーションディスプレイに「ブラインドスポットインフォメーション異常 システムは作動しません」と表示される
- マルチインフォメーションディスプレイに「ブラインドスポットインフォメーション異常 システムは作動しません」と表示されていても、ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯する

以下の場合、システムが影響を受け正確に表示しないなどの可能性があります。

- 交差点を右左折しているとき
- 路側の設置物(ガードレール、電柱、木、駐車車両、建物、壁など)を検知したとき
- 自動二輪車が検知範囲に入ったときや、電波を反射しないものが検知範囲にあるとき
- カーブした道路を走行しているとき
- 他の車両が隣接する車線よりさらに外側から接近してきたとき
- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- リヤバンパーやレーダーセンサー周辺が破損、変形しているとき
- 悪天候(雨、雪、霧など)のとき
- 旋回や路面の凸凹により車体が傾いているとき

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- リヤバンパーの側面部は常にきれいにしておく
- リヤバンパーの側面部にシールなどを貼り付けない

リヤバンパーやレーダーセンサー周辺に衝撃が加わったときや修理を行う際は、Honda 販売店にご相談ください。

高電圧バッテリーの特性

長期間駐車をすると、高電圧バッテリーは少しずつ放電をします。バッテリーの性能を維持するために、少なくとも3か月に一度、30分以上走行をしてください。走行によりバッテリーに充電されます。長期間走行をしないと、高電圧バッテリー充電容量が低下したり、寿命が縮む原因となります。バッテリーの寿命を長くするために、夏場は日陰への駐車をおすすめします。

高電圧バッテリーが放電しすぎないように注意をしてください。充電量が0の状態でも長期間放置されるとエンジンが始動できなくなるおそれがあります。

■ エンジンの自動停止・始動

● エンジンは自動で停止 / 始動します

エンジンが自動的に始動や停止します。そのため、停車時にエンジンが停止状態から始動することがあります。特に、次のようなときは、エンジンが自動的に停止しないことがあります。

- 急加速、登坂、高速走行時など、瞬間的に駆動力が足りず補助が必要なとき
- 暖房負荷や冷房負荷が高いとき
- 高電圧バッテリーの温度が高いとき、または低いとき

ご使用時の注意



■ 高電圧システムには触れない

高電圧システムを分解や配線取り外しなどを行うと感電するおそれがあります。点検・修理は、必ずHonda販売店にご相談ください。

■ 事故が起きたとき

- 感電に注意する
 - ▶ 車体が大きく破損・変形するような事故が起きたときは、感電するおそれがあります。高電圧部位やそれらを接続する配線（オレンジ色）には、絶対に触れないでください。

● 高電圧バッテリー液に触れない

- ▶ 高電圧バッテリー液がもれているときは、バッテリー液が目や皮膚に付くとその部分が侵されますので、十分に注意してください。万一付着したときは、すぐに清浄な水で数分間洗浄した後、ただちに医師の診察を受けてください。

- 火災が発生したら電気火災用消火器を使用する

- ▶ 少量の水での消火は、かえって危険な場合がありますので、水はかけないでください。

- Honda 販売店で修理を受ける。

- ▶ 車体が損傷を受けたときは、必ず Honda 販売店で修理を受けてください。

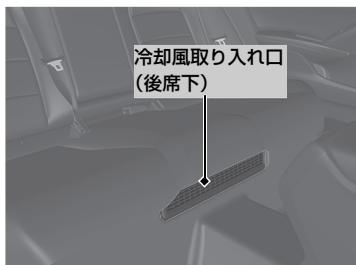
■ 高電圧遮断システム

事故などにより車体が衝撃を受けたときに、高電圧遮断システムが作動する場合があります。システムが作動すると、高電圧システムが自動的に OFF になり、走行可能状態になりません。高電圧システムを再始動するには、指定の Honda 販売店にご連絡ください。

高電圧バッテリーは、リチウムイオンバッテリーを使用しています。廃棄処分については特別な取り扱いが必要です。廃車するときは、必ず下記にご相談ください。

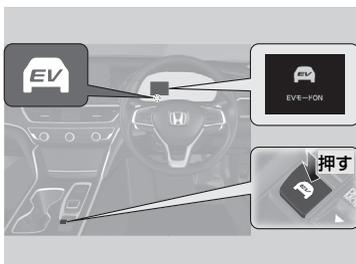
ホンダバッテリー回収窓口 0120-910574(フリーダイヤル)

■ 冷却風取り入れ口をふさがない



冷却風取り入れ口がふさがれると高電圧バッテリーの温度が上昇するおそれがあります。高電圧バッテリーを保護するために出力が制限され、パワーシステム警告灯や 12V バッテリー充電警告灯が点灯することがあります。

EV スイッチ



電子制御パーキングブレーキの上側にある EV スイッチを押すと、EV 走行モードを選択でき、EV 走行中は、EV 表示灯が点灯し続けます。

もう一度、EV スイッチを押すと、EV 走行モードの選択は解除されます。

EV スイッチを押しても、EV モードを選択できない場合があります。このとき、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブザーが鳴ります。

ハイブリッド車特有の音について

パワーシステム起動時や走行中に、次のような音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

聞こえるとき	状況
エンジンの始動・停止時	トランスミッションの作動音が車両前方から聞こえます。
加速時	モーター作動音、エンジン作動音がエンジンルーム内から聞こえます。
減速時	エネルギーを回生するために、モーター回生動作音がエンジンルーム内から聞こえます。 また、低速走行でブレーキを踏んだときやブレーキシステムが切り換わるときにブレーキ装置から、音が聞こえることがあります。異常ではありません。
エアコン、ヒーター作動時	コンプレッサーやヒーターシステムの作動音がエンジンルーム内から聞こえます。

ホンダセンシング

フロントロアグリルの奥に設置されたレーダーセンサーと、フロントウィンドー内上部に設置されたフロントセンサーカメラと、リヤバンパーに設置されたソナーセンサーの、特性の異なる3種類のセンサーで構成された運転支援システムです。

ホンダセンシングには、次の機能があります。

■ 作動させるためにスイッチ操作が不要な機能

- 衝突軽減ブレーキ(CMBS) ➡ P.155
- 誤発進抑制機能 ➡ P.162
- 後方誤発進抑制機能 ➡ P.164
- 歩行者事故低減ステアリング ➡ P.166
- 路外逸脱抑制機能 ➡ P.190
- 先行車発進お知らせ機能 ➡ P.194
- 標識認識機能 ➡ P.196
- オートハイビーム ➡ P.108

■ 作動させるためにスイッチ操作が必要な機能

- 渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) ➡ P.170
- LKAS(車線維持支援システム) ➡ P.183

警告

ホンダセンシングは、補助システムとして使用してください。

自動運転システムではありません。

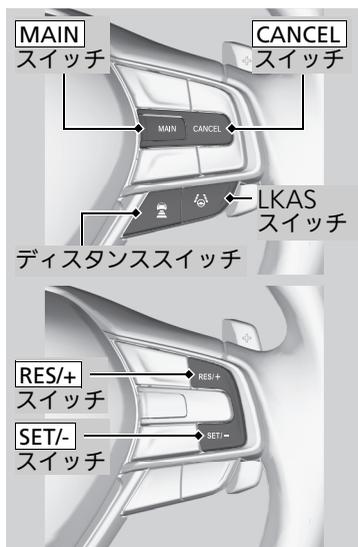
あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

各機能の能力(認識能力・制御能力)には限界があります。

機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。常に周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を心がけ走行してください。

各機能を作動させるためのスイッチと表示

■ ステアリングスイッチ



■ **MAIN** スイッチ

渋滞追従機能付 ACC および LKAS の待機状態の設定を行います。

■ **LKAS** スイッチ

LKAS の ON と OFF の設定を行います。

■ **RES/+** スイッチ、**SET/-** スイッチ

渋滞追従機能付 ACC の車速のセットと復帰、設定車速の調整を行います。

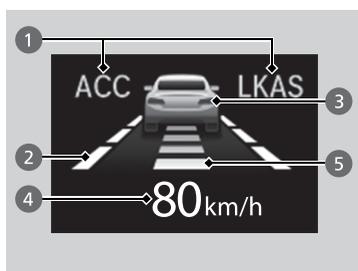
■ **デイスタンス** スイッチ

渋滞追従機能付 ACC の車間距離の設定を行います。

■ **CANCEL** スイッチ

渋滞追従機能付 ACC の解除を行います。

■ マルチインフォメーションディスプレイの表示



渋滞追従機能付 ACC および LKAS の現在の状態を表示します。

- 1 渋滞追従機能付 ACC および LKAS の待機状態
- 2 LKAS の ON と OFF の状態と制御状態
- 3 渋滞追従機能付 ACC の前走車検知状態
- 4 渋滞追従機能付 ACC の設定車速
- 5 渋滞追従機能付 ACC の設定車間

ヘッドアップディスプレイに各機能の現在の状態を表示させることができます。

➡ ヘッドアップディスプレイ P.89

衝突軽減ブレーキ(CMBS)

自車が、前方の車両のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車に正面から衝突するおそれがあるとき、歩行者および人が乗車し移動している自転車(移動する自転車)に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

警告

衝突軽減ブレーキ(CMBS)は、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。レーダーやカメラは天候や速度、路面状況によって検知しにくいことがあります。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を行ってください。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

❏ レーダーセンサー P.202

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

❏ フロントセンサーカメラ P.201

アクセルペダルの踏み込み量が大きいときに、システムが作動しない場合があります。

以下の場合、CMBS が自動的に停止し、警告灯が点灯することがあります。

- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
- 雨、霧、雪などの悪天候になったとき
- パーキングブレーキをかけて走行したとき
- カメラの温度が高温になっているとき
- フロントロアグリルまたはフロントガラスがほこり、泥、落ち葉、湿った雪などで覆われているとき
- タイヤの異常を検出したとき

CMBS が作動できる状態になると、CMBS は自動復帰します。

車両の整備や検査の際に、シャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは CMBS を OFF にしてください。

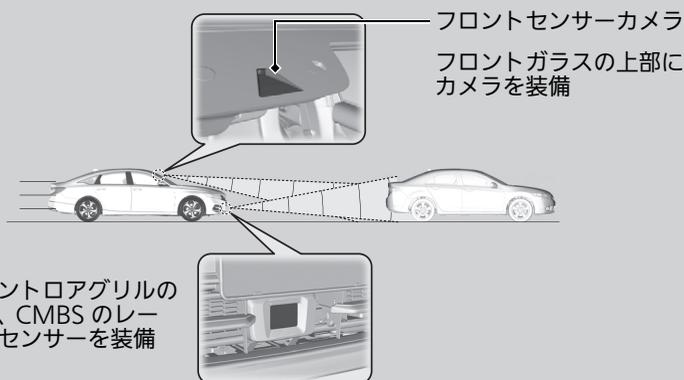
頻繁に警報が作動するなど、システムに異常を感じたときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

サスペンションの改造はしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

■ システムの作動

自車の車速が約 5km/h 以上になるとレーダーセンサーとカメラが前方の車両、歩行者および移動する自転車の検知を開始。



自車との速度差が約 5km/h 以上ある車両、歩行者および移動する自転車に対して衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。

対向車両、停止車両、歩行者および移動する自転車に対しては、自車が約 100km/h 以下で走行中に衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。

CMBS が作動し、停車した後または衝突のおそれなくなったと判断した後に、CMBS は解除されます。

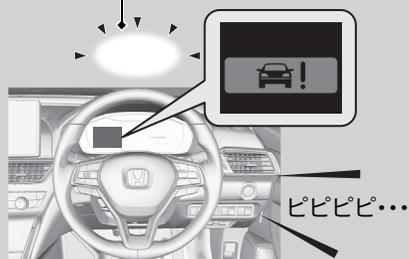
なお、衝突を回避しようとして、運転者がハンドル、ブレーキペダル、アクセルペダルを操作したときは、システムが解除されることがあります。

■ CMBS の警告のしかた

以下の方法により、CMBS は衝突のおそれがあることを、運転者に知らせます。

- マルチインフォメーションディスプレイの警告やヘッドアップワーニングでの視覚への警告表示や警告ブザーが発生します

ヘッドアップワーニング



ヘッドアップワーニングのレンズは、ダッシュボード前方にあります。レンズを物でふさいだり、液体をこぼしたりしないでください。



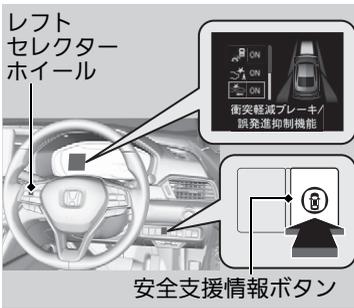
■ CMBS 作動の流れ

CMBS の作動には衝突の可能性に応じ3つの段階があります。しかし、状況によっては途中の段階から作動することがあります。

	車両と自車の距離	状況	ブザーと表示による警告	ブレーキ
第1段階		車両への衝突のおそれが出てきた状況	ヘッドアップワーニングと警告表示が2回点滅するさらに接近すると、ヘッドアップワーニング、警告表示およびブザーによる警報を行う ▶ 衝突警報距離を変更することができます。 ■ 別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書	—
第2段階		衝突の危険が増し、衝突するまでの余裕が少なくなった状況	ヘッドアップワーニング、警告表示およびブザーによる警報を行う	軽いブレーキ
第3段階		回避が困難な状況		強いブレーキ

※: CMBS によるブレーキが作動しているときは制動灯が点灯します。

■ CMBS の ON と OFF



以下の操作で CMBS の ON と OFF を切り換えてください。

1. 安全支援情報ボタンを押す。
2. レフトセレクターホイールを回し、を選択してホイールを押す。
▶ 切り換わると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

CMBS を OFF にした状態でパワーモードを OFF にした場合でも、再度パワーモードを ON にすると自動的に ON になります。

次のような場合、レーダーセンサーやカメラが車両、歩行者および移動する自転車や路面状況を検知できず、CMBS が正常に作動しない場合があります。

■ 環境によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 逆光のとき
- 強い光が車両、歩行者、移動する自転車および路面に反射しているとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻き上げがあるとき
- 夜間やトンネル内などで照明が暗く、車両・歩行者の全体が照らされていないとき

■ 道路の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 路面に水たまりや水膜があるとき
- 雪道や未舗装路などわだちのある道路のとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両、歩行者および移動する自転車の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■ 自車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- フロントロアグリルが汚れているとき
- フロントガラスの曇り、雨粒、シールなどでカメラ前方が覆われているとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 適正なタイヤを使用していないとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき

■ 前方の車両、対向車両、歩行者および移動する自転車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 前方の車両、対向車両、歩行者および移動する自転車との距離が極端に短いとき
- 前方に車両、対向車両、歩行者および移動する自転車が急に割り込んできたり、飛び出してきたとき
- 自転車が停止しているとき
- 前方の車両、対向車両が横向きのとき
- 歩行者や移動する自転車が背景に紛れて検知できないとき
- 歩行者や移動する自転車が集団で前方にいるとき
- 歩行者や移動する自転車の横断速度が速いとき
- 歩行者や移動する自転車が対向して接近してきたとき
- 暗がりや前方の車両、対向車両が無灯火のとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者がベビーカーや自転車などを押しているとき

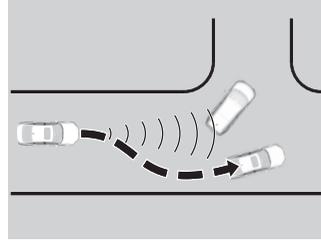
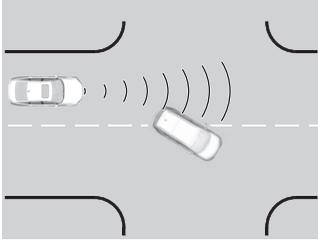
■ その他検知、作動できない事例

- 二輪車、特殊な形状の車両および車いす
- 前方の車両、対向車両、歩行者および移動する自転車が自車の正面にいないとき
- 前方の車両、対向車両、歩行者および移動する自転車と自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両や移動する自転車が急減速したとき
- 運転者が衝突を回避しようとして、ブレーキやハンドルを操作したとき
- 運転者が急加速やハンドル操作をしながら、前方の車両、対向車両、歩行者および移動する自転車に接近したとき
- 子供用自転車、折り畳み自転車および三輪車などのタイヤ径が小さい自転車やタンDEM自転車などの全長が長い自転車
- 歩行者のかたちとしてカメラが正しく検知できないとき

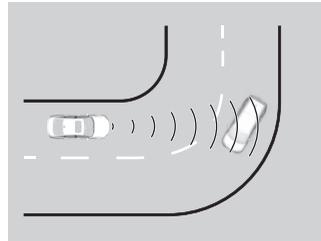
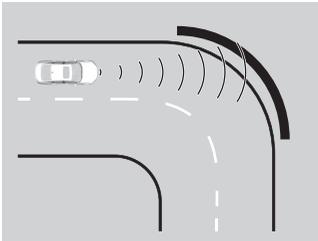
■ 衝突の可能性のない場合の作動について

衝突の可能性がなくても、以下のとき、CMBS が作動することがあります。

- 左折、または右折している前方車両がいるとき、または右左折待ちの車両がいるとき
- 前走車を追い越すときに車両に接近して走行する場合
- 交差点などで車両に接近して走行する場合



- 低いゲートや狭いゲートなどの間を規制速度を越えるような速度で通過しようとするとき
- 段差のある道路、線路、工事の鉄板などの上を走行するとき
- カーブ途中の道路脇に標識やガードレールなどがあるとき
- カーブ走行などで自車の正面に対向車がいるとき



- 駐車時など、停止している車両や壁に接近するとき

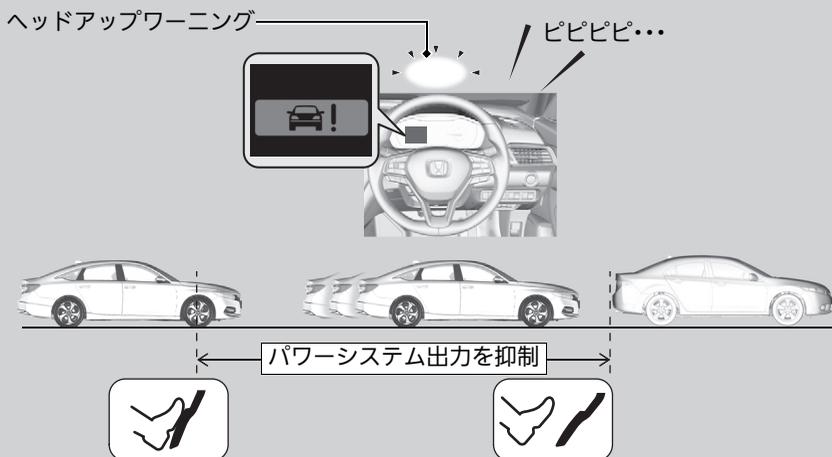
誤発進抑制機能

フロントロアグリルの奥に設置してあるレーダーセンサーとフロントガラス上部に設置してあるカメラによって、停車時や約10km/h以下で走行しているとき、自車のほぼ真正面の近距離に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、パワーシステム出力を抑制し、急な発進を防止するとともに、音と表示等で知らせる運転支援機能です。

なお、急な坂道やシフトポジションが、**P**、**R**、**N**のときは、作動しません。

作動状態

機能作動中はブザー（ピピピ）がなり、マルチインフォメーションディスプレイおよびヘッドアップワーニングの警告が点滅します。



アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急な発進を防止
アクセルペダルの踏み込み量が少ないときは作動しません。

アクセルペダルを離す
安全のため、必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。

警告

誤発進抑制機能はあらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる衝突を軽減したり防止できるものではありません。

機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者がシフトポジションやペダルの位置および周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

誤発進抑制機能は、CMBS と同じセンサーを使用しています。CMBS を OFF にしているときは、誤発進抑制機能は作動しません。また、誤発進抑制機能を正常に作動させるために守ること、正常な作動ができない状況、衝突の可能性のない場合の作動やレーダーセンサーの取り扱いなどは、CMBS と同じです。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

■ レーダーセンサー P.202

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

■ フロントセンサーカメラ P.201

踏切内に閉じ込められたときは、遮断機を障害物として検知することがあります。そのときは、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、CMBS を OFF にして遮断機を押しの手を離してください。

誤発進抑制機能が作動し、道路上の段差を乗り越えることができない場合には CMBS を OFF にしてください。

■ 作動解除の条件

- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約 4 秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- CMBS を OFF にしたとき
- ハンドルを操作して、衝突を避けようとしたとき

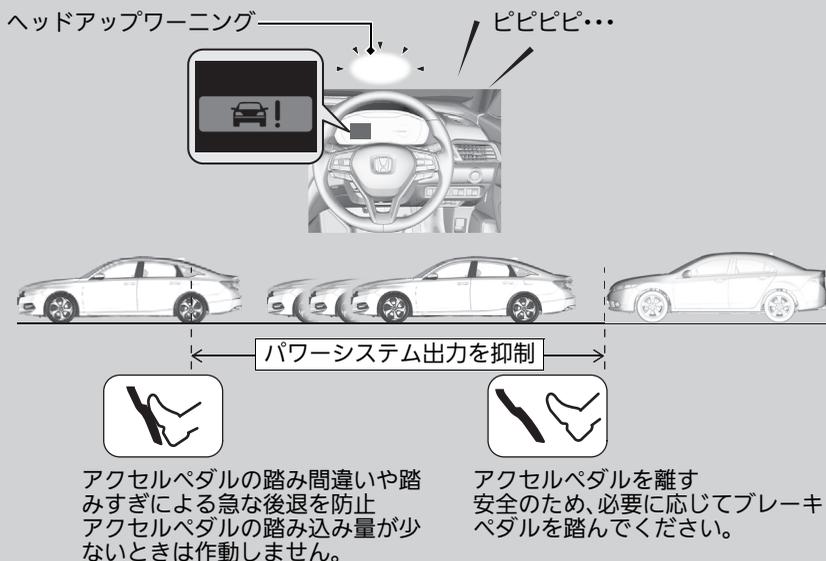
後方誤発進抑制機能

リアバンパーに設置してあるソナーセンサーによって、停車時や約 10km/h 以下で後退しているとき、自車のほぼ真後ろの近距離に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、パワーシステム出力を抑制し、急な後退を防止するとともに、音と表示等で知らせる運転支援機能です。

なお、急な坂道やシフトポジションが[R]以外のときは、作動しません。

作動状態

機能作動中はブザー（ピピピ）が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイおよびヘッドアップワーニングの警告が点滅します。



警告

後方誤発進抑制機能はあらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる衝突を軽減したり防止できるものではありません。

後方誤発進抑制機能は停止状態を保つことができるものではありません。

機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者がシフトポジションやペダルの位置および周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

後方誤発進抑制機能は CMBS に異常があるときは作動しません。

踏切内に閉じ込められたときは、遮断機を障害物として検知することがあります。そのときは、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、後方誤発進抑制機能をOFFにして遮断機を押しつけてください。

後方誤発進抑制機能が作動し、道路上の段差を乗り越えることができない場合には後方誤発進抑制機能をOFFにしてください。

作動中は後退を知らせるチャイム音は鳴りません。

ソナーセンサーの取扱いについては下記を参照してください。

❏ ソナーセンサー P.203

サスペンションの改造はしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

■ 作動解除の条件

- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約4秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- 後方誤発進抑制機能をOFFにしたとき

次のような場合、ソナーセンサーが障害物を検知できず、後方誤発進抑制機能が正常に作動しない場合があります。

■ 自車の状態によりソナーセンサーが正しく検知できない事例

- ソナーセンサーが汚れているとき(雪、氷、泥などで覆われているとき)
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき

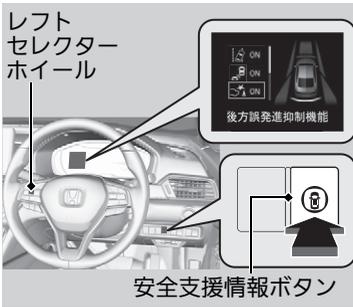
■ 環境によりソナーセンサーが正しく検知できない事例

- 悪天候のとき
- 凸凹な路面や、草地、段差があるとき
- 近くに超音波を発するものがあるとき

■ 後方の障害物の状態によりソナーセンサーが正しく検知できない事例

- 雪、布、スポンジなど吸音しやすい材質があるとき
- 障害物が細いとき、または低いとき
- 障害物がバンパーのすぐ近くにあるとき
- 進路上に障害物が飛び出してきた場合など移動する物体のとき

■ システムの ON と OFF



以下の操作でシステムの ON と OFF を切り換えてください。

1. 安全支援情報ボタンを押す。
2. レフトセレクトターホイールを回し、を選択してホイールを押す。
▶ 切り換わると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

後方誤発進抑制機能を OFF にした状態でパワーモードを OFF にした場合でも、再度パワーモードを ON にすると自動的に ON になります。

歩行者事故低減ステアリング

レーダーとカメラにより歩行者と白線(黄線)を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

⚠ 警告

歩行者事故低減ステアリング機能は、運転者の運転操作を支援するシステムです。あらゆる状況での歩行者事故を、軽減したり回避できるものではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者は周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

車線内を走行していないときは、歩行者事故低減ステアリング機能は作動しません。

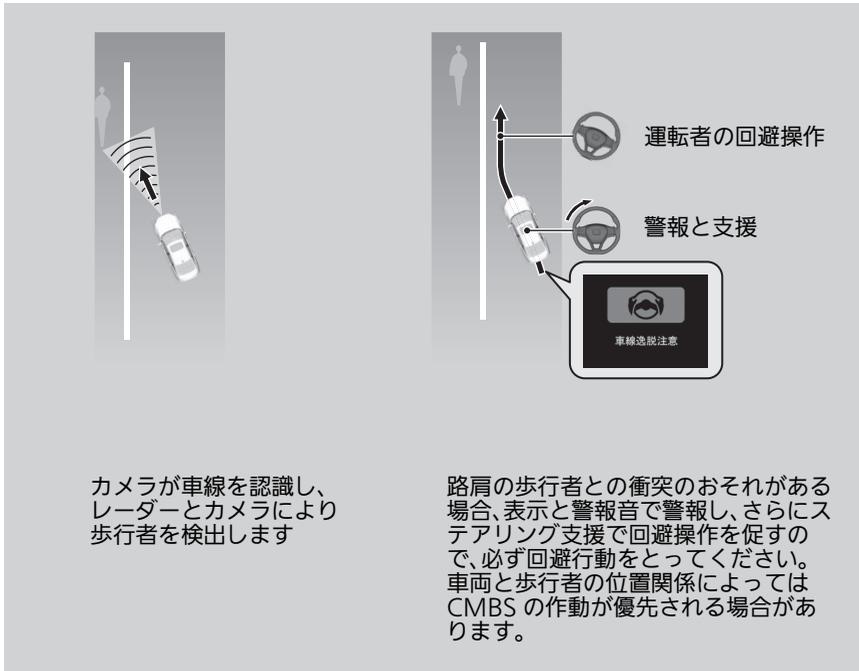
レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

▶ レーダーセンサー P.202

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

▶ フロントセンサーカメラ P.201

■ システムの作動



■ システムの作動条件

歩行者事故低減ステアリングは以下の状態で作動します。

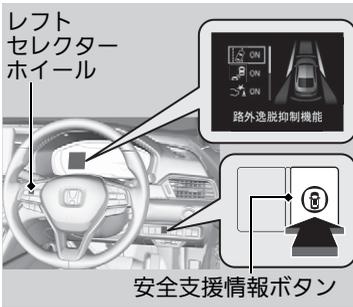
- 歩行者が路肩を歩行しているときに、車両がその歩行者に向かって車線から逸脱していくとき
- 実線の白線(黄線)が連続しているとき
- 車速が約 10 ~ 40km/h で走行しているとき
- 直線の道路を走行しているとき

歩行者事故低減ステアリングは以下の状態では作動しません。

- ワイパーを連続で作動させているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を出しているとき

運転者による操作が行われているときには支援が感じられないことがあります。

■ システムの ON と OFF



歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能が ON のときに作動します。

以下の操作でシステムの ON と OFF を切り換えてください。

1. 安全支援情報ボタンを押す。
2. レフトセレクトターホイールを回し、を選択してホイールを押す。

▶ 切り換わると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

カスタマイズ機能で「操舵アシストなし 警報のみ」を選択した場合、歩行者事故低減ステアリングはステアリング制御を行いません。

■ 歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限

以下の条件で、歩行者事故低減ステアリングの支援が遅れたり、支援できない場合があります。

運転者が周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

■ 環境によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が歩行者や路面に反射しているとき
- トンネルの出入り口など、周辺の明るさが急に変わるとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻き上げがあるとき

■ 道路の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)や歩行者を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、歩行者の周囲に電波を強く反射する物があるとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水たまりなどで舗装路が部分的に見えているとき

■ 自車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- 衝突を回避しようとして、運転者がブレーキやステアリングを操作したとき
- フロントロアグリルが汚れているとき
- 先行車との車間距離が短いとき

■ 歩行者の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 自車の前方に歩行者が飛び出すなど、歩行者が急に見え始めたとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて、カメラが歩行者を検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき

■ その他、作動できない事例

- 急加速やステアリング操作をしながら、前方の歩行者に接近したとき
- 歩行者のかたちとしてカメラが正しく検知できないとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両などのとき

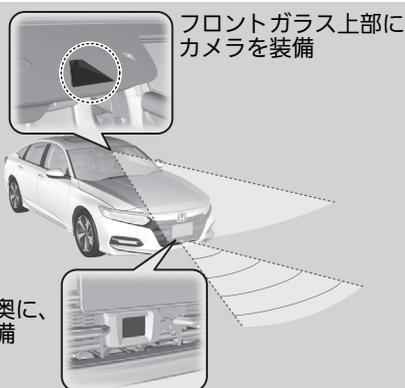
渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)

渋滞追従機能付 ACC は、フロントロアグリルの奥に設置してあるレーダーセンサーとフロントガラス上部に設置してあるカメラが先行車との車間距離を測定して、高速道路の渋滞時に適切な加減速を行い、設定車間距離を保持しながら、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに走行、停車出来るよう支援するシステムです。

渋滞追従機能付 ACC によるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。

■ 使用できるシフトポジション

D のとき



ブレーキペダルを操作しての減速中や、パーキングブレーキがかかっているときは、渋滞追従機能付 ACC は作動しません。

悪天候などで、レーダーセンサーが先行車との車間距離を測定できないときは、システムが作動しないことがあります。

⚠ 警告

渋滞追従機能付 ACC の不適切な使用は事故につながります。取扱説明書の操作手順に従い操作してください。

高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。

警告

渋滞追従機能付 ACC は、補助システムとして使用してください。渋滞追従機能付 ACC は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

警告

渋滞追従機能付 ACC の作動中に停車した車両から、適切な駐車操作無しで外に出ると車両が操作無しで動き出す可能性があります。

適切な駐車操作無しで動く車両は、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

渋滞追従機能付 ACC で停車した車両から絶対に外に出ないでください。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

■ レーダーセンサー P.202

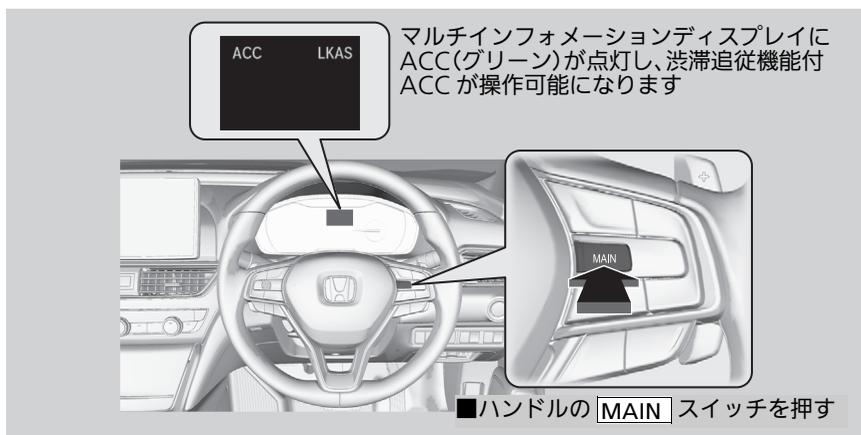
フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

■ フロントセンサーカメラ P.201

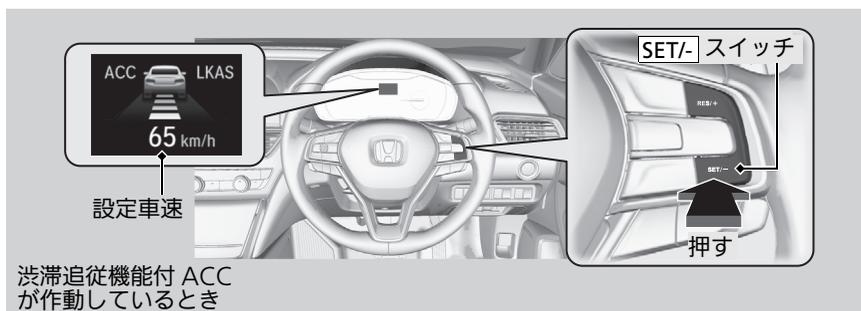
使用上の注意：

渋滞追従機能付 ACC は、運転者を支援するシステムです。天候や環境などによって機能しないことがあります。必要なときはブレーキペダルを使用し、常に安全な車間距離を保ってください。

■ システムを起動させるには



■ 車速をセットするには



ブレーキペダルを操作していないときに **SET-/** スイッチを押すと現在の車速が設定車速とされ、渋滞追従機能付 ACC が作動し、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンや設定車速が表示されます。

車速が 30km/h 以下で走行しているとき：

先行車を検知している場合のみ作動することができ、現在の車速にかかわらず設定車速が約30km/hに設定されます。車両が動いていない場合は、ブレーキペダルを踏んでも作動することができます。

渋滞追従機能付 ACC を使用すると Straight Driving Assist(直進保舵支援機能)が作動します。

これは EPS(電動パワーステアリング)の機能であり、直進におけるハンドル保舵力を低減し、直進走行しやすくします。

MAIN スイッチを押すと、渋滞追従機能付 ACC と LKAS の両方が ON と OFF に切り換わります。

下記の状況のときは、渋滞追従機能付 ACC を使用しないでください。

- 交通量の多い道路や頻繁に加減速を繰り返すような交通状況では、交通状況にあった速度で走行できません。
- 急カーブのある道では道路状況にあった速度で走行できません。
- 急な下り坂では設定車速を超えてしまう場合があります。このような場合は、渋滞追従機能付 ACC によるブレーキは作動しません。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するときは、自車の前から先行車がいなくなることで設定車速まで加速を始めてしまいます。
- 悪天候(雨、霧、雪など)のときは先行車との車間距離を正確に測定できません。
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面ではタイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。

■ 渋滞追従機能付 ACC の作動

■ 先行車がいるとき

渋滞追従機能付 ACC は先行車がレーダーセンサーの検知範囲に入ると、先行車の車速変化に合わせ、設定車速の範囲内で車間距離を保ちながら追従走行します。



マルチインフォメーション
ディスプレイに車のアイコン
が表示されます

設定車速より遅い速度で走行する先行車や割り込み車が前方にあらわれた場合、システムは減速制御を行います。

■ 先行車がないとき



マルチインフォメーションディスプレイに点線の車のアイコンが表示されます

先行車がない場合、設定した車速で定速走行します。

先行車が車線変更などでいなくなると、設定車速までゆるやかに加速後、定速走行します。

■ アクセルペダルを踏んだとき

- アクセルペダルを踏み込むと、渋滞追従機能付ACCが一時的に解除され車速が上がります。このとき、渋滞追従機能付ACCの警告範囲内に先行車がいっても警告音やマルチインフォメーションディスプレイの警告表示はできません。
- アクセルペダルを離すと、渋滞追従機能付ACCが復帰し追従走行または定速走行を再開します。

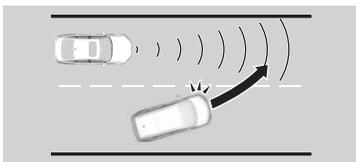
■ 先行車が減速して停車するとき



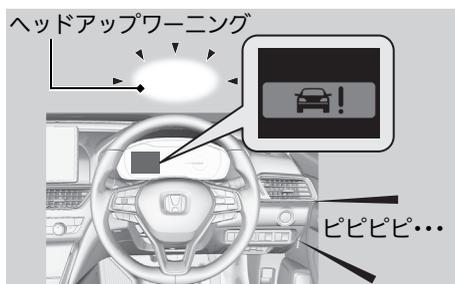
先行車が停車すると、自車も自動で停車します。マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

先行車が動き始めると、マルチインフォメーションディスプレイのアイコンが点滅します。**RES/+**スイッチまたは**SET/-**スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むことで発進し、以前の設定車速の範囲内で追従走行します。

先行車が急減速したり、遅い車両が割り込んできたときは、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイの警告やヘッドアップワーニングで視覚への警告が表示されません。



ブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。



先行車または割り込み車の车速が自車よりも速く、次第に離れていく場合、先行車との距離が短くても警報が出ず、そのまま追従することがあります。

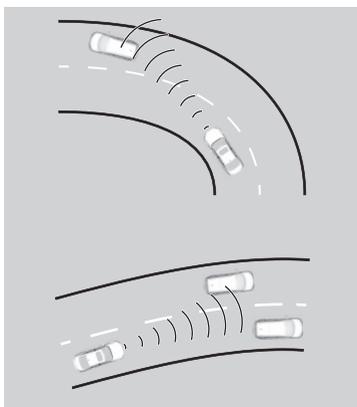
制限:

安全な車間距離を保つために、渋滞追従機能付 ACC を使用中でもブレーキペダルを使用しブレーキをかける必要があります。また、天候や環境などにより渋滞追従機能付 ACC が適切に作動しないことがあります。

▣ 渋滞追従機能付 ACC の条件と制限 P.176

▣ 車間距離を設定するには P.178

- 道路状況(カーブなど)や自車の状況(ハンドル操作や車線内の位置)によっては、一時的となりの車線の車や周囲の物に対して車間距離制御を行う場合があります。



- 先行車がインターチェンジやサービスエリアなどに入る際、自車の前から先行車がいなくなるときは、車間距離制御が少しの間継続する場合があります。

■ 渋滞追従機能付 ACC の条件と制限

一定の条件でシステムは自動解除し、渋滞追従機能付 ACC 警告灯が点灯する場合があります。以下の条件では渋滞追従機能付 ACC の機能の一部を発揮できない場合があります。

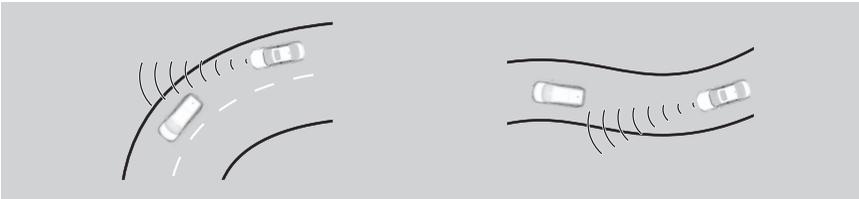
❏ フロントセンサーカメラ P.201

■ 環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

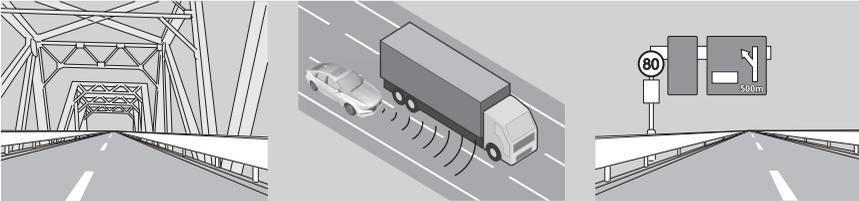
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 先行車による水しぶきや雪の巻き上げがあるとき

■ 道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき



- 雪道や未舗装路などわだちのある道路
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき



■ 自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

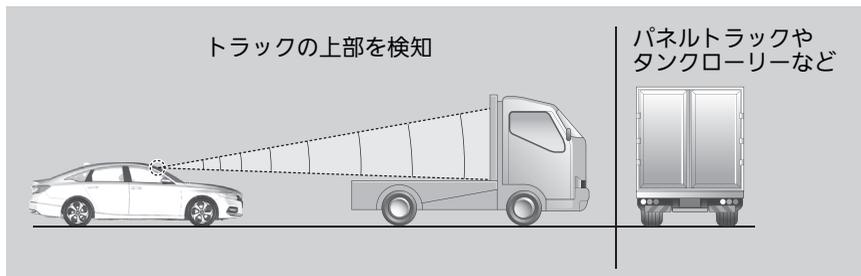
- フロントロアグリルが汚れているとき
- 適正なタイヤを使用していないとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき

■ 前方の車両の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

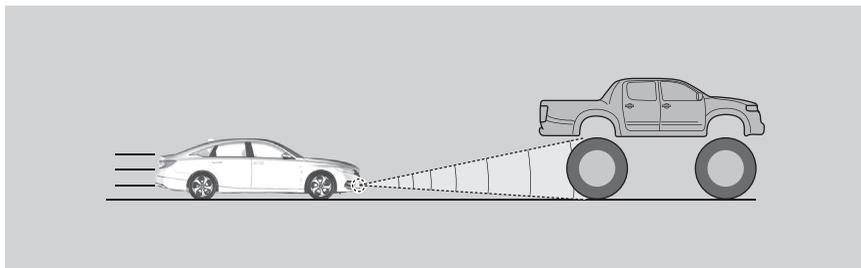
- 自車の前方に車両が急に割り込んだとき
- 前方の車両との距離が極端に短いとき

■ その他、システムが正しく作動しない事例

- 前方の車両が駐停車していたり、自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 前方の車両がパネルトラックや特殊な形状の車両のとき

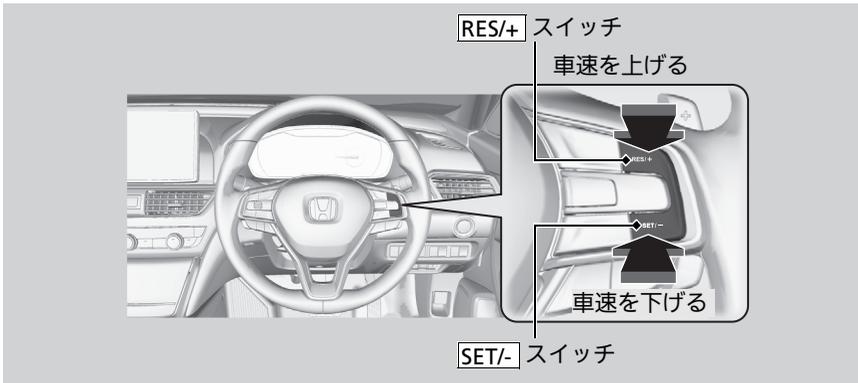


- 自車または前方の車両が、車線の片側にかたよって走行しているとき
- 前方の車両が二輪車など幅の狭い車両のとき
- 前方の車両の最低地上高が極端に高いとき



■ 設定車速を調整するには

手元の **RES/+** スイッチと **SET/-** スイッチの操作で、設定車速を上げ / 下げすることができます。



RES/+ スイッチ

- 1回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離れたときの設定車速に固定

SET/- スイッチ

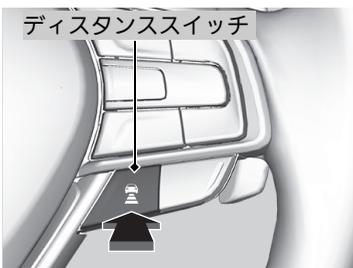
- 1回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離れたときの設定車速に固定

検知した先行車の車速が自車が上げた設定車速よりも遅い場合は、自車の車速を加速させない場合があります。

これは設定した先行車との車間距離を維持するためです。

アクセルペダルを踏み、**SET/-** スイッチを押すと、現在の車速が設定車速になります。

■ 車間距離を設定するには



ディスタンススイッチを押し、車間距離を設定します。

先行車との車間距離設定は、4段階に切り換えることができます。

ディスタンススイッチを押すごとに、最長→長→中→短と切り換わります。

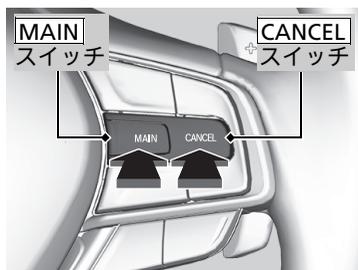
適切な車間距離の設定を決定してください。

車速が低くなるほど、車間距離は短くなります。車間距離の目安は以下の通りです。常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、実際の交通状況に応じて車間距離を選択して、走行してください。

車間距離設定		車速 80km/h のとき	車速 100km/h のとき
短		約 25m	約 30m
中		約 34m	約 42m
長		約 47m	約 58m
最長		約 64m	約 80m

先行車が停車し、自車も自動で停車したときの車間は車間距離設定により変わります。

■ 解除するには



以下のいずれかの操作をすると、渋滞追従機能付 ACC が解除されます。

- **CANCEL** スイッチを押す
- **MAIN** スイッチを押す
 - ▶ メーター内の ACC(グリーン)が消灯します。
- 車両が前進しているときにブレーキペダルを踏む

■ 渋滞追従機能付 ACC の自動解除

次の場合は、マルチインフォメーションディスプレイに「ACC OFF」と表示され、「ピー」とブザーが鳴り、渋滞追従機能付 ACC が自動解除されます。

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- フロントロアグリルが汚れたとき
- 先行車を安定して検知できないとき
- タイヤの異常を検知したとき
- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ABS や VSA、または CMBS が作動したとき

- VSA 警告灯が点灯したとき
- 急斜面で停車しているとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- 検知した先行車との車間距離が短すぎるとき
- 停車状態で先行車がいなくなったとき
- 急加速したとき
- フロントガラス上部のカメラまたはカメラ付近が汚れているとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んでいるとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところを走行したとき
- 停車中に運転席のシートベルトを外したとき
- 車両が 10 分以上停車しているとき
- ブレーキシステム警告灯(オレンジ)が点灯したとき

次の場合は、マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズキャンセルしました」と表示され、「ピー」とブザーが鳴り、渋滞追従機能付 ACC が自動解除されます。

- 長い下り坂などで減速を繰り返したとき

解除前の設定車速を復帰させるには：

渋滞追従機能付 ACC を解除したあと、停車状態でも **RES/+** スイッチを押すと解除前の設定車速で作動を開始することができます。

ただし、以下の場合は復帰しません。

- **MAIN** スイッチを押して渋滞追従機能付 ACC を OFF したあと
- 30km/h 以下で先行車がないとき

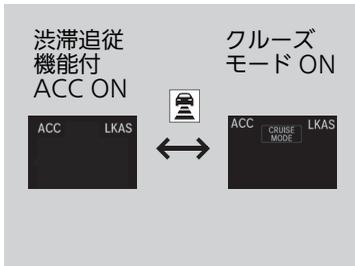
停車中の解除：

渋滞追従機能付 ACC によって自車が自動的に停車しているときに渋滞追従機能付 ACC が解除された場合に、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。



すみやかにブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。

■ クルーズモードへの切り換え



ディスタンススイッチを1秒間押し続けます。マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズモードに設定しました」と表示された後、クルーズモードに切り換わります。

同時に、マルチインフォメーションディスプレイに CRUISE MODE が表示されます。

再度ディスタンススイッチを1秒間押し続けると、マルチインフォメーションディスプレイに「ACC モードに設定しました」と表示された後、渋滞追従機能付 ACC に戻ります。

■ 作動条件

約 30km/h 以上で走行しているとき

現在のモードがどちらなのかを常に意識して使用してください。クルーズモード中は先行車との車間距離を保持しません。

以下の場合、モードを切り換えられません。

- 車速をセットしているとき
- **MAIN** スイッチがオフのとき

クルーズモードへ切り換えた状態でも **MAIN** スイッチを押して ON にし直すたびに、渋滞追従機能付 ACC に戻ります。

■ 車速をセットするには

希望の車速になったらペダルから足を離し、**SET/-** スイッチを押します。

SET/- スイッチを離すと、離れたときの車速にセットされ自動定速走行になります。



同時に、マルチインフォメーションディスプレイに CRUISE CONTROL と設定車速が表示されます。

クルーズモードを使用すると Straight Driving Assist (直進保舵支援機能) が作動します。

これは EPS (電動パワーステアリング) の機能であり、直進におけるハンドル保舵力を低減し、直進走行しやすくします。

■ 車速を調節するには

RES/+ スイッチ

- 1回押しごとに1km/hずつ設定車速が上がる
- 押し続けると10km/hずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

SET/- スイッチ

- 1回押しごとに1km/hずつ設定車速が下がる
- 押し続けると10km/hずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

■ 解除するには

次の操作をすると、自動定速走行が解除されます。同時に CRUISE CONTROL と設定車速の表示が消えます。

- **CANCEL** スイッチを押す
- **MAIN** スイッチを押す
 - ▶ メーター内の ACC(グリーン)が消灯します。
- ブレーキペダルを踏む

解除前の設定車速に復帰させる

自動定速走行を解除したあとも、30km/h以上の車速で走行中に **RES/+** スイッチを押すことで、解除前の設定車速の自動定速走行に戻すことができます。

ただし、下記の場合は復帰できません。

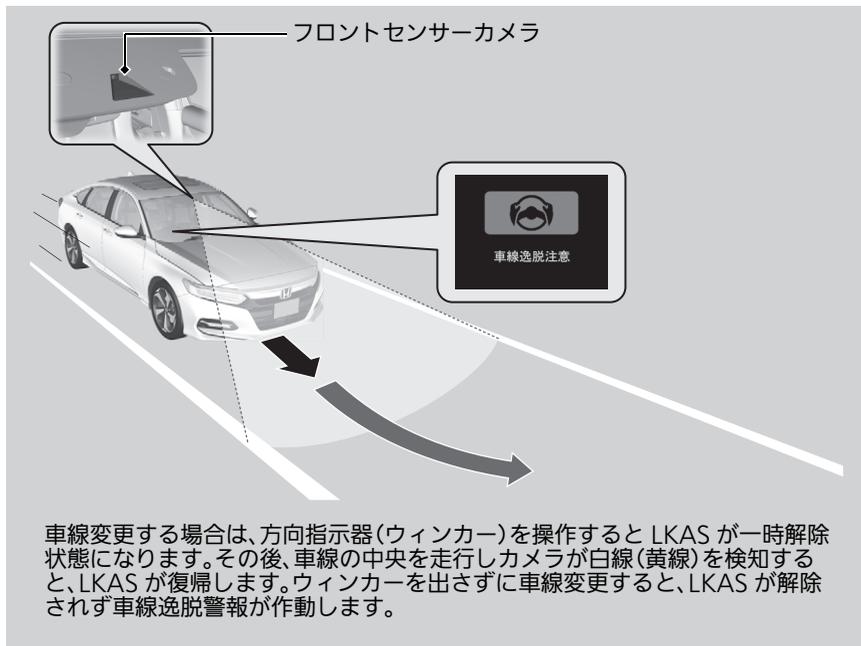
- 車速が30km/h未満のとき
- **MAIN** スイッチでOFF操作をしたとき

車速が25km/h以下になると自動的に自動定速走行が解除になります。

LKAS(車線維持支援システム)

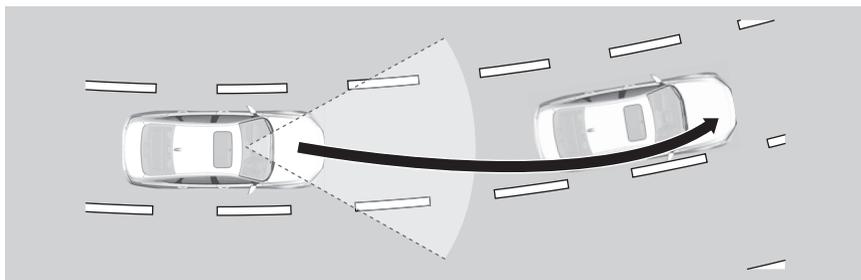
LKAS は、フロントガラス上部に設置してあるカメラによって、左右の白線(黄線)をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

■ システムの作動



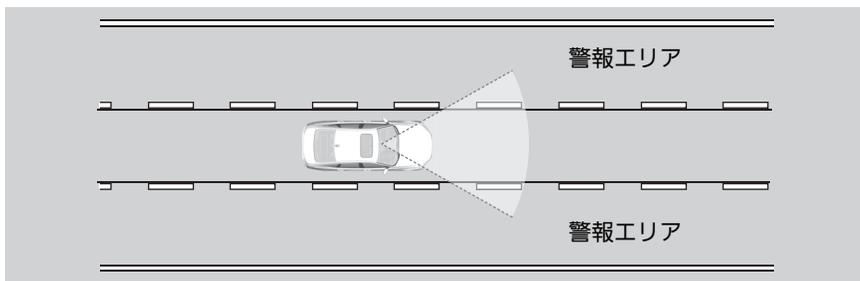
■ 車線維持支援機能

車が車線中央を走行するようにアシストし、白線(黄線)に近づくと電動パワーステアリングの操舵力が強くなります。



■ 車線逸脱警告機能

車が警報エリアに入ると車線逸脱の警報をハンドルの振動と音およびディスプレイ表示で行います。



⚠ 警告

LKAS は補助システムとして使用してください。LKAS は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

LKAS は方向指示器(ウィンカー)を出さずに車線変更を検知したときのみ警告します。LKAS は、すべての車線区画線や車線逸脱を検出できない場合があります。また天候や速度、路面状況によっては、システムが機能しないことがあります。運転者が周囲の道路状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

LKAS は、急なカーブや加速・減速の繰り返しが続く道路では、システムが正常に機能しないおそれがあります。LKAS は、高速道路や自動車専用道路などを運転するときに使用してください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

車線の検知ができないときは、一時的にシステムが解除されます。車線を検知するとシステムが自動復帰します。

■ LKAS を作動させるには

LKAS システムは、以下の条件で作動します。

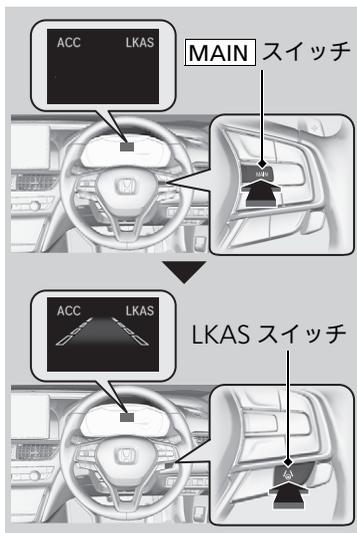
- 車速が約 65 ～ 120km/h で走行しているとき
- 左右に白線(黄線)が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 直線または半径 230m 以上のゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- ワイパーを連続で作動させていないとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- 方向指示器(ウィンカー)を出していないとき

システムが作動しているときに、左右の白線(黄線)に偏る場合は、システムを停止し Honda 販売店で点検を受けてください。

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- カメラ付近のガラスは常にきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れをするときは、ガラスクリーナーなどがカメラのレンズに付着しないようにする
- カメラのレンズには触れない
- カメラ付近のガラスにステッカーを貼らない

■ システムの作動方法



1. **MAIN** スイッチを押す

- ▶ LKAS システムが ON になり、マルチインフォメーションディスプレイ内に LKAS 表示灯(グリーン)が点灯します。

2. LKAS スイッチを押す

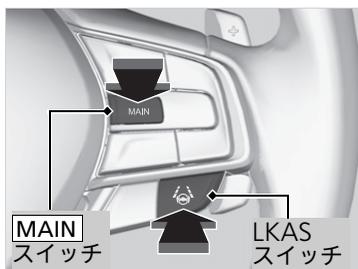
- ▶ LKAS システムが待機状態になります。マルチインフォメーションディスプレイに車線表示(点線)が点灯します。



3. 車線の中央付近を走行する

- ▶ 車線中央付近を走行中にカメラが両側の白線（黄線）を検知すると、LKAS が制御を開始します。

■ 解除するには



以下のいずれかの操作をすると、LKASが解除されます。

- **MAIN** スイッチを押す
- LKAS スイッチを押す

前回走行時にLKASがON状態でも、パワーモードをOFFモードにする度にLKASはOFFになります。

MAIN スイッチを押すと、LKAS と同時に渋滞追従機能付 ACC も解除されます。



■ LKAS の一時解除

次の場合、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が点線で表示され、LKAS が自動解除されます。

- ワイパーを連続作動したとき
 - ▶ ワイパースイッチを **[HI]** または **[MIST]** で連続作動しているときは、LKAS は自動解除されます。ワイパーを **[OFF]** または **[LO]** にすると、LKAS は復帰します。
- ワイパースイッチが **[AUTO]** のときにワイパーが連続作動した場合には、LKAS は自動解除されます。ワイパーの作動が停止または間欠作動になると、LKAS は復帰します。
- ブレーキ操作をしたとき
 - ▶ 減速などでブレーキペダルを踏むと LKAS が解除され、待機状態になります。ブレーキペダルから足を離し、システムが左右の白線(黄線)を検知すると LKAS が自動で復帰します。
- 車速が 60km/h 以下になったとき
 - ▶ 車速が 60km/h 以下になると、LKAS は自動解除します。車速が 65km/h 以上になると、LKAS は復帰します。

■ LKAS が自動的に一時解除される時

- 白線(黄線)を検知できないとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ハンドル操作をしていないとき
- 急なカーブを走行したとき
- 制限速度を超えた速度で走行したとき
- 路外逸脱抑制機能が作動したとき

これらの条件が長く続かなければ、システムは自動的に再開されます。

■ LKAS が自動的にキャンセルされる時

次の場合、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が点線で表示され、ブザーが鳴り、LKAS が自動的にキャンセルされる場合があります。

- カメラ内部の温度が一定以上高温になったとき
- カメラまたはカメラ付近のフロントガラスが汚れているとき
- ABS、VSA が作動しているとき

■ LKAS の条件と制限

以下の条件では、システムは白線(黄線)を検知できず、LKAS が正しく機能しない場合があります。

■ 環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化するとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)

■ 道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき

線が薄くなっている



古い車線の消し残し



タイヤ痕



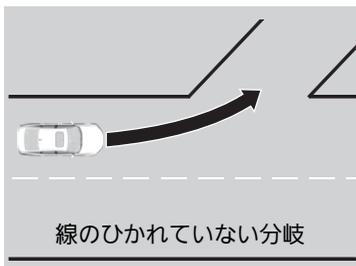
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき

車線幅が極端に広い／狭い



- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき

- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水たまりなどで舗装路が部分的に見えていないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 分岐・合流路などを走行するとき



■ 自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- サスペンションを変更したとき
- 先行車との車間距離が短いとき

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能はシステムが車両の車線逸脱の可能性を検知すると、車線逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

警告

路外逸脱抑制機能は、補助システムとして使用してください。路外逸脱抑制機能は、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

■ フロントセンサーカメラ P.201

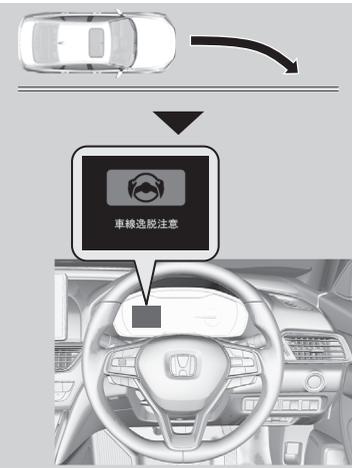
運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。

カスタマイズ機能で「アシストタイミング早め」を選択し、LKAS(車線維持支援システム)を作動させていない場合、車線逸脱の可能性を検知すると以下のメッセージが表示されます。



ハンドル操作アシスト中

■ システムの作動



このシステムは、フロントガラス上部に設置されたカメラによって左右の白線または黄線を検知し、方向指示器(ウィンカー)を使用せずに白線(黄線)を逸脱したことを判断したとき、作動します。

マルチインフォメーションディスプレイにより警告を行うとともに、ハンドルを短時間振動させることで運転者の操作を促し、さらに逸脱を防ぐ方向にハンドル操作を支援します。

また逸脱を回避するのに大きくハンドル操作が必要なときは、ハンドル操作の支援とともにブレーキ操作の支援も行います。

ブレーキ操作の支援は、検知した線が実線のときのみ行われます。

繰り返し路外逸脱抑制機能が作動しても運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、左記の警告を表示し路外逸脱抑制機能を一時停止します。



一時停止状態から数分経過すると、左記の表示とともに路外逸脱抑制機能は復帰します。



■ システムの作動条件

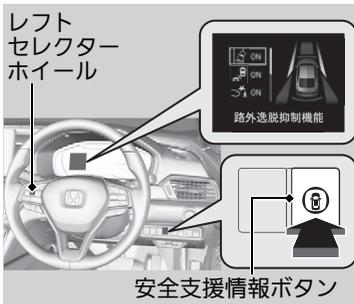
路外逸脱抑制機能は、以下の条件を満たすとき、作動します。

- 車速が約 60 ～ 120km/h で走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を使用していないとき
- ワイパーが連続で作動していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

下記の条件下では路外逸脱抑制機能を抑制しています。

- 車線内を走行していないとき
- カーブ内側に、はみ出して走行してしまっているとき
- 車線幅が狭いとき

■ システムの ON と OFF



以下の操作でシステムの ON と OFF を切り換えてください。

1. 安全支援情報ボタンを押す。
2. レフトセレクトターホイールを回し、を選択してホイールを押す。
▶ 切り換わると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

カスタマイズ機能で「操舵アシストなし 警報のみ」を選択した場合、システムはハンドルおよびブレーキ制御を行いません。

■ 路外逸脱抑制機能の条件と制限

以下の条件では、システムは白線(黄線)を検知できず、システムが正しく機能しない場合があります。

■ 環境の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)

■ 道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

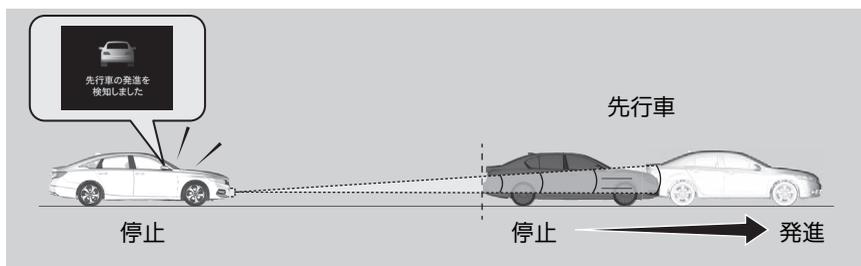
- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水たまりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき

■ 自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- カメラ温度が高温のとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- サスペンションを変更したとき

先行車発進お知らせ機能

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。



警告

先行車発進お知らせ機能は、運転者をアシストするための補助システムです。安全に発進できる状況を知らせるシステムではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

発進するときは、運転者が目視で周囲と前方の安全を十分に確認し、適切な車間距離を保ち運転してください。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

❏ レーダーセンサー P.202

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

❏ フロントセンサーカメラ P.201

■ システムの作動条件

先行車に続いて停車(停止状態での車間距離が約 10m 以内、かつ自車・先行車がしばらく停止)すると先行車を認識し続け、先行車の発進を検知しても自車が停止し続けたときに作動します。

■ シフトポジションが **D** の場合

ブレーキペダルを踏んでいる または オートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動している または 渋滞追従機能付 ACC が作動中で停車している。

■ シフトポジションが **N** の場合

ブレーキペダルを踏んでいる または パーキングブレーキが作動している または オートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動している。

■ システムの作動状態



システムが作動すると、「ポーン」とブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ 先行車発進お知らせ機能の条件と制限

次のような場合、先行車が発進していてもシステムが作動したり、先行車が発進していてもシステムが作動しないことがあります。

■ 自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- フロントロアグリルが汚れているとき
- 自車の停車している時間が短いとき

■ 環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻き上げがあるとき

■ 道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、右左折直後、坂道などのとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■ 先行車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 先行車の停車している時間が短いとき
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が極端に遅い速度で移動しているとき
- 先行車が右左折や急旋回したとき

■ その他、レーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 歩行者や自転車、二輪車、特殊な形状の車両など
- 自車と先行車の間に別の車両や歩行者、自転車などが割り込んできたとき
- 先行車が自車の正面にいないとき

標識認識機能

標識認識機能は走行中に認識した道路標識情報をマルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイに表示し、運転者にお知らせする機能です。表示される道路標識は以下の4つです。

- 最高速度
- はみ出し通行禁止
- 一時停止
- 車両進入禁止

警告

標識認識機能は補助機能として使用する。

標識認識機能は、あらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

この機能は、日本の道路標識を認識するよう設計されていますが、すべての標識が表示されるわけではありません。

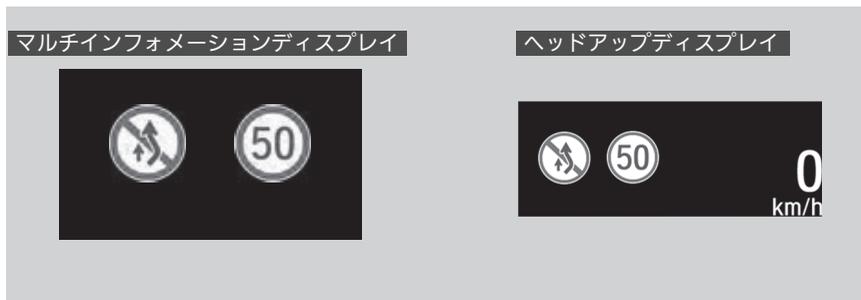
また、表示される道路標識であっても新しいデザインの道路標識は表示されません。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

📷 フロントセンサーカメラ P.201

■ 作動のしかた

走行中にフロントガラス上部にあるカメラで特定の道路標識を認識し、マルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイに道路標識情報を表示します。



標識認識機能は以下の条件で作動します。

- 最高速度 / はみ出し通行禁止: 速度に関係なく作動
- 一時停止 / 車両進入禁止: 自車の速度が約 60km/h 以下のとき

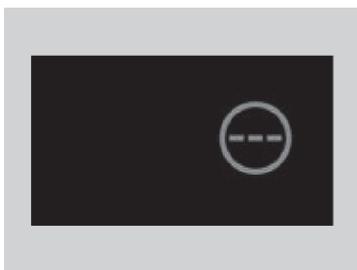
以下のときは、道路標識情報が別のものに切り換わります。

- 表示中の最高速度と異なる最高速度標識を認識したとき
- 一時停止標識または、車両進入禁止標識を認識したとき

以下のときは道路標識情報が消えます。

- 最高速度とはみ出し通行禁止は、標識を通過してから標識ごとに設定された距離(数百~千数百 m)を走行したとき、または終了を示す補助標識を認識したとき
- 一時停止は、標識を通過したとき
- 車両進入禁止は、進入せず標識を通過したとき
- 交差点で方向指示器(ウィンカー)を出しながら右左折したとき

運転中に道路標識が認識されない場合や認識できない場合は以下の画面が表示されることがあります。



■ 標識認識機能の条件と制限

以下の場合などにおいては、標識の認識が遅れたり、認識できない場合があります。

■ 自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき

■ 環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 前走車による水しぶきや雪の巻き上げがあるとき

■ 標識の位置や状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 標識の周囲が煩雑で標識を見つけにくい場合
- 自車から遠く離れた位置にある標識
- 自車のヘッドライトの光が届きにくい位置にある標識
- 曲がり角やカーブの先に設置された標識
- 色あせた標識や折れ曲がった標識
- 向きが変えられた標識や破損した標識
- 泥、雪、又は、霜で覆われた標識
- 一部が樹木などで隠れていたり、車両などの陰になった標識
- 標識の表面上に光(街灯など)や影が映り込んでいる場合
- 明るすぎたり、暗い標識(電光式標識)
- 小さいサイズの標識(終了を示す補助標識など)

■ その他、カメラが正しく検知できない事例

- 高い速度で走行しているとき

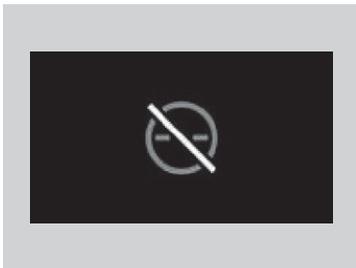
以下の場合などにおいては、標識認識が正しく作動せず、自車の走路に対する規制内容とは異なる表示をしたり、実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。

(最高速度標識においては、実際の規制速度よりも高い数値を表示したり、低い数値を表示したりすることがあります。)

- 標識の上や下に、規制の地点(始まり、終わりなど)や条件(曜日、時間帯など)を示す補助標識がある場合
- 数字の判別がつきにくい標識(電光式標識、数字がかすれた標識など)
- 自車の走路に対しての標識ではないが、自車の走路付近にあり、標識が自車の走路に向いている場合(側道が本線に合流する地点の一時停止標識など)
- 認識対象の標識の色、形、図形に似たものがある場合(類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など)

標識認識機能が故障した場合はマルチインフォメーションディスプレイにが表示されます。

のメッセージが消えないときは、Honda 販売店で点検を受けてください。



■ マルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイの表示

同時に二つまで道路標識情報を表示します。右側には最高速度または一時停止標識、左側にははみ出し通行禁止または車両進入禁止標識を表示します。

選択表示モードのときの表示例

マルチインフォメーションディスプレイ



ヘッドアップディスプレイ

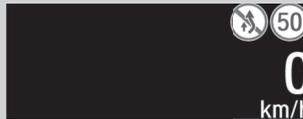


常駐表示モードのときの表示例

マルチインフォメーションディスプレイ



ヘッドアップディスプレイ



左側は車両進入禁止、右側は一時停止を優先表示します。

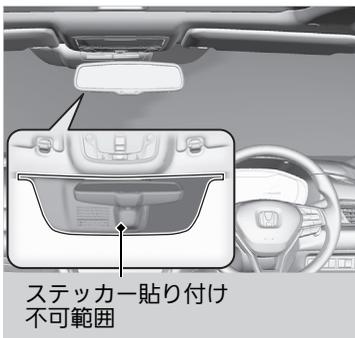
車両進入禁止区域に進入すると車両進入禁止アイコンが点滅します。
約 5 秒間点滅したあと、車両進入禁止アイコンは消えます。

フロントセンサーカメラ



カメラはフロントガラス上部に設置されています。

炎天下に駐車したときなど、室内温度が高温になり、カメラ機能が一時停止する場合があります。一時停止を防ぐため、駐車時は太陽光を避けて日陰に駐車することをおすすめします。反射サンシェードを使用する場合、カメラを覆わないでください。覆うとカメラに熱を集中させてしまう可能性があります。



フロントガラスにフィルムを貼ったり、カメラの視野を遮るものを取り付けしないでください。

カメラの視野内のフロントガラスにキズ、打痕、損傷があると、システムが正常に作動しなくなることがあります。この問題が発生した場合、フロントガラスの交換をお勧めします。Honda 純正品以外のフロントガラスを使用するとシステムが正常に作動しなくなる場合があります。

フロントガラスの修理や交換をする場合は Honda 販売店にご相談ください。

カメラのレンズを汚したり傷つけたりしないでください。

インストルメントパネル上部に物をおかないでください。

物がフロントガラスに反射して車線を的確に検知できない場合があります。

カメラを取り外さないでください。システムが正常に作動しなくなる場合があります。

次の場合は Honda 販売店にご相談ください。

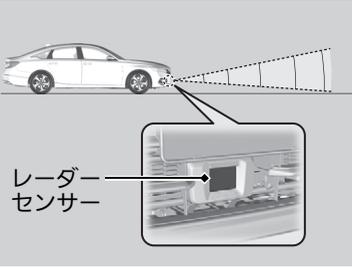
- カメラおよび周辺部に衝撃が加わったとき

フロントガラスが曇った場合は曇りをとってください。

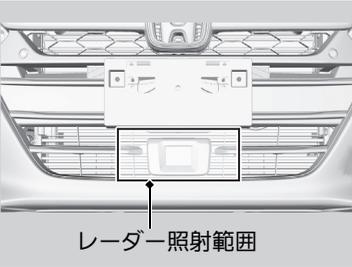
必要に応じてデフロスターを使用してください。

ボンネットやフロントグリルの上にカメラの視野を妨げるものを装着しないでください。カメラの視野を妨げシステムが正常に作動しない場合があります。

レーダーセンサー



レーダーセンサーはフロントロアグリルの奥に設置されています。



- レーダーセンサーやその周りの部品の位置を変更しないでください。
- レーダーセンサーの正面や周囲を塗装したり、ステッカーを貼ったり、Honda 純正品以外のアクセサリーを取り付けたりしないでください。市販のライセンスフレームやアクセサリーは、レーダーの照射範囲内に取り付けないようにしてください。

フロントロアグリルの周囲に強い衝撃を与えないようにしてください。

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- フロントロアグリルは常にきれいにしておく
- フロントロアグリルのお手入れにベンジン、シンナー類、クレンザーなどの磨き粉類を使わない
- フロントロアグリルを塗装したりステッカーを貼らない
- フロントロアグリルを交換しない

次の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

- レーダーセンサーに衝撃が加わったとき
- フロントロアグリル周辺の修理を行うとき

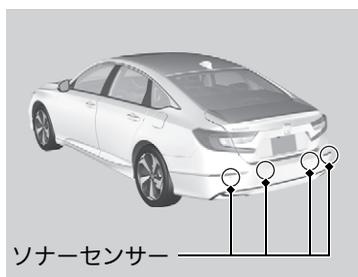
以下のときは、レーダーセンサーが正常に作動しなくなる場合があるため、Honda 販売店で点検を受けてください。

- フロントロアグリルが段差、縁石、輪留め、盛り土などに接触したとき
- 深い水たまりに進入したとき
- 車両前方が衝突、接触したとき

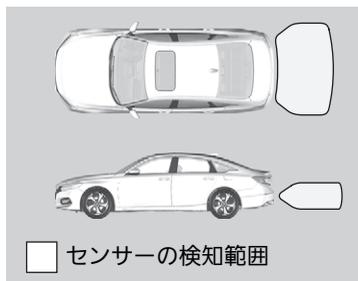
パワーモードを ON モードにするときは、車を静止させてください。駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにパワーモードを ON モードにすると、各機能が作動しない場合があります。

ソナーセンサー

■ センサーの取り付け位置と検知範囲



ソナーセンサーはリヤバンパーに設置されています。



ソナーセンサーの取り扱いについて

- センサーやその周囲にステッカーなどを貼り付けない。
- センサーの周囲に強い衝撃をあたえない。
- 分解は行わない
- センサーの近くにアクセサリーを取り付けない。

次の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

- ソナーセンサーに衝撃が加わったとき
- ソナーセンサー周辺の修理を行うとき

以下のときはソナーセンサーが正常に作動しなくなる場合があるため、Honda 販売店で点検を受けてください。

- リヤバンパーが段差、縁石、輪留め、盛り土などに接触したとき
- 車両後方が衝突、接触したとき
- 深い水たまりに進入したとき

ブレーキ操作

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキ装置の作動のため、エンジンルームからモーター音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

ブレーキシステム

■ 電子制御パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。自動での解除および手動での操作ができます。

■ 手動で操作するとき

パーキングブレーキスイッチの操作で、パーキングブレーキをかけたり解除したりできます。

急な下り坂の発進時などに、手動でパーキングブレーキを解除すると、スムーズな発進を行うことができます。



■ 手動でパーキングブレーキをかける

パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げてください。

- ▶ パーキングブレーキが作動すると、スイッチのインジケーターとメーター内のブレーキ警告灯(レッド)が点灯します。



■ 手動でパーキングブレーキを解除する

1. パワーモードがONモードのときに、右足でブレーキペダルをしっかりと踏む。
2. パーキングブレーキスイッチを押す。
 - ▶ パーキングブレーキが解除され、スイッチのインジケーターとメーター内のブレーキ警告灯(レッド)が消灯します。

■ 自動パーキングブレーキ作動機能

自動パーキングブレーキ作動機能がONになっているとき:

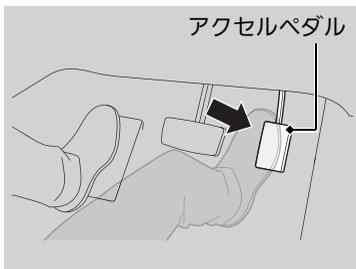
パワーモードをOFFモードにするとパーキングブレーキが自動でかかります。

パーキングブレーキがかかっていることを、ブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。

- ❏ 自動作動機能をON/OFFするには P.205

■ 自動解除するとき

アクセルペダルの操作とパーキングブレーキの解除が連動します。
渋滞や上り坂での発進に便利です。



アクセルペダルをゆっくりと踏んでください。

- ▶ パーキングブレーキが解除され、ブレーキ警告灯(レッド)が消灯します。

パーキングブレーキの自動解除は、次の条件が揃ったときに行えます。

- 運転席シートベルトを着用しているとき
- パワーシステムが起動しているとき
- シフトポジションが **P**、**N** 以外するとき

■ 自動作動機能を ON/OFF するには

パーキングブレーキの自動作動機能は、パワーモードが ON モードのときに以下の操作で ON と OFF を切り換えることができます。

1. シフトポジションを **P** にする。
2. ブレーキペダルを踏まずに、パーキングブレーキスイッチを引き上げます。
 - ▶ ブレーキ警告灯(レッド)が点灯していることを確認してください。
3. パーキングブレーキスイッチを引き上げたままにする。
「ピーッ ピーッ ピーッ・・・」と鳴り始めたら手を離し、3 秒以内に再びパーキングブレーキスイッチを引き上げたままにする。
4. 操作完了音が聞こえたらスイッチから手を離す。
 - ▶ 自動作動機能が ON になると、「ピーッ ピーッ」と鳴ります。
 - ▶ 自動作動機能が OFF になると、「ピー」と鳴ります。
 - ▶ パーキングブレーキの作動状態は、ブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。

また、下記操作を行うことで、パーキングブレーキの自動作動を一時的に OFF することもできます。

1. ブレーキペダルを踏んで停車する。
2. パワーモードを OFF モードにした後、2 秒以内にパーキングブレーキスイッチを押す。
 - ▶ 自動作動機能の ON/OFF 設定は変わりません。
 - ▶ 渋滞追従機能付 ACC およびオートマチックブレーキホールドシステムの機能が OFF になっている状態で行ってください。
 - ▶ パーキングブレーキの作動状態は、ブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。

パーキングブレーキをかけたり解除したときに作動音が聞こえます。
これはブレーキシステムが作動している音で異常ではありません。

パーキングブレーキをかけたり、解除するとブレーキペダルが動くことがあります。
これはブレーキシステムの作動によるもので異常ではありません。

12V バッテリーがあがっているときは、パーキングブレーキをかけたり、解除することはできません。

■ ジャンプスタート P.257

走行中にパーキングブレーキスイッチを引き続けると、その間はパーキングブレーキがかかります。

10分以上渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態で停車していると、自動でパーキングブレーキがかかります。

渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でシートベルトを外したとき、自動でパーキングブレーキがかかります。

渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でパワーモードを OFF モードにしたとき、自動でパーキングブレーキがかかりません。

パーキングブレーキを自動で解除できないときは、手で解除してください。

次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できません。

- PGM-FI 警告灯
- トランスミッション警告灯
- パワーシステム警告灯

次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できないことがあります。

- ブレーキ警告灯(レッド)
- VSA 警告灯
- ABS 警告灯
- エアバッグシステム警告灯

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。

自動作動機能を OFF にして、石などで輪留めをしてください。

また、けん引の場合は、必要に応じて自動作動機能を OFF にして、パーキングブレーキがかからないようにしてください。

■ フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。

効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。

Honda 販売店で点検を受けてください。

長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。

そのため、長い下り坂などでは回生ブレーキを使用します。

アクセルペダルから足を離し、減速セレクターを使用すると、回生ブレーキの強さが調整できます。

🔍 減速セレクター P.143

■ オートマチックブレーキホールド

停車中に、ブレーキペダルを踏み続けなくても、自動的にブレーキを保持する機能です。保持中にアクセルペダルを操作すると、自動でブレーキが解除され発進することができます。信号待ちなどの一時的に停止したいときの使用に適しています。

■機能を ON させるには



オートマチックブレーキホールドスイッチ

シートベルトを着用し、パワーシステムを起動してからオートマチックブレーキホールドスイッチを押す。

- オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が点灯し、機能が ON になります。

■ブレーキを保持させるには

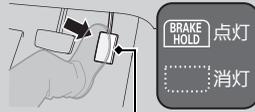


ブレーキペダル

シフトポジションが **P** | **R** 以外のときにブレーキペダルを踏んで停車する。

- オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯し、自動でブレーキが 10 分間保持されます。
- オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯後、ブレーキペダルから足を離してください。

■車両を発進させるには



アクセルペダル

シフトポジションが **P** | **N** 以外のときにアクセルペダルを踏むと機能が解除し、発進します。

- オートマチックブレーキホールド表示灯が消灯し、自動でブレーキが解除されます。

■ブレーキ保持機能が自動的に解除される時

- パーキングブレーキスイッチを引いたとき
- シフトポジションが **P** もしくは **R** で、ブレーキペダルを踏んでいるとき

以下の状態のときは、パーキングブレーキが自動で作動した後、オートマチックブレーキホールドシステムによるブレーキ保持が解除されます。

- 10 分以上ブレーキを保持したとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき
- オートマチックブレーキホールドシステムに問題が発生したとき

■機能を OFF させるには



機能が ON のときにオートマチックブレーキホールドスイッチを押します。

- ▶ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が消灯します。

オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯中に OFF にしたいときは、ブレーキペダルを踏みながらオートマチックブレーキホールドスイッチを押します。

⚠ 警告

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、ブレーキペダルから足を離さない。

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、オートマチックブレーキホールドが作動していても、ブレーキペダルから足を離したときに車が動くことがあります。不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

駐車をする目的でオートマチックブレーキホールドを作動させない。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

オートマチックブレーキホールドシステム作動中は絶対に車から離れないください。駐車する際はシフトポジションを **P** にしてパーキングブレーキをかけてください。

⚠ 警告

オートマチックブレーキホールドを使用する際は、オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯するまでブレーキペダルから足を離さない。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯した後にブレーキペダルから足を離してください。

パワーシステムを停止すると、システムは自動的に OFF になります。

自動洗車機を使用するときは、システムが OFF になっていることを確認してください。

ブレーキ保持中にタイヤの回転を検知すると、ブレーキ力を強めるために作動音が発生する場合があります。

ABS(アンチロックブレーキシステム)

■ ABS とは

ABS(アンチロックブレーキシステム)とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがあります。これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。なお、低速(車速約 10km/h 以下)では ABS は作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABS が正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

ABS 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。

通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABS が作動していない可能性があります。

ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ABS は、制動距離を短くするためのものではありません。

ABS を装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。

ABS が作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、安全運転に心がけてください。また、次のような場合、ABS の装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなる場合があります。

- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差

電子制御ブレーキアシスト

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

▼ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.146

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを非常点滅表示灯が自動的に高速で点滅して後続車に知らせ、追突される可能性を低減するシステムです。60km/h 以上で走行しているときに急ブレーキをかけると作動します。



エマージェンシーストップシグナルは、以下の状態になると作動が停止します。

- ブレーキペダルを離したとき
- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

駐停車操作

駐車する

1. ブレーキペダルをしっかり踏む。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。
3. シフトポジションを **P** にする。
4. パワーシステムを停止する。
▶ 車から離れるときは必ず施錠してください。

坂道に駐車するときは、必ずパーキングブレーキをかけてください。

仮眠するときは、パワーシステムを停止してください。

無意識にシフトポジションを操作したり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

停車中の空ぶかしはしない。

万一、シフトポジションが **P** **N** 以外の場合、思わぬ急発進のもとになります。

シフトポジションを **N** にすると同時に **POWER** スイッチを押さないでください。

N ポジションの状態になることがあります。

シフトポジションは **P** にしてください。

枯れ草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。

排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。また、上り坂で **P** **N** 以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら車を停車させたりしないでください。

トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

⚠ 注意

駐車時はパワーシステムを停止する。

万一、シフトポジションが **P** | **N** 以外の場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

アドバイス

車が完全に止まらないうちに **P** に入れないでください。
トランスミッション破損の原因となります。

車内の見えるところに貴重品などを置かないでください。

車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。

車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。

パーキングブレーキをかけずに、輪留めをしてください。

輪留めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

後退出庫サポート

駐車場などから後退で出庫するときに、リヤバンパー左右にあるレーダーにより車両後方の左右から接近する他の車両を検知し、運転者に知らせる機能です。

⚠ 警告

このシステムは出庫時の後方確認などをサポートするためのものであり、衝突を防止するためのシステムではありません。

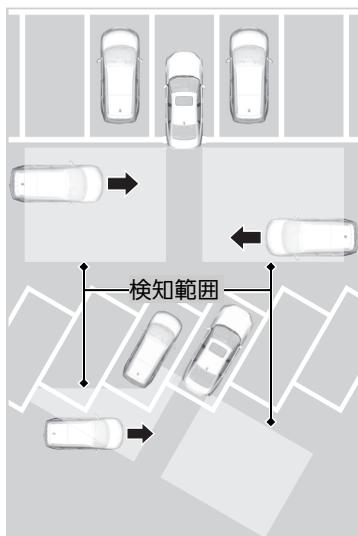
後退時は、必ず目視やミラーなどで後方および周囲の安全を直接確認して運転してください。

状況によっては、検知のできない可能性があるため、ブザーや画面の表示のみを頼って後退すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

以下のような状況では、接近する車両を検知できなかつたり、検知が遅くなつたり、接近する車両がないのに検知したりする場合があります。

- リヤバンパーの周囲に他の車両や壁などがあり、レーダーの検知範囲が影響を受けたとき
- 自車の車速が約 5km/h を越えているとき
- 接近する他の車両の車速が約 10 ～ 25km/h 以外のとき
- レーダーなどを装備した他の車両が近くにいるとき
- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- リヤバンパー側面に雪や泥などが付着しているとき
- 悪天候で、接近する他の車両をシステムが認識できないとき
- 坂道またはトランクや座席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 壁、ポール、他の車両などに近付くように後退したとき

■ 作動条件と作動タイミング



パワーモードが ON モードでシフトポジションが **R** のときにシステムを ON にしていると、自車の車速が約 5km/h 以下の場合に車両後方の左右から接近する他の車両を検知し、ブザーと画面の表示でお知らせします。

自車の真後ろから接近する他の車両は検知しません。また、検知している他の車両が自車の真後ろまで到達した時点でお知らせを停止します。

自車から離れていく車両に対しては検知をしません。また接近する歩行者、自転車、バイクなどに対して検知する場合があります。

リヤバンパーに衝撃が加わったり、リヤバンパー周辺の修理を行ったときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

リヤバンパー側面にシールなどを貼らないでください。レーダーの電波がさえぎられるため、他の車両を正しく検知できません。

システムを正しく作動させるために、リヤバンパー側面は常にきれいにしておいてください。

■ 画面表示について

接近してくる車両を検知している間は、接近方向矢印が表示されます。

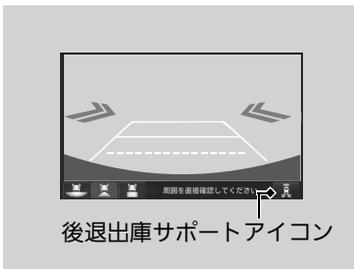


画面右下のアイコンがから (オレンジ) になったときは、リヤバンパー側面に雪や泥などが付着していることにより一時的にシステムが動作しません。リヤバンパー側面の付着物を取り除いてください。

画面右下のアイコンがから (オレンジ) になったときは、システムに異常がありますので、システムを使用せず、Honda 販売店で点検を受けてください。

シフトポジションを **R** にしても画面が切り換わらないときは、カメラシステムに異常があります。このとき、後退出庫サポートも正常に作動できなくなります。Honda 販売店で点検を受けてください。

■ 後退出庫サポートの ON と OFF



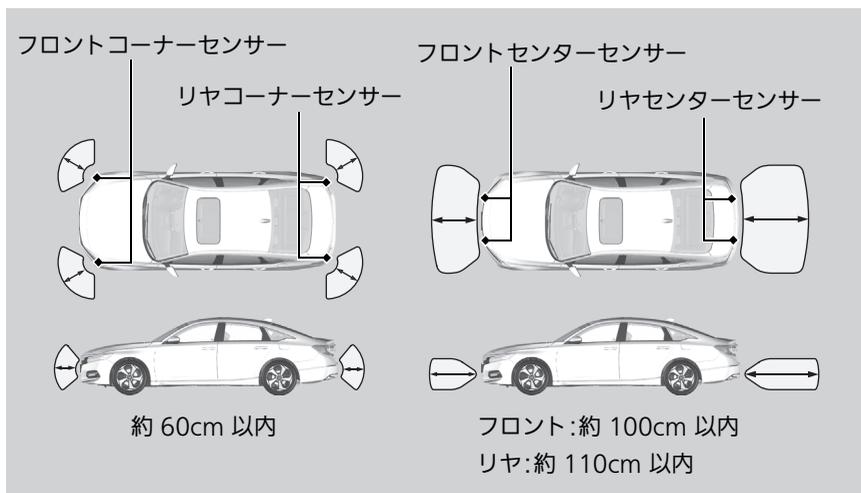
後退出庫サポートアイコンを押して、システムの ON/OFF を切り換えます。

パーキングセンサーシステム

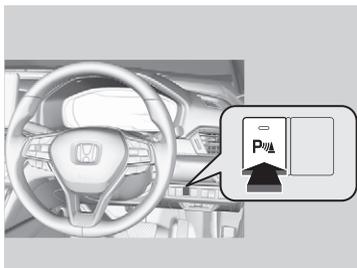
車両前方のフロントセンターセンサーおよびフロントコーナーセンサーと車両後方のリヤセンターセンサーおよびリヤコーナーセンサーが障害物を検知し、障害物と車両の距離をブザーとマルチインフォメーションディスプレイ、オーディオインフォメーション画面で知らせます。

❏ ソナーセンサー P.203

■ パーキングセンサーの取付位置と検知範囲



■ パーキングセンサーの ON と OFF



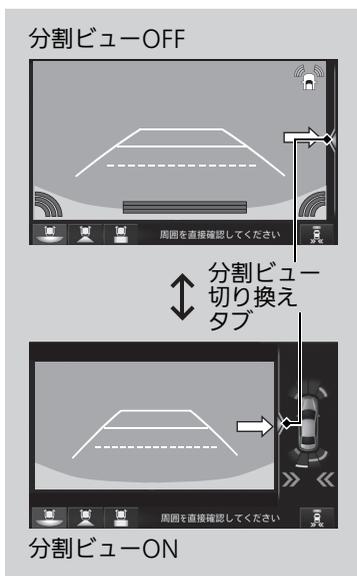
パワーモードがONモードのときに、パーキングセンサーシステムボタンを押して、システムのONとOFFを切り換えます。

パーキングセンサーシステムをONにしたとき、ボタンのインジケーターが点灯します。

フロントコーナーセンサーおよびリヤセンサーは、シフトポジションが **R** で、車速が 8km/h 以下のとき障害物を検知します。

フロントセンサーは、シフトポジションが **P** 以外で、車速が 8km/h 以下のとき障害物を検知します。

■ スクリーンの操作



分割ビューのON/OFFを分割ビュー切り換えタブで切り換えることができます。

■ 障害物を検知したときの作動状態

ブザー音の間隔	障害物との距離		インジケータ	オーディオ インフォメーション画面、 マルチインフォメーション ディスプレイ
	コーナー センサー	センター センサー		
長い	—	フロント:約 100-60 cm リヤ:約 110-60 cm	点灯※1 (イエロー)※2	
短い	約 60-45 cm	約 60-45 cm	点灯※1 (オレンジ)	
非常に 短い	約 45-35 cm	約 45-35 cm		
連続	約 35 cm 以下	約 35 cm 以下	点灯※1 (レッド)	

※1: リアワイドカメラ画面のインジケータは点滅します。

※2: このときは、センターセンサーのみが障害物を検知します。

駐車する前に車両の廻りに障害物がないことを確認してください。

次のようなときは、システムが正常に働かないことがあります。

- センサーが雪、氷、泥などで覆われているとき
- 凸凹な路面や、草地、段差があるとき
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- 近くに超音波を発する電子機器があるとき
- 悪天候のとき

次のようなときは、システムが検知できないことがあります。

- 障害物が細いとき、または低いとき
- 雪、布、スポンジなど吸音しやすい材質があるとき
- バンパーの真下に障害物があるとき

センサーの近くにアクセサリーを取り付けない。

パワーシステムを起動したときは、パワーモードを OFF する前の状態(ON または OFF)を保持します。

■ リヤセンサーの OFF

1. パーキングセンサーシステムが OFF になっていることを確認する。パワーモードを OFF モードにする。
2. パーキングセンサーシステムボタンを押しながら、パワーモードを ON モードにする。
3. パーキングセンサーシステムボタンを 10 秒間押し続け、ボタンのインジケーターが点滅したら手を離す。
▶ このときブザーが 1 回鳴ります。
4. 再度パーキングセンサーシステムボタンを押すと、ボタンのインジケーターが消える。
▶ ブザーが 2 回鳴り、リヤセンサーが OFF になります。

リヤセンサーを再度 ON にするときは、上記の手順を行ってください。センサーが ON になると、ブザーが 3 回鳴ります。

シフトポジションが **R** のとき、パーキングセンサーシステムボタンのインジケーターが点滅し、リヤセンサーが OFF になっていることを知らせます。

リアワイドカメラシステム

リアワイドカメラの取り扱いについては、別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

給油

■ 指定燃料

無鉛レギュラーガソリン
レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)

アドバイス

指定燃料以外の燃料(粗悪ガソリン、軽油、灯油等)を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。

以下のような状態になるおそれがあります。

- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

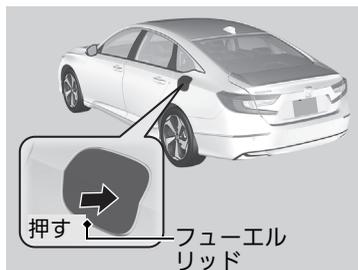
プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

給油のしかた

1. 助手席側にガソリンスタンドの給油機がくるように車を停める。
2. パワーシステムを停止させる。
3. 運転席ドアを解錠する。

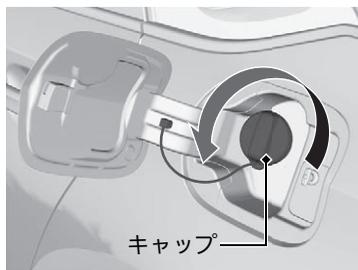
▶ 車の外側のフューエルリッドが解錠されます。

🔑 車内での施錠 / 解錠 P.95

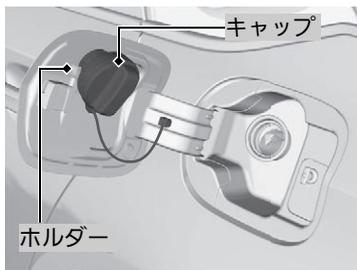


4. フューエルリッドの右端を「カチッ」と音がするまで押し、手を離す。

▶ リッドが少し浮き上がります。



5. ツマミをゆっくり回し、フューエルキャップを開ける。



6. キャップをホルダーにかける。
7. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。
▶ 満タンになると、給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。
8. 給油後、「カチッ」という音が 1 回以上するまでキャップを締め付ける。
▶ フューエルリッドは、手で押さえ付けて閉めます。

⚠ 警告

燃料補給時は火気厳禁。

燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。

- パワーシステムは常に停止させる
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱い屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

⚠ 警告

燃料補給作業は、フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。

静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

⚠ 注意

キャップはゆっくり開ける。

急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

「シュー」という音がある場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。

燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

燃料蒸気を吸わないでください。

燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。

注意

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。

気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。

閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

Honda 純正以外のキャップを使わないでください。

純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

6 メンテナンス

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。

メンテナンスの前に

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。

普段と違う点(音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど)に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。

点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

■ 点検整備の種類

■ 日常点検

長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■ 定期点検

12 か月および 24 か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■ その他

新車時の無料点検や定期交換、激しい使われかたをしたときの点検整備があります。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。

お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。

走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。

必ず、取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。

メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。

必ず、取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

■ メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

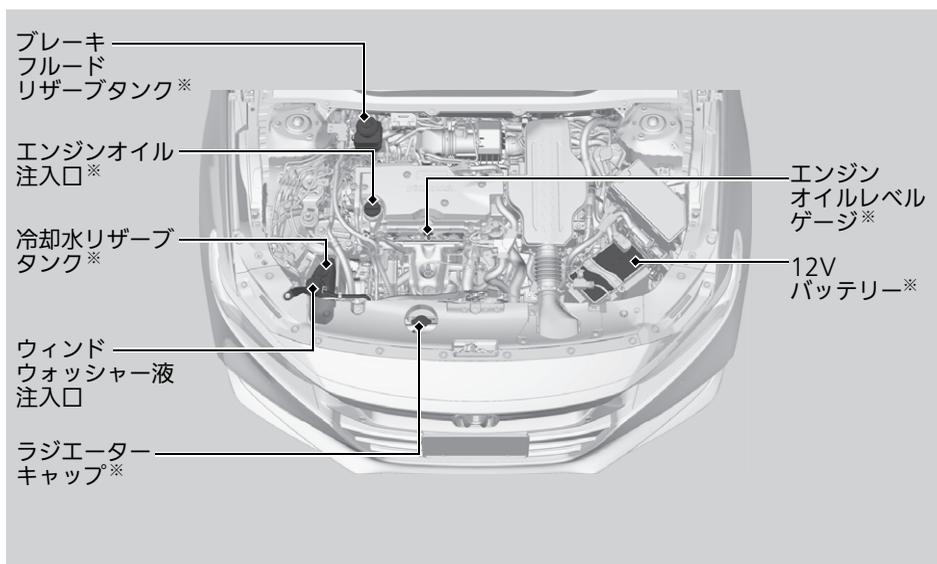
- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける。
- エンジンルーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する。
 - ▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する。
 - ▶ エンジンを始動するときは必ず十分な換気を行ってください。

■ 車についての安全事項

- エンジンルーム内を点検するときは、冷却ファンが止まってから行ってください。
 - ▶ エンジンの温度が高い状態でエンジンを停止したとき、冷却ファンが自動的に作動することがあります。
- 熱くなった部品によるやけどに注意する。
 - ▶ 部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する。
 - ▶ 指示されたとき以外は、パワーモードを OFF モードにして作業してください。ON モードでは、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、エンジン停止中でも冷却ファンが回りだすことがあります。

エンジンルーム内のメンテナンス

エンジンルーム内のメンテナンス項目

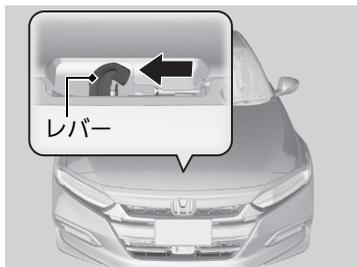


※: 点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

ボンネットを開ける



1. 車を止め、パーキングブレーキをかける。
2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。
▶ ボンネットが少し浮き上がります。



3. ボンネット中央のレバーを左に押し、ロック機構を解除し、ボンネットを開ける。



4. ボンネットを全開にする。

閉めるときは、ボンネットを下げ、ボンネット中央前
端のロック部を手でおさえつけるように閉めます。

⚠ 注意

ボンネットを閉めるときは、手などはさまないように注意する。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。

ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

アドバイス

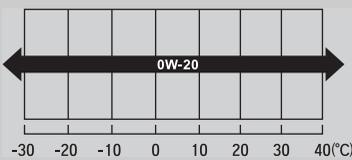
エンジンカバーを強く押さないでください。

エンジンカバーとその周辺部品が損傷することがあります。

推奨エンジンオイル

純正および市販のエンジンオイルは、種類と、(外気温に応じた)粘度について以下の表にもとづきお使いください。

エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながる場合があります。

純正エンジンオイル	市販エンジンオイル
Honda 純正油 • Honda ULTRA LEO ^{※1}	API SM 級以上かオイル缶に API CERTIFICATION(エーピーアイサー ティフィケーション)マークの入ったエン ジンオイル
 <p>外気温</p>	 <p>外気温</p>

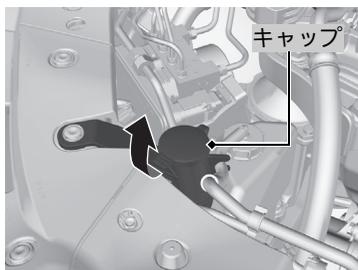
※1: 最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。

API CERTIFICATION(エーピーアイサーティフィケーション)マークは下記のとおりです。



ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液の量を確認します。



減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

電球の交換

ヘッドライト電球

ロービームヘッドライト、ハイビームヘッドライトはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

フォグライト電球

フォグライトはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

デイトタイムランニングライト / 車幅灯電球

デイトタイムランニングライト / 車幅灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

アクティブコーナリングライト電球

アクティブコーナリングライトはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

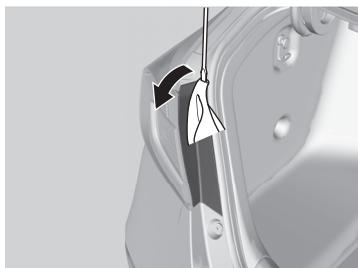
制動灯、尾灯電球

制動灯、尾灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

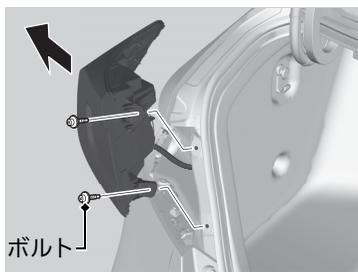
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

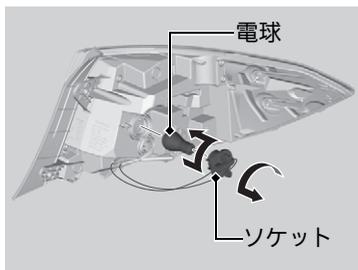
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯: 12V - 21W(橙色)



1. カバーの切り欠き部にマイナスドライバーの先端を差し込み、カバーを取り外す。
▶ カバーが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



2. ボルトを外す。
3. ライト本体を後部ピラーから外へ引くようにして取り外す。

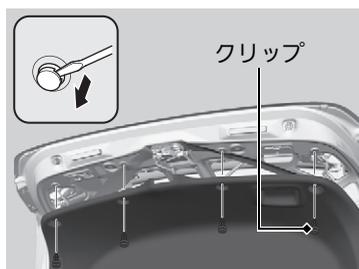


4. ソケットを左に回して外す。
5. 古い電球を抜き取り、新しい電球を差し込む。

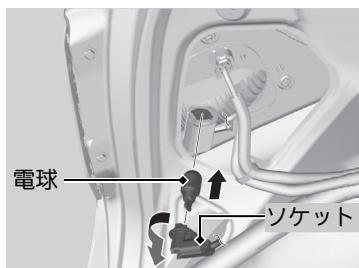
後退灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

後退灯: 12V - 16W

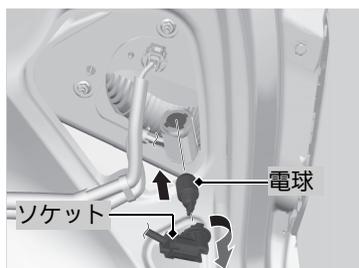


1. マイナスドライバーでトランク内のクリップを外す。
2. ライニングをめくる。



左側

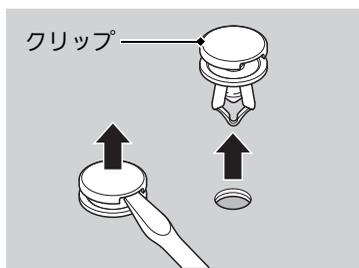
3. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。



右側

3. ソケットを右に回して外し、古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。

クリップを外すときは、クリップの切り欠き部にマイナスドライバーを差し込んで、中央部のピンを起こして取り外します。



番号灯電球

番号灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

ハイマウントストップランプ電球

ハイマウントストップランプはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

車外ドアハンドルランプ電球

車外ドアハンドルランプはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

- その他の電球については右のQRコードから詳細取扱説明書(HTML版)を参照してください。

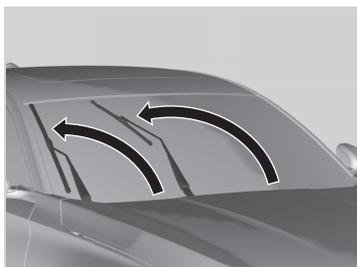


ワイパーブレードラバーの点検と整備

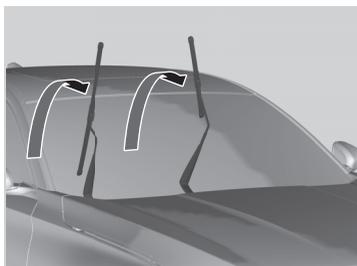
ワイパーブレードラバーの点検

ワイパーブレードラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードラバーの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

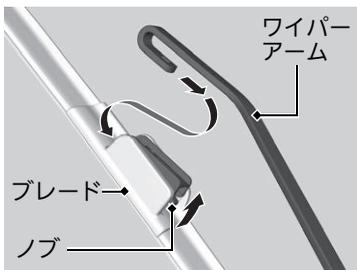
ワイパーブレードラバーの交換



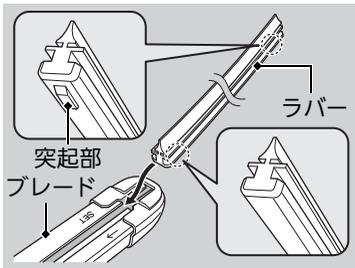
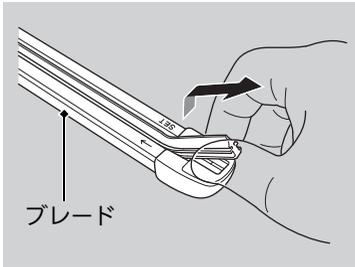
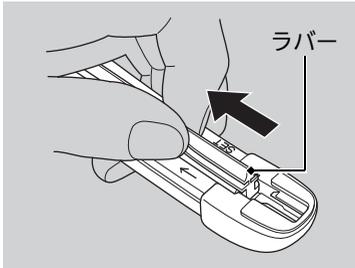
1. パワーモードを OFF モードにする。
2. ワイパースイッチのレバーを **MIST** の位置に押し上げたまま、パワーモードを ON モードにし、すぐにパワーモードを OFF モードにする。
▶ 両方のワイパーアームが、ワイパーメンテナンスポジションにセットされます。



3. 両方のワイパーアームを起こす。



4. ノブを押し上げながら、ワイパーアームからブレードをスライドさせて外す。



5. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。

6. ラバーを突起部のない側を下にしてブレードに沿って差し込む。

▶ ブレードをワイパーアームに取り付け、ラバーの突起部がブレード先端の溝に挿入されるまで差し込み、確実に固定します。

7. 両方のワイパーアームを戻す。

8. パワーモードを ON モードにする。

9. ワイパースイッチのレバーを **MIST** の位置に押し上げて、両方のワイパーアームを通常の位置に戻す。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。

タイヤの点検と整備

タイヤの点検

■ タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができないばかりか乗り心地も損なわれます。

安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物がないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に保ってください。

■ 日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
 - ▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
 - ▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

■ 空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。

タイヤの指定空気圧は、巻末の仕様を参照してください。

☞ 仕様 P.275

■ 損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
 - ▶ 異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
 - ▶ 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？

警告

摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でないタイヤを使用しない。

不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。

必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。

タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。

取扱説明書が手元にない場合は、車のラベルをご覧ください。

タイヤとホイールの交換

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。

サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、運転に関わるシステムが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

同時にすべての4つのタイヤを交換することをお勧めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右を一緒に交換してください。

ホイールの仕様が純正ホイールと同一のものが確認してください。

警告

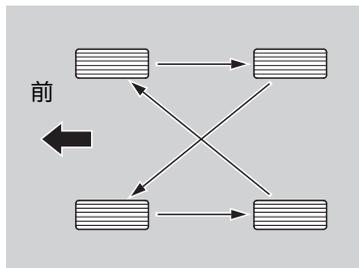
必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。

不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤのローテーション

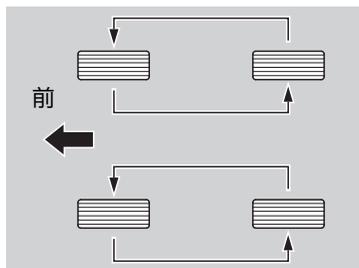
5,000km 走行したときタイヤのローテーションをしてください。
タイヤのローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

■ 回転指示マークがないタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

■ 回転指示マークがあるタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

締め付けトルク

108 N・m (11 kgf・m)

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。

また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

スノータイヤの場合:

- 四輪とも同じ種類、指定サイズのタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

タイヤチェーンは使用できません。

タイヤチェーンを使用すると、ボディやサスペンション、ブレーキ配管などを破損するおそれがあります。

Honda スマートキーの取り扱いと電池交換

警告

**ボタン電池は、お子さまが飲み込まないように注意する。
重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
飲み込んだときは、ただちに医師の診察を受けてください。**

- ▶ Honda スマートキーの取り扱いと電池交換については右の QR コードから詳細取扱説明書 (HTML 版) を参照してください。



清掃

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。故障や車両火災の原因となるおそれがあります。万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

■ ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。

ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

■ 親水ミラーのお手入れ

アドバイス

ミラーの親水効果が失われますので、以下の点にご注意ください。

- ミラー表面に撥水剤やワックスを付着させない
- 砂の付いた布や油膜取り剤(コンパウンドなど)でミラー表面をこすらない

アクセサリーと改造

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
 - ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。
また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。
- フロントガラス、ドアガラスやフロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーを取り付けていないか？
 - ▶ サイドカーテンエアバッグの作動の妨げになるので、上記の場所にはアクセサリーを取り付けしないでください。

改造や部品交換について

車の改造はしないでください。

Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。

Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。

診断コネクタは、故障診断用の診断装置などの機器のみを接続するためのものです。それ以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、12V バッテリーがあがるなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

警告

不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故につながる可能性があります。
適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故につながる可能性があります。

電装品の分解、改造は行わないでください。故障や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

警告

高電圧バッテリーは、純正品の使用をおすすめします。純正品以外のバッテリーを使用した場合、過充電や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

7 万一の場合には

この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。

非常信号灯

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。

非常信号灯に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意

▶ **非常信号灯** P.6

電池が消耗していないか、ときどき作動させて点灯状態を確認してください。電池が切れていたり発光が弱いときは電池を交換してください。

電池を交換しても点灯しなかったり、発光が弱いときは、最寄の Honda 販売店で点検を受けてください。

パンクしたとき

パンクしたタイヤの応急修理

スペアタイヤの装備はありません。タイヤの損傷が激しい場合は、乗り物をけん引する必要があります。

■ 非常時のけん引 P.267

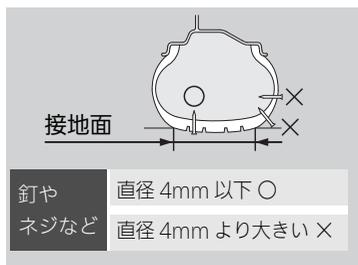
単にタイヤに小さな穴がある場合、永久的な修理をするために最寄りの販売店へ運転することができるよう、損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理ができます。

パンクしたときは、ハンドルをしっかりと握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. パーキングブレーキをかける。
3. シフトポジションを **[P]** にする。
4. 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードを OFF モードにする。

以下のような場合、タイヤパンク応急修理キットは使用できません。Honda 販売店またはロードサービスにご連絡ください。

- 応急修理剤の有効期限が切れているとき
- タイヤが2本以上パンクしているとき
- 約4mm以上の切り傷や刺し傷によるパンクのとき
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき

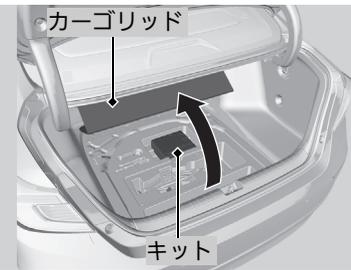
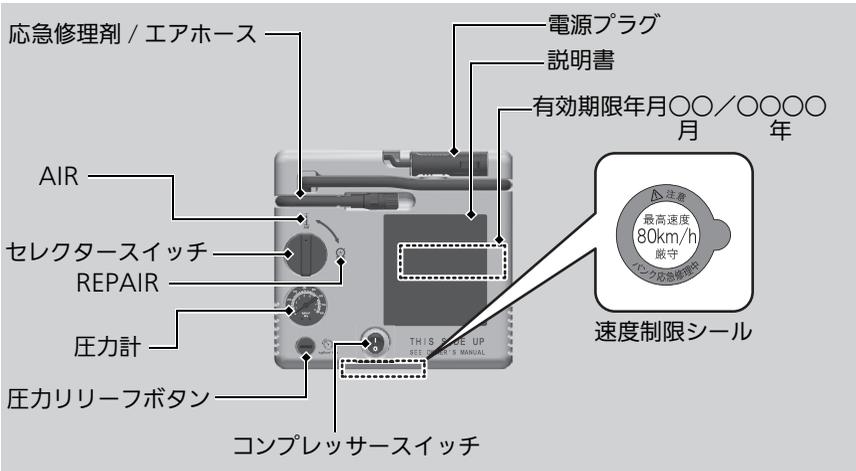


- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールが破損しているとき

タイヤに刺さったクギなどは抜かないでください。

抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急修理が不可能になる場合があります。

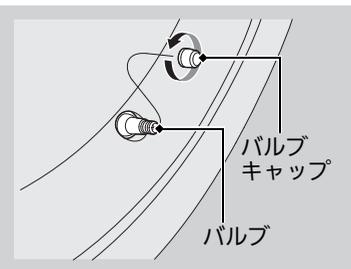
■ タイヤ応急修理の準備



1. カーゴリッドを開ける。
2. タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
3. 交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。

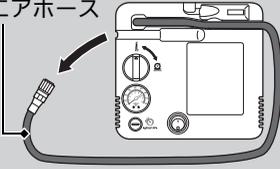
応急修理をスムーズに行うため、タイヤパンク応急修理キットに付属の説明書をお読みください。

■ 応急修理剤とエアの注入



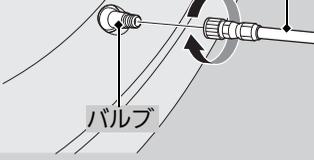
1. バルブからバルブキャップを取り外す。

応急修理剤/
エアホース

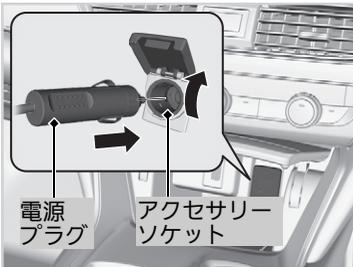


2. 応急修理剤/エアホースを応急修理キットから取り外す。

応急修理剤/エアホース



3. タイヤのバルブに応急修理剤/エアホースをきつく締め付ける。



4. エアコンプレッサーの電源コードの電源プラグを、アクセサリソケットに差し込む。

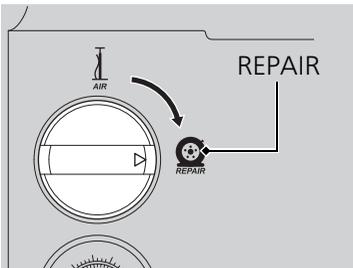
▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。

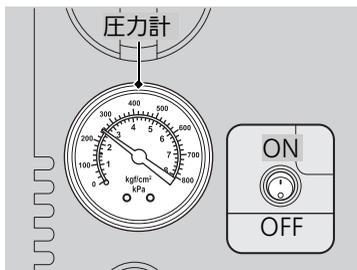
5. パワーシステムを起動する。

▶ 応急修理剤/エアを注入しているときはパワーシステムを停止しないでください。

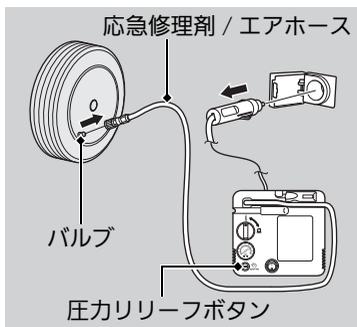
❏ 一酸化炭素について P.44

6. セレクトアスイッチを「REPAIR」にする。





7. エアコンプレッサーのコンプレッサースイッチをONにする。
 - ▶ エアコンプレッサーはタイヤに応急修理剤とエアを注入し始めます。
 - ▶ 応急修理剤の注入が完了すると、エアのみ注入されます。
8. 空気圧を指定空気圧まで高め、エアコンプレッサーのコンプレッサースイッチをOFFにする。
指定空気圧:
前輪: 235 kPa (2.4 kgf/cm²)
後輪: 220 kPa (2.2 kgf/cm²)
9. エアコンプレッサーの電源コードの電源プラグを、アクセサリソケットから外す。
10. タイヤバルブから応急修理剤/エアホースを外しバルブキャップを取り付ける。
11. 圧力リリースボタンを押して、圧力計が0 kPaになるまでエアを抜く。



⚠ 警告

応急用修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。

誤って飲用した場合、

- できるだけたくさん水を飲んでください。
 - ただちに医師の診察を受けてください。
- 目に入ったり皮膚に付いた場合
- 水でよく洗い流してください。
 - 異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

お子さまが誤って手を触れないよう、保管、取り扱いに注意してください。

外気温が氷点下以下のときは応急修理剤は容易に流れないかもしれませんが、使用前に約5分間暖めてください。

応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちないおそれがありますのでご注意ください。

警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

アドバイス

15分以上エアコンプレッサーを使用しないでください。

エアコンプレッサーは過熱し、破損するおそれがあります。

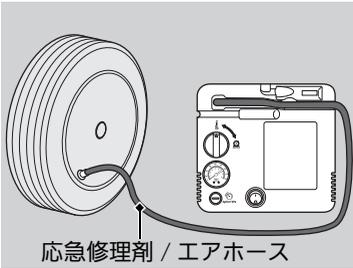
応急修理剤が注入されている間、圧力は一時的に高くなります。注入が完了すると圧力は落ちますが、再度上昇します。これは正常です。

正しい空気圧を測定するためには、応急修理剤が注入された後にエアコンプレッサーのコンプレッサースイッチを OFF にしてください。

10分以内に指定空気圧にならないときは、応急修理剤による応急修理はできません。Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

タイヤパンク応急修理剤の購入および空きボトルの適切な処分については Honda 販売店にお尋ねください。

■ 点検走行



応急修理剤 / エアホース

1. 速度制限シールを、運転者のよく見える位置に貼る。
2. 点検走行を開始する。
 - ▶ 法定速度を守ってください。高速道路では 80km/h 以下を厳守してください。
3. 10分または 5km 走行したあと安全な場所に車を停める。
4. タイヤのバルブに応急修理剤 / エアホースをきつく締め付ける。
5. セレクタースイッチを「AIR」にする。
 - ▶ エアコンプレッサーのコンプレッサースイッチを ON にしないでください。
6. エアコンプレッサーに付属の圧力計で空気圧を測定する。
 - 空気圧が 130 kPa (1.3 kgf/cm²) 未満の場合：
応急修理剤では修理はできません。
運転を中止して Honda 販売店またはロードサービスに連絡してください。
 - 空気圧が指定空気圧の場合、応急修理は完了です。
指定空気圧：
前輪：235 kPa (2.4 kgf/cm²)
後輪：220 kPa (2.2 kgf/cm²)
 - 空気圧が 130 kPa (1.3 kgf/cm²) 以上、指定空気圧以下の場合：
エアコンプレッサーを使って指定空気圧まで高める。
Honda 販売店または専門修理工場に到着するまで、ステップ 2 から 6 までを繰り返す。
 - ▶ 高速道路では 80km/h 以下で、法定速度を守って指定の Honda 販売店または専門修理工場
でタイヤの修理、交換を行ってください。
7. タイヤバルブから応急修理剤 / エアホースを外しバルブキャップを取り付ける。
8. 圧力リリースボタンを押して、圧力計が 0 kPa になるまでエアを抜く。
9. キットを車両に戻す。

⚠ 警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

⚠ 注意

ハンドルのパッドにシールを貼らない。

SRS エアバッグが正常に機能しなくなります。

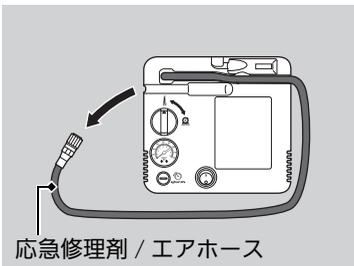
警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。

安全運転の妨げとなります。

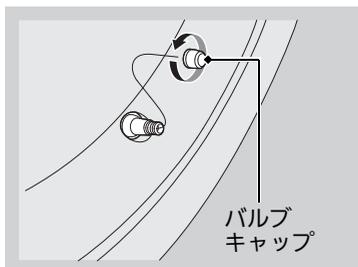
走行前に、エアコンプレッサーなどの積み忘れがないか、しっかりと確認してください。

■ タイヤ空気圧の補充

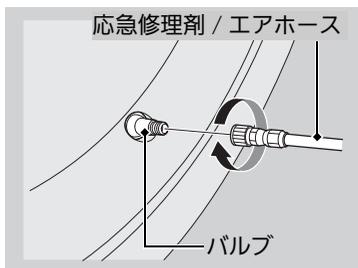
装備されているエアコンプレッサーを使用して、パンクしていないタイヤの空気圧を補充することができます。



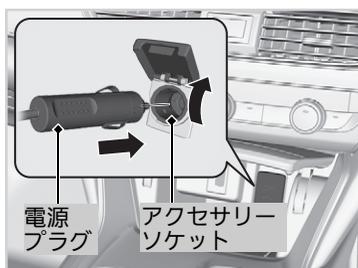
1. エアコンプレッサーを準備する。
2. 交通から遠ざけ、空気を補充するタイヤ付近にキットを水平に置く。
▶ キットの側面を立てて置かないでください。
3. 応急修理剤 / エアホースをキットから取り外す。



4. バルブからバルブキャップを取り外す。



5. エアコンプレッサーの応急修理剤/エアホースをタイヤのバルブにきつく締め付ける。



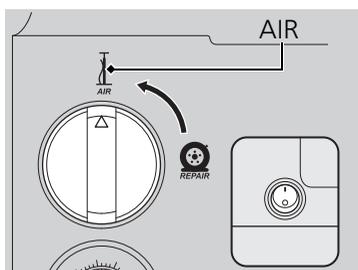
6. エアコンプレッサーの電源コードの電源プラグを、アクセサリソケットに差し込む。

▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。

7. パワーシステムを起動する。

▶ エアを注入しているときはパワーシステムを停止しないでください。

❗ **一酸化炭素について P.44**



8. セレクタースイッチを「AIR」にする。

9. エアコンプレッサーのコンプレッサースイッチをONにする。

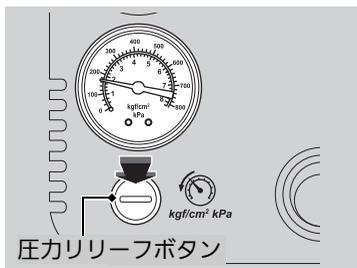
▶ エアコンプレッサーを起動すると、エアがタイヤに注入されます。

10. 指定空気圧になるまでエアの補充をする。

指定空気圧:

前輪: 235 kPa (2.4 kgf/cm²)

後輪: 220 kPa (2.2 kgf/cm²)



11. エアコンプレッサーのコンプレッサースイッチを OFF にする。
 - ▶ エアコンプレッサーの圧力計を確認してください。
 - ▶ もし空気圧が高ければ、圧力リリーフボタンを押して減圧します。
12. エアコンプレッサーの電源コードの電源プラグを、アクセサリソケットから外す。
13. タイヤバルブから応急修理剤/エアホースを外しバルブキャップを取り付ける。
14. 圧力リリーフボタンを押して圧力計が0 kPaになるまで空気を抜く。
15. キットを車両に戻す。

⚠ 警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

エアコンプレッサーの電源を ON にすると、振動して音が聞こえますが、故障ではありません。

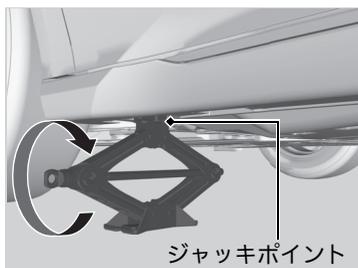
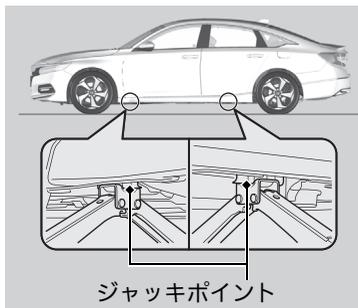
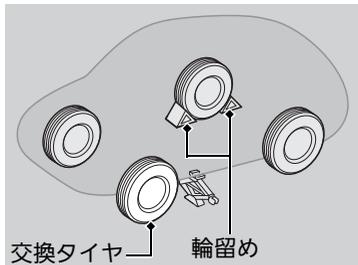
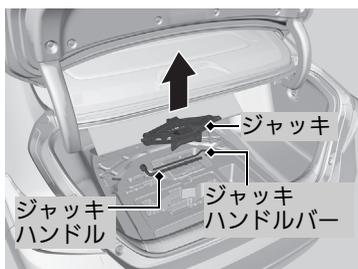
備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- エアコンプレッサーの電源は自動車用 12V 専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

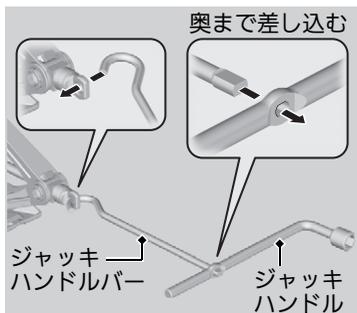
タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。

ジャッキの取り扱い

ジャッキのかけかた



1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. パーキングブレーキをかける。
3. シフトポジションを **P** にする。
4. パワーモードを OFF モードにする。
5. カーゴリッドを開けて、ジャッキ、ジャッキハンドルバー、ジャッキハンドルを取り出す。
6. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪留めをする。
7. 交換するタイヤにもっとも近いジャッキポイントの下にジャッキを置く。
8. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分（矢印）を矢印の方向に回す。
▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。



9. ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

⚠ 警告

車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。
車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠ 注意

ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。

- パワーシステムを起動したままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下にもものを入れたりしない

この車に搭載されているジャッキをお使いください。

他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。

パワーシステムが起動しない

パワーシステムの確認

READY 表示灯が点灯せず、「走行可能です」がマルチインフォメーションディスプレイに表示されない場合、以下のことが考えられます。項目を確認し、適切な処置を行ってください。

項目	状況	対処のしかた
関連した警告灯か警告メッセージが表示されるかどうかを確認する	「キーが見つかりません キーを車内に戻してください」のメッセージが表示されているとき	パワーシステム起動の作動範囲を確認します。 ❑ POWERスイッチ P.104
	「外気温が低いために起動できません パワーモードをOFFにしてお待ちください」と表示される	❑ マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ P.64
	「キーでスイッチに触れてください」と表示される ▶ Honda スマートキーの作動範囲を確認します。 ❑ POWERスイッチの作動範囲 P.104	❑ Honda スマートキーの電池が切れたとき P.256
室内灯の明るさを確認する	パワーシステム警告灯が点灯する	Honda 販売店で点検を受けてください。
	トランスミッション警告灯が点滅し、「トランスミッション異常 停車時はパーキングブレーキを確実にかけてください」もしくは、「停車時はパーキングブレーキをかけてください」とメッセージが表示されているとき	❑ トランスミッション警告灯 P.53
室内灯の明るさを確認する	室内灯などが非常に暗い、または全く点灯しない場合	Honda 販売店で12Vバッテリーの点検を受けてください。
	室内灯などの明るさに問題がない場合	全てのヒューズを確認するか、Honda 販売店で点検を受けてください。 ❑ ヒューズの点検と交換 P.266

項目	状況	対処のしかた
シフトポジションの位置を確認する	P 以外のシフトポジションが選択されている	パーキングスイッチを押してください。
パワーシステム起動手順を実行する	もう一度、正しいパワーシステム起動手操作を試みてください。	❖ パワーシステムの起動 P.137
イモビライザーシステム表示灯を確認する	イモビライザーシステム表示灯が点滅しているときは、パワーシステムの起動ができません。	❖ イモビライザーシステム P.98 ❖ イモビライザーシステム表示灯 P.60

以上の確認をしてもパワーシステムが起動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

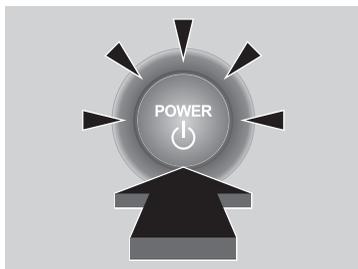
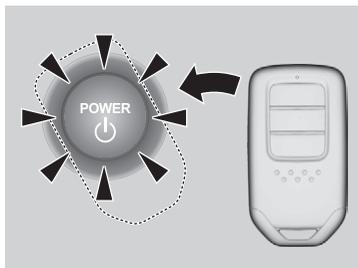
すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

❖ **ジャンプスタートの方法** P.257

Honda スマートキーの電池が切れたとき

ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「キーでスイッチに触れて下さい」とメッセージが表示されるか、**POWER** が点滅しているときは、READY 表示灯が点灯しません。

以下の手順でパワーシステムを起動してください。



1. **POWER** を押す。
▶ 「ピーピーピーピーピーピー」とブザーが鳴り、**POWER** が約 30 秒間点滅します。
2. **POWER** が点滅している間に、Honda スマートキーの Honda エンブレムをスイッチに接触させる。
▶ 「ピッ」とブザーが鳴り、**POWER** が約 10 秒間点灯します。
3. **POWER** が点灯している間に、右足でブレーキペダルを踏みながら、**POWER** を押す。
▶ READY 表示灯が点灯します。
▶ ブレーキペダルを踏んでいないときは、アクセサリモードになります。



▶ Honda スマートキーの取り扱いと電池交換については左の QR コードから詳細取扱説明書 (HTML 版) を参照してください。

緊急時のパワーシステム停止方法

POWER スイッチは走行中、緊急事態の場合にパワーシステムを停止するために使用することができます。

パワーシステムを停止しなければならない場合は、以下のいずれかを行ってください：

- **POWER** を約 2 秒間以上押す
- **POWER** を連続して 3 回押す

このときハンドルはロックしません。

パワーシステムが停止すると、パワーモードはアクセサリモードになります。車が停止すると、自動的にシフトポジションが **P** になり、パワーモードが OFF モードになります。

緊急時など必要な場合以外は、走行中に **POWER** を押さないでください。

走行中に **POWER** を押すとブザーが鳴ります。

ジャンプスタート

ジャンプスタートの方法

警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。

ジャンプスタートの操作を間違えると、12Vバッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。

タバコの火、火花、炎を 12V バッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

アドバイス

気温が極端に低い場所に 12V バッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。

バッテリー液が凍結した 12V バッテリーでジャンプスタートすると、12V バッテリーが壊れることがあります。

寒冷時は、12V バッテリーの性能が低下します。

パワーシステム起動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。

ケーブルをエンジンのマウントボルト以外に接続しないでください。

バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。

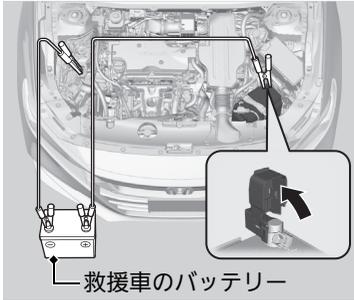
12V バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

■ 処置のしかた

まず、ボンネットを開け、12V バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。

次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。

ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。

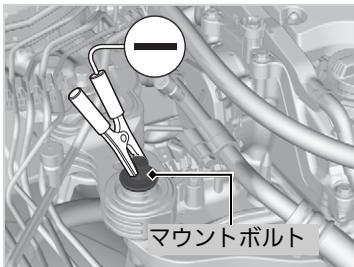


1. 自車と救援車のパワーモードを OFF モード / エンジンスイッチを **0** にする。
2. ブースターケーブルを、自車の 12V バッテリーの ⊕ 端子に接続する。
3. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。

▶ 救援車には、12V のバッテリーを装着している車を使用してください。

▶ 自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15V 以下に設定してください。

4. もう1本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの ⊖ 端子に接続する。
5. ケーブルの反対側を、自車のエンジンのマウントボルトに接続する。
6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
7. 自車のパワーシステムを起動する。



■ パワーシステム起動後の作業

自車のパワーシステムが起動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のエンジンのマウントボルトからケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車の 12V バッテリーの ⊖ 端子から外す。
3. 自車の 12V バッテリーの ⊕ 端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車の 12V バッテリーの ⊕ 端子から外す。
5. 12V バッテリーの電圧が回復するまでアイドリングしてください。

▶ READY 表示灯が点灯すれば走行可能です。

▶ ブレーキ、ブレーキシステム、ABS、VSA の警告灯が点灯し消灯しない場合は、パワーシステムを OFF にして、再度、自車のパワーシステムを起動してください。警告灯が消灯しない場合は、異常が考えられますので、販売店で点検してください。

▶ パワーシステムが起動しないときは、ジャンプスタートを繰り返してください。

Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

警告

12V バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。

12V バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、12V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。

12V バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda 販売店で 12V バッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。

バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。

- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄する
 - 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む
- 応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

12V バッテリー再接続後、渋滞追従機能付 ACC 警告灯と安全支援情報警告灯、VSA 警告灯、VSA OFF 警告灯が一時的に点灯する場合があります。

車速 20km/h 以上でしばらく走行すると消灯します。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

オーバーヒート

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。

- マルチインフォメーションディスプレイに「パワーシステム高温 急発進・急加速・高速走行を避けてください」とメッセージが表示される
- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車し運転を停止してください」とメッセージが表示される
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

警告

蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。

ラジエーターから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

エンジンが熱いうちにラジエーターキャップを外さない。

冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずラジエーターが十分に冷えてからキャップを外してください。

アドバイス

マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車し運転を停止してください」とメッセージが表示された状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「パワーシステム高温 急発進・急加速・高速走行を避けてください」とメッセージが表示されたとき

パワーシステムが高温になると、マルチインフォメーションディスプレイに「パワーシステム高温 急発進・急加速・高速走行を避けてください」とメッセージが表示されます。

☒ マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ P.64

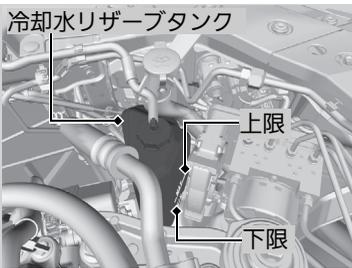
1. ただちに車を安全な場所に停める。
 - ▶ パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを **[P]** にします。すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。
2. パワーシステムを起動したまま、警告メッセージが消えるのを待つ。
 - ▶ 警告メッセージが消えない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車し運転を停止してください」とメッセージが表示されたとき

■ 最初にする事

1. ただちに車を安全な場所に停める。
 - ▶ パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを **P** にします。
2. すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。
 - ▶ **蒸気が出ていない場合**: パワーシステムを起動したままボンネットを開ける。
 - ▶ **蒸気が出ている場合**: パワーシステムを停止し、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。

■ 次にすること



1. 冷却ファンの作動を確認し、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車し運転を停止してください」のメッセージが表示されなくなったらパワーシステムを停止する。
 - ▶ 冷却ファンが作動していない場合は、すぐにパワーシステムを停止します。
2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。
 - ▶ 冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

■ 最後にする事

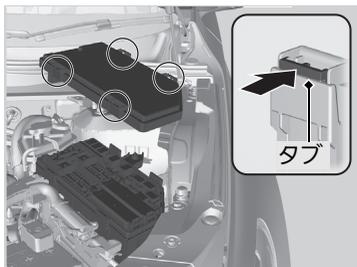
- 十分にエンジンが冷えたら、パワーシステムを起動しマルチインフォメーションディスプレイの表示を確認する。「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車し運転を停止してください」の表示が消えている場合は、運転を再開します。表示が残っているときは、Honda 販売店に修理を依頼します。

ヒューズ

ヒューズの設置場所

電気装置が作動しない場合、パワーモードをOFFモードにして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、エンジンルームと室内のヒューズボックスに入っています。

■ エンジンルーム内のヒューズボックス



エンジンルーム内の助手席側に付いている12Vバッテリーの隣にあります。タブを押して開けてください。

ヒューズボックスのフタに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とフタの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

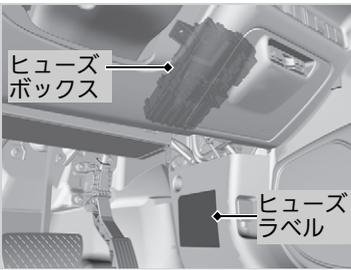
■各ヒューズの装備と容量

容量に()がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

	表示	装備	容量
1		バッテリーメイン	150A
	—	—	(70A)
		EPS	70A
	—	—	(30A)
2		ヒューズボックスメイン 2	60A
		ESB	40A
		ABS/VSA FSR	40A
		P-ACT	(30A)
		イグニッションメイン 1	30A
3		リヤデフロスター	40A
		ヒューズボックスメイン 1	60A
	—	—	(30A)
		ヒーターモーター	40A
		—	(40A)
	—	—	(30A)
	4		ヒューズボックス オプション 2
		—	(40A)
		ヒューズボックス オプション 1	60A
5		RFC	40A
	—	—	(30A)
		R/M 2	30A
		ABS/VSA モーター	40A
		イグニッションメイン 2	30A
6		エンジン EWP	30A
		R/M 1	30A
7	—	—	—
8		ワイパーモーター	30A
9		制動灯	10A
10		EVTC	20A

	表示	装備	容量
11		PCU EWP	15A
12		RFC コイル	10A
13		IGP	15A
14		イグニッションホールド 1	10A
15		バックアップ(FI ECU)	10A
16		バッテリーセンサー	7.5A
17		ドライブバイワイヤー	15A
18		イグニッションコイル	15A
19		非常点滅表示灯	15A
20	—	—	—
21		P-DRV	(7.5A)
22		—	(10A)
23		—	(20A)
24		オーディオ	15A
25		リヤシートヒーター	(20A)
26	—	—	—
27		バックアップ	10A
28		ホーン	10A
29		フォグライト	(10A)
30		シャッターグリル	(10A)
31	—	—	—
32		ウォッシャー	15A
33	—	—	—
34		アクティブ コーナリングライト	(10A)
		オーディオ (SUB)	(7.5A)
35		IGPS (LAF)	7.5A
37		IG1 E-PARKING	(7.5A)
38		IGP IPU	10A
39		IGP TCU	10A
40		フューエルポンプ	20A
41		ABS/VSA	7.5A
42		ACG	10A
43		IG1 RFC	7.5A
44		IG1 Monitor	7.5A
45	—	—	—

■ 室内のヒューズボックス



ハンドル右側のインストルメントパネルの奥にあります。

▶ 下から確認できます。

ヒューズボックス下のサイドパネルに貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

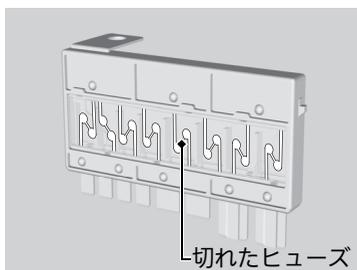
■各ヒューズの装備と容量

容量に()がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

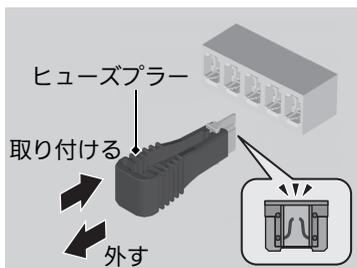
表示	装備	容量
1	—	—
2	 左側ドアアンロック	10A
3	 右側ドアアンロック	10A
4	 ACC	10A
5	 ACC キーロック	7.5A
6	 SRS エアバッグシステム	10A
7	—	—
8	 イグニッション ホールド2	10A
9	 Honda スマート キーシステム	10A
10	—	—
11	 左側ドアロック	10A
12	—	—
13	 右側ドアロック	10A
14	 IG2 OPTION デイトイム	10A
15	 ランニングライト	10A
16	—	—
17	 サンルーフ	20A
18	—	—
19	—	—
20	 シフトバイワイヤー	(10A)
21	—	—
22	—	—
23	—	—
24	 —	(20A)
25	—	—
26	—	—
27	—	—
28	—	—
29	—	—
30	—	—
31	—	—
32	 イグニッション ホールド3	15A

表示	装備	容量
33	 運転席パワーシート (前後スライド)	20A
34	 助手席パワーシート (前後スライド)	20A
35	 IG1 OPTION2	10A
36	 メーター	10A
37	 IG1 OPTION1	10A
38	 運転席パワーシート (リクライニング)	20A
39	 助手席パワーシート (リクライニング)	20A
40	 運転席ランバー サポート	10A
41	—	—
42	 AVS	(20A)
43	 +B OPTION	10A
44	 アダプティブ ダンパーシステム	(20A)
45	 —	(7.5A)
46	 SRS エアバッグ システム	10A
47	—	—
48	 ヘッドアップ ディスプレイ	10A
49	 ドアロック	20A
50	 アクセサリーソケット	20A
51	 後席右側 パワーウィンドー	20A
52	 後席左側 パワーウィンドー	20A
53	 助手席 パワーウィンドー	20A
54	 運転席 パワーウィンドー	20A
55	—	—

ヒューズの点検と交換



1. パワーモードを OFF モードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリを OFF にする。
2. エンジンルーム内のヒューズボックスのフタを取り外す。
3. エンジンルーム内の大きいヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、プラスドライバーでネジを外し、新しいものと交換してください。
4. エンジンルーム内と、室内の小さいヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。



アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。

▶ 各ヒューズの装備と容量 P.263, 265

けん引

非常時のけん引

けん引するときは、Honda 販売店にご連絡ください。

けん引は専門業者に依頼して四輪または前輪を持ち上げて行ってください。

アドバイス

バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。

バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。

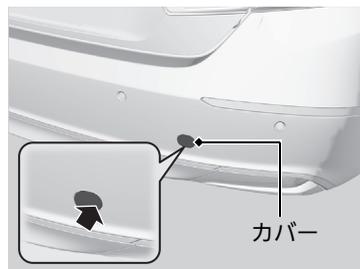
パーキングブレーキが解除されていることをブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。パーキングブレーキが解除できないときは、必ず四輪を持ち上げてけん引してください。

ロープやチェーンなどを使ってけん引されるときは、車体に当たる部分に布を巻いてください。

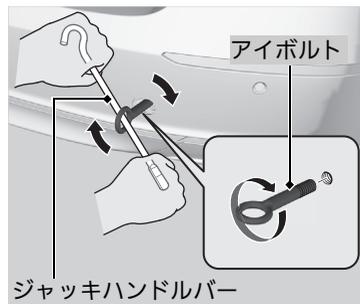
そのままけん引されると、車体に傷が付くことがあります。

■ やむをえず他車をけん引する場合

やむをえず他車のけん引を行う場合、次の方法で行ってください。



1. カーゴリッドを開けてジャッキハンドルバー、アイボルトを取り出す。
2. リッドの右側を押して、リッドを開ける。



3. アイボルトがガタつかない程度まで手で締め付けから、ジャッキハンドルバーで確実に締め付ける。

アドバイス

アイボルト以外のところにロープをかけないでください。

車体が破損、変形する場合があります。

ロープやチェーンなどを使ってけん引するときは、車体に当たる部分に布を巻いてください。

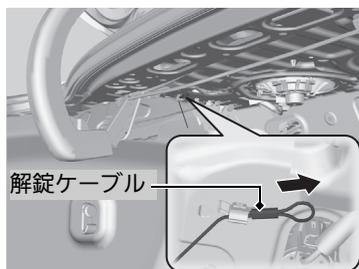
そのままけん引すると、車体に傷が付くことがあります。

自車より重い車のけん引は避けてください。

フューエルリッドが解錠できないとき

■ 解錠できないときの対処方法

万一、フューエルリッドが解錠できなくなったときは、応急処置として次の方法で解錠してください。



1. トランクを開ける。
2. 解錠ケーブルを矢印の方向に引く。
▶ 解錠ケーブルを引くとフューエルリッドが解錠されます。
3. フューエルリッドを開ける。
❏ 給油のしかた P.221

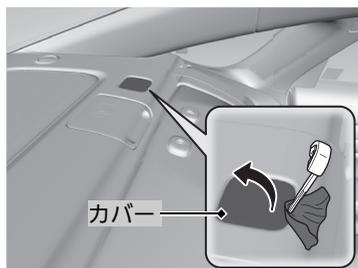
応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

トランクが開かないとき

■ 開かないときの対処方法

万一、トランクを開けることができなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。

1. 助手席側のリヤシートのヘッドレストを外す。
❑ **ヘッドレストの取り外しと取り付け** P.123
2. 内蔵キーを使ってカバーを取り外す。
▶ カバーに傷が付かないように、キーに布などを巻いてカバーを取り外します。



3. トランクリリースレバーを引く。
▶ トランクが開きます。



応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

Q

ブレーキペダルを踏んだらガタガタと振動した

A

・ ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

❏ ABS(アンチロックブレーキシステム) (P. 210)

Q

後席ドアが車内から開けられない

A

・ チャイルドブルーフが施錠の位置になっていませんか？
後席ドアを外から開け、チャイルドブルーフのレバーを解錠の位置にしてください。

Q

ドアを解錠したはずなのに施錠されている

A

・ Honda スマートキーシステムで解錠してから、約 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。

Q

運転席ドアを開けるとブザーが鳴る

A

・ パワーモードをアクセサリ モードにしていませんか？
・ ライトを消し忘れていませんか？

Q

ドアを閉めた後、車から離れるとブザーが鳴る

A

・ ドアが閉まりきる前に降車時オートドアロックの作動範囲から離れていませんか？

❏ 施錠するには(降車時オートドアロック機能) (P. 94)

Q

走行するとブザーが鳴る

A

- ・ 運転席または助手席シートベルトを着用していますか？

Q

パーキングブレーキスイッチを押してもパーキングブレーキが解除できない

A

- ・ ブレーキペダルを踏んでスイッチを操作していますか？

Q

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが自動で解除できない

A

- ・ 運転席シートベルトを着用していますか？
- ・ シフトポジションが **P**、**N** 以外になっていますか？

Q

車を後退させるとき、後方を確認するために運転席ドアを開けるとシフトポジションが **P** になって車が停止した

A

- ・ 運転席シートベルトを着用していますか？
運転席ドアを閉めて、改めてシフト操作を行ってください。
- ドア Open 自動パーキング選択制御 (P. 142)

Q

走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がる

A

- ・ ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。
Honda 販売店で点検を受けてください。

Q

レギュラーガソリン仕様車にプレミアム(ハイオク)ガソリンを使用しても大丈夫ですか？

A

- プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

9 仕様

この章には、仕様に関する情報が記載されています。

ACCORD

■ 仕様

名称	アコード
排気量	1,993cm ³
車体形状	4ドアセダン
乗車定員	5名

■ 点火プラグ

NGK	DILZKAR7D11S
-----	--------------

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。
交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■ 確認

ブレーキペダ ル	遊び	7.8-15.2mm
	床板とのすき 間	130mm以上 { 約 196N (20kgf) の力 }
	カーペットと のすき間 (参考値)	87mm以上 { 約 196N (20kgf) の力 }

■ 燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容 量	48.5L

■ エアクリナーエレメント

タイプ	湿式
-----	----

■ 12V バッテリー

容量 / タイプ	36Ah (5), 45Ah (20)/46B24R
----------	----------------------------

■ ウォッシャー液

タンク容量	4.5L
-------	------

■ 電球

ヘッドライト(ロービーム)	LED
ヘッドライト(ハイビーム)	LED
フォグライト	LED
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯	LED
デイタイムランニングライト / 車幅灯	LED
アクティブコーナリングライト	LED
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯	LED
制動灯	LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	12V-21W(橙色)
尾灯	LED
後退灯	12V-16W
ハイマウントストップランプ	LED
番号灯	LED
トランク照明灯	12V-5W
室内灯	LED
マップランプ	LED
パニティミラー照明灯	12V-2W
グローブボックス照明灯	12V-3.4W
車外ドアハンドルランプ	LED
ドア開閉灯	LED
前席フットランプ	LED
センターポケットランプ	LED
センターコンソールランプ	LED

■ ブレーキフルード

指定液	Honda 純正 ブレーキフルード DOT3 または DOT4
-----	---------------------------------------

■ トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正ウルトラ ATF DW-1
規定量	2.2L(交換時)

■ エンジンオイル

推奨	・ULTRA LEO ^{※1} ・API SM 級以上 0W-20
	オイル交換時 3.5 L
規定量	オイル、 オイルフィルター 3.8 L
	同時交換時

※1：最も省燃費性に優れたオイルです。

■ 冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e グーラント
規定濃度	50%
規定量	4.86 L (交換時: リザーブタンク 0.66 L 含む)

■ タイヤ

サイズ	235/45R18 94W	
空気圧 (kPa[kgf/cm ²])	前輪	235 (2.4)
	後輪	220 (2.2)
リムサイズ	18 × 8J	

数字

12V バッテリー充電警告灯 51

A

A/C(エアコン) 132

ABS(アンチロックブレーキ
システム) 210

ABS 警告灯 54

C

CHARGE(チャージメーター表示) 80

CMBS(衝突軽減ブレーキ) 155

安全支援情報警告灯(オレンジ) 56

安全支援情報表示灯(グリーン/
グレー) 63

E

ECON スイッチ 144

ECO スコア 86

ECO ドライブ 86

EPS システム警告灯 53

EV 表示灯 62

EV モード表示灯 63

H

Honda スマートキー 91, 92

POWER スイッチ 104

I

ISOFIX/i-Size 39

L

LKAS(車線維持支援システム) 183

LKAS 警告灯 55

LKAS 表示灯 60

P

POWER(パワー表示) 80

POWER スイッチ 104

パワーモードの切り換えかた 104

R

READY 表示灯 62

S

SRS エアバッグ 19

エアバッグシステム警告灯 26, 55

T

TRIP ボタン 82

U

USB ジャック 128

V

VSA(ビークルスタビリティ
アシスト) 146

VSA OFF 警告灯 55

VSA OFF ボタン 147

VSA 警告灯 55

W

W(ワット数) 274

あ	
アームレスト	123
アームレストスルー	125
アクセサリ	241
アクセサリソケット	127
アクティブコーナリングライト	107
アクティブコーナリングライト電球	230
アジャイルハンドリングアシスト	147
安全支援情報	85
安全支援情報警告灯(オレンジ)	56
安全支援情報表示灯(グリーン / グレー)	63
安全に関する表示	2
安全のための確認事項	12
アンチロックブレーキシステム (ABS)	210
ABS 警告灯	54

い	
一酸化炭素の危険性	44
イモビライザーシステム	98
イルミネーションコントロール	114
インフォメーション表示灯	59

う	
ウィンドウォッシャー	
ウィンドウォッシャー液の補給	229
ウィンドウの開閉	100
運転	
シフト操作	140
パワーシステムの起動	137
ブレーキ操作	204
運転支援情報	84

え	
エアコン	131
エアコンの使いかた	132
モード切り換えスイッチ	132

エアバッグ	19
SRS エアバッグ	19
運転席ニーエアバッグ	21
エアバッグシステム警告灯	26, 55
エアバッグシステム故障診断記録装置	3
エアバッグのお手入れ	27
サイドエアバッグ	23
サイドカーテンエアバッグ	25
エアバッグシステム故障診断記録装置	3
エマージェンシーストップシグナル	211
エンジンオイル	228
推奨エンジンオイル	228
エンジン作動表示	87
エンジンルーム内のメンテナンス	226
ウィンドウォッシャー液の補給	229
エンジンルーム内のメンテナンス項目	226
推奨エンジンオイル	228
ボンネットを開ける	227
冷却水の点検と補給	261

お	
応急修理剤(タイヤパンク)	243
オートエアコン	132
オートドアロック / アンロック	96
オートハイビーム	108
オートハイビーム表示灯	58
オートマチックブレーキホールド	208
オートマチックブレーキホールドシステム表示灯	62
オートマチックブレーキホールド表示灯	62
オートワイパー	113
オーバーヒート	260

か

鍵(かぎ)	91
ガソリン	221, 274
下部取付金具	39

き

キー	91
Honda スマートキー	91, 92
キーレスエントリー	94
後席ドアが開かない	271
ドアが開かない	271
内蔵キー	91
キーレスエントリー	94
給油	221
給油のしかた	221
指定燃料	221

く

空気圧	275
グラブレール	7
グローブボックス	124

け

計器	45
警告灯	47
12V バッテリー充電警告灯	51
ABS 警告灯	54
EPS システム警告灯	53
LKAS(車線維持支援システム)警告灯 (オレンジ)	55
PGM-FI 警告灯	52
VSA OFF 警告灯	55
VSA 警告灯	55
安全支援情報警告灯(オレンジ)	56
エアバッグシステム警告灯	26, 55
シートベルト非着用警告灯	54

渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・ クルーズ・コントロール)警告灯 (オレンジ)	54
トランスミッション警告灯	53
燃料残量警告灯	52
パワーシステム警告灯	51
ブレーキ警告灯(レッド)	47, 48
ブレーキシステム警告灯 (オレンジ)	49
けん引	267
減速セレクター	143

こ

交換

アクティブコーナリングライト 電球	230
後退灯電球	232
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯 電球	231
車外ドアハンドルランプ電球	233
制動灯、尾灯電球	230
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯 電球	230
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯 電球	230
デイトムランニングライト / 車幅灯電球	230
ハイマウントストップランプ 電球	233
番号灯電球	233
ヒューズ	266
フォグライト電球	230
ヘッドライト電球	230
ワイパーブレードドラバー	234
後退出庫サポート	213
高電圧バッテリー残量	87
高電圧バッテリー残量計	80
高電圧バッテリーの特性	150
後方誤発進抑制機能	164

後面方向指示器 / 後面非常点減 表示灯	231
コートフック	125
誤発進抑制機能	162
コンビニフック	126

さ

サービス診断記録装置	3
データの開示について	3
サイドエアバッグ	23
サイドカーテンエアバッグ	25
サングラスボックス	126
サンバイザー	7
サンルーフの開閉	102

し

シートの調節	
アームレスト	123
フロントシート	118
ヘッドレスト	122
リヤシート	120
シートヒーター	129, 130
シートベルト	13
アンカーポイント	18
シートベルトの着用	15
シートベルトの点検	18
シートベルト非着用警告灯	54
シートベルトプリテンショナー	14
シートベルトリマインダー	14
妊娠中のかたのシートベルト着用の しかた	17
室内装備品	124
室内灯	124
シフト操作	140
シフトポジション表示灯	58
車外ドアハンドルランプ	233
車線維持支援システム(LKAS)	183
ジャッキ	252
車両接近通報装置	146

ジャンプスタート	257
渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・ クルーズ・コントロール)	170
渋滞追従機能付 ACC 警告灯 (オレンジ)	54
渋滞追従機能付 ACC 表示灯 (グリーン)	59
充電専用 USB ジャック	128
仕様	274
衝突軽減ブレーキ(CMBS)	155
安全支援情報警告灯(オレンジ)	56
安全支援情報表示灯 (グリーン / グレー)	63
ショルダーアンカー	16

す

スイッチ	
ECON スイッチ	144
POWER スイッチ	104
オートマチックブレーキホールド スイッチ	208
ドライブモードスイッチ	145
パーキングブレーキスイッチ	204
ヒートッドアミラースイッチ	114
ライトスイッチ	105
リヤデフロスタースイッチ	114
ワイパー / ウォッシャー	112
スイッチ操作	
アクティブコーナリングライト	107
イルミネーションコントロール	114
オートハイビーム	108
ステアリング	116
ステアリングスイッチ	154
スノータイヤ	239
スパークプラグ	274

せ

清掃	240
制動灯	230
セキュリティシステム	98
イモビライザーシステム	98
セキュリティアラームシステム	98
表示灯	60
先行車発進お知らせ機能	194
センターコンソールボックス	124

そ

側面方向指示器 / 側面非常点滅	
表示灯	230
ソナーセンサー	203

た

タイヤ	236
指定空気圧	275
タイヤの点検	236
タイヤのローテーション	238
タイヤパンク応急修理キット	243
冬期のタイヤ	239
パンク	243

ち

チェーン	239
チャージメーター表示(CHARGE)	80
チャイルドシート	31
ジュニアシート	42
乳児のチャイルドシート	32
幼児のチャイルドシート	33
チャイルドブルーフ	96
駐停車操作	212

て

デイトムランニングライト	106
デイトムランニングライト / 車幅灯電球	230
デフロスター	
リヤデフロスタースイッチ	114
点火プラグ	274
電子制御パーキングブレーキ	204
電子制御ブレーキアシスト	211

と

ドアの施錠と解錠	91
Honda スマートキー	91, 92
キー	91
キーレスエントリー	94
後席ドアが開かない	271
車外でのドアの施錠 / 解錠	93
車内での施錠 / 解錠	95
チャイルドブルーフ	96
ドアが開かない	271
ドアミラー	117
ドアミラーウィンカー	8
冬期のタイヤ	239
スノータイヤ	239
タイヤチェーン	239
トップテザーストラップ	39
トップテザー取付金具	40
ドライバー注意力モニター	83
ドライビングポジションシステム	115
ドライブモードスイッチ	145
ドライブモード表示灯	61
トラブルシューティング	
アクセルペダルを踏んでもパーキング ブレーキが自動で解除できない	272
運転席ドアを開けるとブザーが 鳴る	271
オーバーヒートした	260
けん引してもらいたい	267
後席ドアが開かない	271

ジャンプスタートしたい	257
走行するとブザーが鳴る	272
ドアが開かない	271
パーキングブレーキスイッチを 押ししてもパーキングブレーキが 解除できない	272
パワーシステムが起動しない	254
パンクした	243
ヒューズが切れた	262
ブレーキを踏むと音がする	272
ブレーキを踏むと振動する	271
トランク	
トランクが開かないとき	270
トランクの開閉	97
トランスミッション警告灯	53
トランスミッションフルード	274
トリップメーター	82
ドリンクホルダー	125

な

内蔵キー	91
------	----

に

ニーエアバッグ	21
---------	----

ね

燃料	221
指定燃料	274
燃料計	80
燃料残量警告灯	52

は

パーキングセンサーシステム	216
排気ガスの危険性	44
ハイビーム	106
電球の交換	230
ハイビーム表示灯	58
ハイマウントストップランプ	233

ハザードスイッチ	4
パッシング	106
バッテリー	
12V バッテリー充電警告灯	51
ジャンプスタート	257
容量	274
パニティミラー	7
パワーウィンドーの開閉	100
パワーシステム	
ジャンプスタート	257
パワーシステムが起動しない	254
パワーシステムの起動	137
パワーシステム警告灯	51
パワー表示(POWER)	80
パワーフロー	87
パワーモード	104
パンク	243
番号灯	233
ハンドル	116
ハンドル位置調節レバー	116

ひ

ヒーテッドドアミラースイッチ	114
非常信号灯	242
非常点滅表示灯スイッチ	4
尾灯	230
ヒューズ	
各ヒューズの装備と容量	263, 265
ヒューズの設置場所	262, 264
ヒューズの点検と交換	266
標識認識機能	196
表示灯	58
EV 表示灯	62
EV モード表示灯	63
LKAS 表示灯(グリーン)	60
READY 表示灯	62
安全支援情報表示灯(グリーン/ グレー)	63
イモビライザーシステム表示灯	60

インフォメーション表示灯	59
オートハイビーム表示灯	58
オートマチックブレーキホールド システム表示灯	62
オートマチックブレーキホールド 表示灯	62
減速セレクター表示灯	58
シフトポジション表示灯	58
渋滞追従機能付 ACC 表示灯 (グリーン)	59
セキュリティアラームシステム作動 表示灯	60
ドライブモード表示灯	61
ハイビーム表示灯	58
方向指示器 / 非常点滅表示灯	58
ライト点灯表示灯	58

ふ

ブースターケーブル	258
フォグライト	106
ブザー	
運転席ドアを開けるとブザーが 鳴る	271
走行するとブザーが鳴る	272
フューエルリッドの開けかた	221
フューエルリッドが 解錠できないとき	269
ブラインドスポット インフォメーション	147
ブレーキ警告灯(レッド)	47, 48
ブレーキシステム	204
ABS(アンチロックブレーキ システム)	210
アクセルペダルを踏んでもパーキング ブレーキが自動で解除できない	272
エマージェンシーストップ シグナル	211
オートマチックブレーキ ホールド	208
電子制御パーキングブレーキ	204

電子制御ブレーキアシスト	211
パーキングブレーキスイッチを 押しでもパーキングブレーキが 解除できない	272
フットブレーキ	207
ブレーキ警告灯(レッド)	47, 48
ブレーキシステム警告灯 (オレンジ)	49
ブレーキを踏むと音がする	272
ブレーキを踏むと振動する	271
ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	49
ブレーキフルード	274
ブレーキ警告灯(レッド)	47, 48
フロントシート	118
フロントシートヒーター	129
フロントシートヘッド レスト	118, 122
フロントパワーシート	118
フロントセンサーカメラ	201

へ

ヘッドアップディスプレイ	89
表示の切り換えかた	90
ヘッドライト	105
オートハイビーム	108
電球の交換	230
ハイビーム表示灯	58
ライト点灯表示灯	58
ヘッドレスト	
フロントシート	118, 122
リヤシート	122

ほ

方向指示器(ウィンカー)	
方向指示器 / 非常点滅表示灯	58
ホーンスイッチ	5
歩行者事故低減ステアリング	166
ポップアップフードシステム	28
ホンダセンシング	153

ま

マスタードアロックスイッチ	96
マルチインフォメーション ディスプレイ	81
マルチインフォメーションディスプレイ 表示の切り換えかた	81
メッセージ	64

み

ミラー	117
自動式防眩ミラー	117
ドアミラー	117
パニティミラー	7
ルームミラー	117

め

メーター	
高電圧バッテリー残量計	80
チャージメーター表示 (CHARGE)	80
燃料計	80
パワー表示(POWER)	80
マルチインフォメーション ディスプレイ	81
メンテナンス	224
エンジンルーム内の メンテナンス	226
清掃	240
タイヤの点検と整備	236
メンテナンスを安全に 行うために	225
ライト類の点検と整備	230
ワイパーブレードラバーの点検と 整備	234

も

モード切り換え(エアコン)	132
---------------	-----

ら

ライトスイッチ	
オートハイビーム	108
オートハイビーム表示灯	58
ハイビーム	106
ハイビーム表示灯	58
フォグライト	106
ヘッドライト・車幅灯	105
ライト点灯表示灯	58
ライト類の点検と整備	230
アクティブコーナリングライト 電球	230
後退灯電球	232
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯 電球	231
車外ドアハンドルランプ電球	233
制動灯、尾灯電球	230
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯 電球	230
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯 電球	230
デイトタイムランニングライト / 車幅灯電球	230
ハイマウントストップランプ 電球	233
番号灯電球	233
フォグライト電球	230
ヘッドライト電球	230
ラジエーター	260

り

リアワイドカメラシステム	220
リザーブタンク	261
リムサイズ	275
リヤシート	120
リヤアウターシートヘッド レスト	122
リヤシートヒーター	130
リヤデフロスタースイッチ	114

リヤドアサンシェード 129

る

ルームミラー 117

れ

冷却水 261

 オーバーヒート 260

 補給 261

レーダーセンサー 202

ろ

路外逸脱抑制機能 190

わ

ワイパー/ウォッシャー 112

ワイパーブレードドラバー 234

ワイヤレス充電器 128

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず Honda 販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新の Honda 販売店を検索することが可能です。

Honda ホームページ <https://www.honda.co.jp>
(Honda ホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください)

携帯電話からは、携帯電話用 Honda ホームページをご覧ください。

<https://shopsearch.honda.co.jp/auto/area/>

※：QR コード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右の QR コードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。
QR コードは (株) デンソーウェアの登録商標です。



お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客 様相談センター
でもお受け致します。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

フリーダイヤル イフレイディオ
0120-112010

受付時間 9:00～12:00 13:00～17:00
〒351-0188 埼玉県和光市本町8-1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速に対応させていただくために、
あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談
ください。

- ① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日
- ② 車種名、タイプ名、走行距離
- ③ ご購入年月日
- ④ 販売店名